

西ヶ洞廃寺跡
中野山越遺跡
中野大洞平遺跡
大洞平5号古墳

2006

財団法人岐阜県教育文化財団

西 中 中 大
ケ の 野 洞
洞 山 やま
大 洞 5
平 号 ごう
廢 越 平 号
寺 遺 号 号
跡 跡 号 号
と せき ふん
あ せき せき

2006

財団法人岐阜県教育文化財団



中野大洞平遺跡4号住居跡出土弥生土器



大洞平5号古墳出土須恵器

大洞平5号古墳
↓



中野大洞平遺跡(A区)・大洞平5号古墳全景

序

岐阜県飛騨市は、平成16年2月1日に吉城郡古川町、河合村、宮川村、神岡町の2町2村が合併し、誕生しました。岐阜県の最北端に位置し、北は富山県に接しています。周囲を3,000mを越える北アルプス（飛騨山脈）などの山々に囲まれた地域で、市域の約92%を森林が占め、山々からわき出た水は清流となってこの地を育んでいます。市内には中部山岳公立公園をはじめ、^{天然}天県立自然公園や奥飛騨数河流葉県立自然公園などで知られる豊かな自然の宝庫です。また、ノーベル賞で有名な「スーパー・カミオカンデ」も所在し、最先端の宇宙科学の町としても知られています。

山々と清流の恵みは、縄文の昔から現在に至るまで、人々とこの地に入々の生活を根づかせる源となりました。遺跡の周辺を見渡すと、今回一部調査を行った中野山越遺跡は、縄文時代中期を代表する集落遺跡として有名で、かつての調査で出土した縄文土器は国の重要文化財に指定されています。また古墳時代では、豪華な馬具などが出土した信包八幡神社跡前方後円墳、二ツ塚と呼ばれる大洞平1・2号古墳、白鳳時代では多数の文字資料が出土した杉崎庵寺跡など注目すべき数多くの遺跡が密集しています。

このたび、岐阜県基盤整備部飛騨地域農山村整備事務所による県営農道整備事業（古川南部2期）に伴い、飛騨市古川町寺地に所在する西ヶ洞庵寺跡、飛騨市古川町中野に所在する中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平5号古墳の発掘調査を実施しました。

西ヶ洞庵寺跡は、平安時代の山林寺院跡で、建物の礎石や鍛冶に関連した遺構を確認しました。中野山越遺跡では、平安時代の竪穴住居跡を確認し、中野大洞平遺跡では縄文時代や奈良時代の竪穴住居跡とともに、飛騨地方では調査例の少ない弥生時代の方形周溝墓と竪穴住居跡を確認し、出土した弥生土器からは北陸地方との深いつながりがうかがわれます。また、大洞平5号古墳は、1辺20mの規模の方墳であることが判明しました。

本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、飛騨市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

財團法人 岐阜県教育文化財団
理事長 日比 治男

例　　言

- 1 本書は、飛騨市古川町寺地西ヶ洞に所在する西ヶ洞廃寺跡（岐阜県遺跡番号21217-06522）、飛騨市古川町中野山越に所在する中野山越遺跡（同21217-00165）、飛騨市古川町中野大洞平に所在する中野大洞平遺跡（同21217-06535）・大洞平5号古墳（同21217-06488）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営農道整備事業（古川南部2期）に伴うもので、岐阜県基盤整備部から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（平成14年度までは財團法人岐阜県文化財保護センター）が実施した。
- 3 西ヶ洞廃寺跡、中野山越遺跡、大洞平5号古墳の発掘調査は、八賀晋三重大学名誉教授の指導のもとに平成14年度に実施し、中野大洞平遺跡の発掘調査は、八賀晋三重大学名誉教授（平成14年度）、伊藤秋男南山大学教授（平成15年度）の指導のもとに平成14、15年度に実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆は、第1章の一部を森下茂司、第2章第1節を藤岡比呂志、第3～6章のうち繩文土器・石器を小谷和彦、それ以外は澤村雄一郎が行った。また編集は澤村が行った。
- 6 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、地形測量、空中写真測量などの業務は、平成14年度は（株）ユニオン、平成15年度は（株）興栄コンサルタントに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。なお、一部の遺物（西ヶ洞廃寺跡No.3, 16, 17, 105～109）については澤村が行った。
- 8 中野大洞平遺跡、西ヶ洞廃寺跡出土炭化物の放射性炭素年代測定、中野大洞平遺跡出土炭化物の樹種同定及び西ヶ洞廃寺跡出土鉄滓、刀子の成分分析は、パレオ・ラボ（株）に委託して行った。大洞平5号古墳出土金属製品の保存処理は、パリノ・サーヴェイ（株）に委託して行った。
- 9 発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
- 赤澤徳明、石黒立人、泉拓良、伊藤正人、岩田崇、牛丸岳彦、大石崇史、大野政雄、大平愛子、久保智康、下畠五夫、砂田清一郎、関清、田中彰、藤本健三、堀正人、松本優、三好清超
飛騨市教育委員会
- 10 本文中の方位は、国土座標VII系（日本測地系）の座標北を示している。
- 11 土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄2000『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

目 次

序	
例言	
目次	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と方法	1
第2章 遺跡の環境	9
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	9
第3章 西ヶ洞廃寺跡	13
第1節 基本層序	13
第2節 遺構と遺物	13
第4章 中野山越遺跡	32
第1節 基本層序	32
第2節 遺構と遺物	34
第5章 中野大洞平遺跡	37
第1節 基本層序	37
第2節 遺構と遺物の概要	41
第3節 A・B区の遺構と遺物	45
第4節 C・D・E区の遺構と遺物	77
第6章 大洞平5号古墳	82
第1節 墳丘・周溝	82
第2節 出土遺物	82
第7章 自然科学分析	89
第1節 はじめに	89
第2節 分析結果	89
第3節 考察	90
第8章 まとめ	93
第1節 西ヶ洞廃寺跡	93
第2節 中野山越遺跡	94
第3節 中野大洞平遺跡	94
第4節 大洞平5号古墳	96
遺構・遺物観察表	97
参考文献	111
写真図版	

図版目次

- 図版 1 西ヶ洞廐寺跡、全景・遺構
図版 2 西ヶ洞廐寺跡、遺構・遺物出土状況
図版 3 西ヶ洞廐寺跡、遺構・遺物出土状況
図版 4 中野山越遺跡、全景・遺構・遺物出土状況
図版 5 中野大洞平遺跡（A区）・大洞平5号古墳、全景
図版 6 中野大洞平遺跡（A区）、遺構・遺物出土状況
図版 7 中野大洞平遺跡（B区）、遠景・全景
図版 8 中野大洞平遺跡（B・C・D区）、遺構・遺物出土状況
図版 9 大洞平5号古墳、全景・遺物出土状況
図版10 西ヶ洞廐寺跡、出土遺物（1）
図版11 西ヶ洞廐寺跡、出土遺物（2）
図版12 西ヶ洞廐寺跡、出土遺物（3）
図版13 西ヶ洞廐寺跡、出土遺物（4）・砂田清一郎氏所蔵遺物
図版14 中野山越遺跡、出土遺物
図版15 中野大洞平遺跡、出土遺物（1）
図版16 中野大洞平遺跡、出土遺物（2）
図版17 中野大洞平遺跡、出土遺物（3）
図版18 中野大洞平遺跡、出土遺物（4）
図版19 中野大洞平遺跡、出土遺物（5）
図版20 中野大洞平遺跡、出土遺物（6）
図版21 中野大洞平遺跡、出土遺物（7）
図版22 中野大洞平遺跡、出土遺物（8）
図版23 中野大洞平遺跡、出土遺物（9）
図版24 中野大洞平遺跡、出土遺物（10）
図版25 大洞平5号古墳、出土遺物

挿図目次

第1図	西ヶ洞廐寺跡地形測量図	2
第2図	中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平古墳群と周辺地形	6
第3図	中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平5号古墳地形測量図	7
第4図	遺跡の位置と周辺の主な遺跡（1:25,000）	11
第5図	西ヶ洞廐寺跡基本層序	13
第6図	西ヶ洞廐寺跡全体図	15
第7図	1号鍛冶闇連遺構（SB1-SB2）・鍛冶炉1	17
第8図	1号鍛冶闇連遺構（SB1-SB2）・鍛冶炉2・3	18
第9図	1号鍛冶闇連遺構（SB1-SB2）出土遺物	18
第10図	2号鍛冶闇連遺構出土状況（SB3-SB4）	19
第11図	2号鍛冶闇連遺構（SB3-SB4）出土遺物（1）	20
第12図	2号鍛冶闇連遺構（SB3-SB4）出土遺物（2）	21
第13図	建物礎石（SI8-9-10-12）	22
第14図	建物礎石（SI3～7）	23
第15図	西ヶ洞廐寺跡、土坑（SK1～4・6～10）	24
第16図	その他の遺構（P5・P6・SK4・SK7・SI7）出土遺物	25
第17図	遺物包含層出土遺物（1）	26
第18図	遺物包含層出土遺物（2）	27
第19図	遺物包含層出土遺物（3）	28
第20図	遺物包含層出土遺物（4）	29
第21図	遺物包含層出土遺物（5）・砂田氏所蔵遺物	30
第22図	中野山越遺跡基本層序	32

第23図	中野山越遺跡全体図	32
第24図	1号住居跡(SB1)・カマド	33
第25図	1号住居跡(SB1)遺物出土状況	34
第26図	1号住居跡(SB1-SX1)出土遺物	36
第27図	中野大洞平遺跡(A~E区)基本層序	37
第28図	中野大洞平遺跡(C~E区)全体図	38
第29図	中野大洞平遺跡(A・B区)全体図	39
第30図	6号住居跡(108号)	46
第31図	6号住居跡(108号)遺物出土状況	47
第32図	6号住居跡(108号)出土遺物(1)	48
第33図	6号住居跡(108号)出土遺物(2)	49
第34図	4号住居跡(158号)	51
第35図	4号住居跡(158号)炭化材出土状況・断面図	52
第36図	4号住居跡(158号)遺物出土状況	53
第37図	4号住居跡(158号)出土遺物(1)	54
第38図	4号住居跡(158号)出土遺物(2)	55
第39図	5号住居跡(101号)遺物出土状況	57
第40図	2号住居跡(SB3)遺物出土状況	58
第41図	3号住居跡(SB5)・1号溝(SD9)・2号溝(SD10)	59
第42図	5号住居跡(108号)・2号住居跡(SB3)・3号住居跡(SB5)出土遺物	60
第43図	1号住居跡(SB4)	61
第44図	1号住居跡(SB4)遺物出土状況	62
第45図	1号住居跡(SB4)出土遺物	63
第46図	1号方形周溝墓(SZ2-SD2-SD3)遺物出土状況	64
第47図	1号方形周溝墓(SD2-SD3)断面図	65
第48図	2号方形周溝墓(SZ3-SD6~8)	66
第49図	2号方形周溝墓(SD6)遺物出土状況	66
第50図	1号方形周溝墓(SD2-SD3)・2号方形周溝墓(SD6-SZ3)・1号溝(SD9)出土遺物	67
第51図	A・B区遺物包含層出土遺物(1)	69
第52図	A・B区遺物包含層出土遺物(2)	70
第53図	A・B区遺物包含層出土遺物(3)	74
第54図	A・B区遺物包含層出土遺物(4)	75
第55図	A・B区遺物包含層出土遺物(5)	76
第56図	焼疊集積遺構(375号)	77
第57図	階段状遺構(376号)	78
第58図	階段状遺構(376号)断面図	79
第59図	C・D区遺物包含層出土遺物	80
第60図	E区遺物包含層・土坑(363号)出土遺物	81
第61図	大洞平5号古墳(SZ1-SD5)	83
第62図	大洞平5号古墳(SZ1-SD5)断面図	85
第63図	大洞平5号古墳(SZ1-SD5)遺物出土状況	86
第64図	周溝(SD5)出土遺物(2)	86
第65図	周溝(SD5)出土遺物(1)	87
第66図	埴丘及び周辺部出土遺物	88
第67図	各鉄鋤または刀子の外観形状、切断面、顕微鏡組織と分析位置	92

表目次

第1表	遺跡の位置と周辺の主な遺跡	10
第2表	西ヶ洞廃寺跡出土遺物数	13
第3表	西ヶ洞廃寺跡鍛冶関連遺構観察表	14

第4表	中野山越遺跡出土遺物数	32
第5表	中野山越遺跡竪穴住居跡観察表	35
第6表	中野山越遺跡縄文土器分類表	35
第7表	中野大洞平遺跡石器分類表	41
第8表	中野大洞平遺跡遺構（大洞平5号古墳含）出土遺物数	42
第9表	中野大洞平遺跡包含層出土遺物数	43
第10表	中野大洞平遺跡出土縄文土器分類表	44
第11表	中野大洞平遺跡竪穴住居跡観察表	45
第12表	中野大洞平遺跡方形周溝墓観察表	63
第13表	石器組成グラフ	71
第14表	大洞平5号古墳観察表	82
第15表	試料とその詳細	89
第16表	各試料中の組織や構成好物の特徴	90
第17表	典型的な部分の化学組成	90
第18表	西ヶ洞廐寺跡遺構観察表	97
第19表	中野山越遺跡遺構観察表	97
第20表	中野大洞平遺跡遺構観察表－1～6	97
第21表	西ヶ洞廐寺跡遺物観察表（土器）－1・2	103
第22表	西ヶ洞廐寺跡遺物観察表（石器・石製品）	104
第23表	西ヶ洞廐寺跡遺物観察表（金属製品）	104
第24表	中野山越遺跡遺物観察表（土器・縄文土器含）	105
第25表	中野山越遺跡遺物観察表（石器・石製品）	105
第26表	中野大洞平遺跡遺物観察表（大洞平5号古墳含、縄文以外の土器）	105
第27表	中野大洞平遺跡遺物観察表（縄文土器）－1・2	108
第28表	中野大洞平遺跡遺物観察表（石器・石製品）－1・2	109
第29表	中野大洞平遺跡遺物観察表（金属製品）	110

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

西ヶ洞廃寺跡は飛騨市古川町寺地に所在し、中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平5号古墳は飛騨市古川町中野に所在する。

飛騨市において、古川町と河合町を結ぶルートとして農免農道建設（県営農道整備事業（古川南部2期））が飛騨地域農山村整備事務所により計画された。工事予定地内にはかねてより西ヶ洞廃寺跡、中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平古墳群の存在が知られていた。

平成12年（2000）12月14日～15日、岐阜県教育委員会が中野山越遺跡及び中野大洞平遺跡の試掘確認調査を行った。中野山越遺跡では、堅穴住居跡、土坑、ピットなどの遺構、須恵器、土師器などの遺物が確認された。また中野大洞平遺跡では、堅穴住居跡、溝、ピットなどの遺構、弥生土器などの遺物が確認された。この結果を受けて、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会で、中野山越遺跡120m²及び中野大洞平遺跡3,350m²の本発掘調査が必要であると判断された。

平成13年11月15日、岐阜県教育委員会が西ヶ洞廃寺跡の試掘確認調査を行い、石列、平坦面、焼土などの遺構、須恵器、土師器、灰釉陶器などの遺物を確認した。この結果を受けて、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会で、西ヶ洞廃寺跡500m²の本発掘調査が必要であると判断された。

発掘調査は、岐阜県基盤整備部飛騨地域農山村整備事務所による県営農道整備事業（古川南部2期）に伴うものである。平成14年度に西ヶ洞廃寺跡、中野大洞平遺跡（A区）、大洞平5号古墳、中野山越遺跡、平成15年度に中野大洞平遺跡（B～E区）について岐阜県基盤整備部農村環境室から岐阜県教育委員会が委託を受け、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（平成14年度までは財団法人岐阜県文化財保護センター）が実施した。

第2節 調査の経過と方法

(1)西ヶ洞廃寺跡

本発掘調査は平成14年5月14日より開始し、平成14年12月6日に終了した。

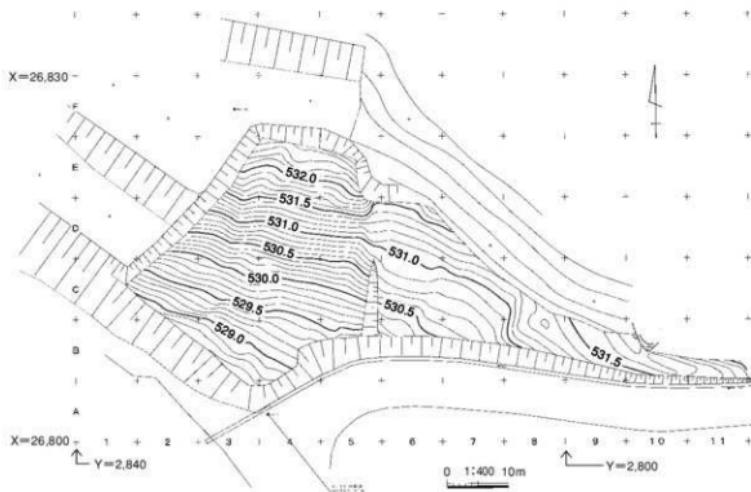
グリッドの設定は、日本測地系の国家座標を基準にして5m×5mに区画し、西から東に1～11（算用数字）、南から北にA～F（アルファベット）を割り当てた。グリッド名は、算用数字とアルファベットを組み合わせ、「1 A」「2 B」などと呼称することとした（第1図）。

遺構名は、遺構の性格を想定し、遺構記号と番号の組み合わせで表した。

重機により表土を除去した後、人力掘削にて遺構の検出、掘削を行った。遺跡全体図は、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量（縮尺1/40）により図化・記録した。遺構の平面図や断面図は1/10、1/20の縮尺で図化・記録した。出土遺物は1点ごとに出土地点を記録した上で取り上げた。

調査の経過は以下のとおりである。

第1週（5/14～5/17） 重機による表土掘削。遺物包含層掘削。写真撮影。



第1図 西ヶ洞庵寺跡地形測量図

第2～5週（5/20～6/14） 遺物包含層掘削及び遺構検出。写真撮影。

第6～9週（6/17～7/19） 遺物包含層掘削、遺構検出及び遺構掘削。遺構実測。写真撮影。7/12
三重大学名誉教授八賀晋氏現場指導。7/18空撮。空撮後、遺構の断ち割り。

第10・11週（7/22～8/2） 調査区西側を重機による表土掘削。遺物包含層掘削及び遺構検出。写真
撮影。遺構の断ち割り。遺構実測。8/2調査区西側の空撮。

9/13 富山県埋蔵文化財センター所長代理閔清氏現場指導。

11/16 現地公開開催（参加者8名）

12/6 埋め戻し。

(2)中野山越遺跡

本発掘調査は平成14年11月13日より開始し、平成14年12月26日に終了した。

調査面積が120m²と限定された範囲に限られたため、グリッドは設定しなかった。ただし、遺物の
取り上げ、測量は日本測地系の国家座標を基準として行った。遺構名は、遺構の性格を想定し、遺構
記号と通し番号で表した（第3図）。

重機により表土を除去した後、人力掘削にて遺構の検出、掘削を行った。遺構の平面図、断面図は
主に1/10、1/20の縮尺で図化・記録した。出土遺物は、1点ごとに出土地点を記録した上で取り上
げた。

調査の経過は以下のとおりである。

- 第1週（11/13～11/15） 重機による表土掘削。
- 第2週（11/18～11/22） 遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削。写真撮影。
- 第3・4週（11/25～12/6） 遺構掘削。写真撮影。12/6現場事務所撤収。
- 第5～7週（12/9～12/26） 遺構実測。12/26埋め戻し。

（3）中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳

中野大洞平遺跡の調査は、平成14、15年度に行った。14年度はA区、15年度はB・C・D・E区を調査した。大洞平5号古墳は中野大洞平遺跡内に立地し、墳丘の一部及び周溝が調査対象となった。

グリッドは、日本測地系の国家座標を基準にして10m×10mに区画し、西から東にC～K（アルファベット）、南から北に2～6（算用数字）を割り当てた。グリッド名は、算用数字とアルファベットを組み合わせ、「2C」「3D」などと呼称することとした。15年度は14年度調査における座標軸を基準とした。B区においてはA区のグリッド配置を踏襲し、西から東にK～M（アルファベット）、南から北に1～4（算用数字）を割り当てた。また、C・D・E区に関しては、14年度調査における座標軸を基準とし、東から西にC'～S'（アルファベット）、南から北に3～8（算用数字）を割り当てた。このように調査区全体を網羅する10m四方のグリッドを割り付け、算用数字とアルファベットを組み合わせたグリッド名（「3K」「3D」など）を呼称することとした（第3図）。

（平成14年度）

平成14年度の発掘調査は、平成14年7月30日より開始し、平成14年12月25日をもって終了した。

中野大洞平遺跡及び大洞平5号古墳周溝は、重機により表土を除去した後、人力にて遺構の検出、掘削を行った。大洞平5号古墳墳丘は全て人力にて掘削を行った。遺構名は遺構の性格を想定し、遺構記号と番号の組み合わせで表した。

遺跡の全体図は、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量（縮尺1/40）により図化・記録した。遺構の平面図や断面図は1/10、1/20の縮尺で図化・記録した。遺物の取り上げについては、遺構の出土遺物は出土地点を記録した上で取り上げた。遺構以外の出土遺物は、グリッドごとに取り上げた。

調査の経過は以下のとおりである。

- 第1週（7/30～7/31） 中野大洞平遺跡西側から重機による表土掘削。
- 第2週（8/5～8/9） 中野大洞平遺跡遺物包含層掘削。遺構検出。写真撮影。
- 第3週（8/19～8/23） 中野大洞平遺跡遺物包含層掘削。遺構検出、大洞平5号古墳周溝検出。写真撮影。8/21三重大学名誉教授八賀晋氏現場指導。
- 第4～11週（8/26～10/25） 中野大洞平遺跡遺物包含層掘削、遺構検出。遺構掘削。大洞平5号古墳周溝掘削。遺構実測。写真撮影。
- 第12・13週（10/28～11/8） 中野大洞平遺跡、大洞平5号古墳遺構掘削。遺構実測。写真撮影。
- 11/9現地説明会開催（参加者62名）。
- 第14週（11/11～11/22） 中野大洞平遺跡遺構掘削。遺構実測。写真撮影。11/20空撮。
- 第15・16週（11/25～12/6） 大洞平5号古墳断ち割り。遺構実測。写真撮影。11/29南山大学教授伊藤秋男氏現場視察。12/6現場事務所撤収
- 第17～19週（12/9～12/25） 遺構実測。12/25埋め戻し

(平成15年度)

平成15年度の発掘調査は平成15年5月9日より開始し、平成15年11月7日に終了した。

遺構名は15年度の調査では遺構記号は付けず、101からの通し番号で表すこととした。

遺構の掘削は、表土等を重機により掘削した後、人力掘削にて検出、掘削を行った。遺構の出土物は、出土地点を記録した上で取り上げた。遺構以外の出土遺物は、グリッドごとに取り上げた。

遺跡の全体図及び竪穴住居跡平面図は、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量（縮尺1/20、1/40）により図化・記録した。その他の遺構の平面図や断面図などは主に1/10、1/20の縮尺で図化・記録した。15年度調査地点のうち、C区及びD区は大洞平4号古墳と隣接するため4号古墳に伴う遺構の存在も予想されたが、調査の結果、4号古墳に伴う遺構は確認されなかった。

調査の経緯は以下のとおりである。

第1～3週（5/9～5/23） B区調査開始、重機による表土掘削。表土掘削後、遺構検出。

第4～6週（5/26～6/13） B区遺構掘削、写真撮影、Ⅲ層掘り下げ。

第7～10週（6/16～7/11） B区Ⅲ層掘り下げ、写真撮影、遺構実測、6/18空撮。E区重機による表土掘削。6/23C区重機による表土掘削開始、E区遺構検出開始。7/9D区重機による表土掘削。

第11週（7/14～7/18） C区遺物包含層掘削。

第12週（7/22～7/25） C区重機による表土再掘削。

第13・14週（7/28～8/8） C・E区重機による表土掘削、遺構検出、遺構掘削、写真撮影、遺構実測。

8/8 白川村平瀬小学校発掘体験（生徒4名、引率教諭1名）。

第15～21週（8/18～10/3） C・D・E区遺構検出、遺構掘削、写真撮影、遺構実測。

8/22 地域住民対象の調査中間報告（浄徳寺にて、参加者70名）。

8/25 飛驒地域農山村整備事務所現地研修会（32名）。

第22・23週（10/6～10/17） D・E区遺構検出、遺構掘削、遺構断ち割り、写真撮影、遺構実測。10/8C・E区空撮。10/15E区調査完了区域より埋め戻し開始。

第24週（10/22～10/24） B・D区現況準備。10/22三重大名誉教授八賀晋氏現場視察。10/24南山大学教授伊藤秋男氏現場指導。古川町文化財審議委員現場視察（10名）。

10/25 現地説明会開催（参加者124名）。

第25・26週（10/27～11/7） B区遺構断ち割り、写真撮影、遺構実測。D・E区埋め戻し。11/4D区空撮。11/7現場撤収。

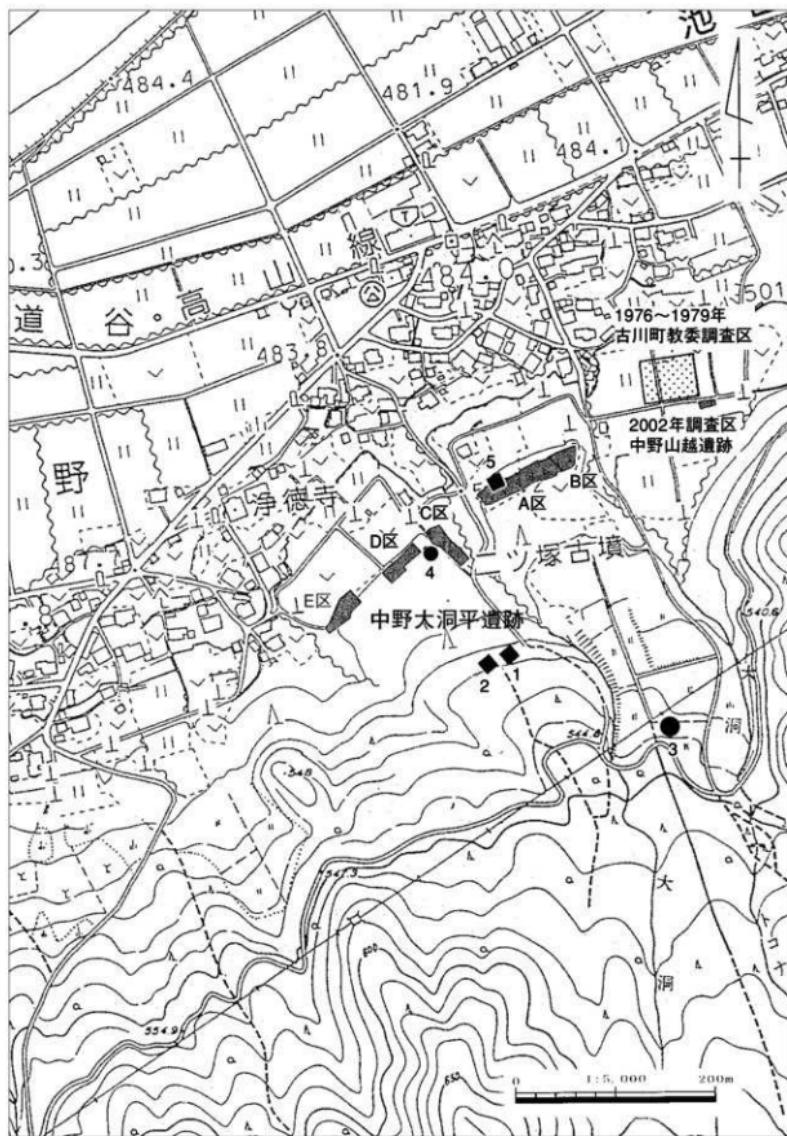
なお、出土遺物の一次整理は、現場作業終了後に飛驒出張所において行った。

以後、財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター飛驒出張所において、整理作業及び報告書作成を行った。

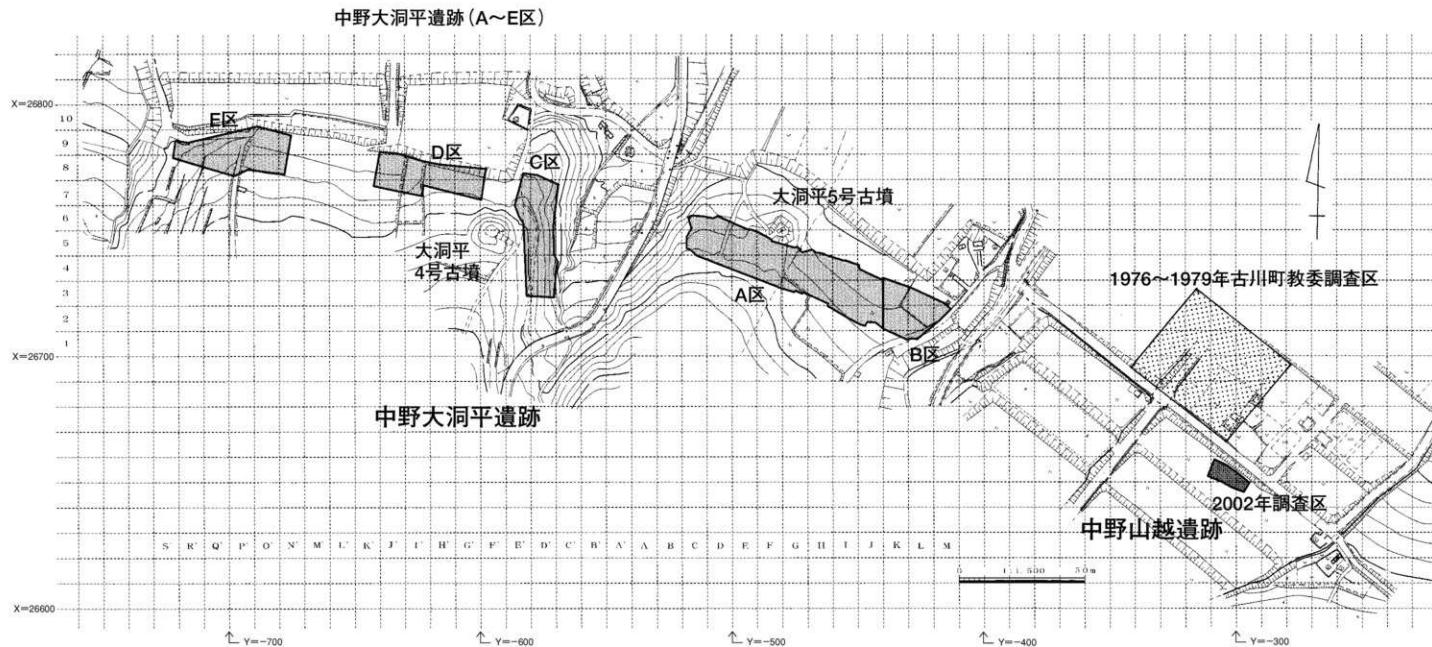
発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
理事長	服部卓郎	日比治男	日比治男
副理事長		高橋宏之	高橋宏之
副理事長		平光明彦	平光明彦

専務理事兼事務局長	成戸宏二	
常務理事兼センター所長		福田安昭
常務理事兼経営部長	福田安昭	
経営部次長兼経営課長	福田熙行	
経営課長		川瀬崇敏
調査部長	武藤貞昭	川部 誠
調査部次長	片桐隆彦	
飛騨出張所長	上原真昭	小谷和彦
担当調査員	森下茂司	澤村雄一郎
整理作業従事者	上田里香、垣添敦子、清田由美子、瀬戸幸子、田井孝子、所洋子、前畠裕美、村田明美、柚村幸子、横山美寧子、脇潤純子	



第2図 中野山越遺跡・中野大洞遺跡・大洞平古墳群と周辺地形
(「吉城郡古川町全図」(1:15,000)を拡大し作成、数字は古墳番号を表す。)



第3図 中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳地形測量図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

西ヶ洞廃寺跡、中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平古墳群周辺における平坦地や緩斜面は、宮川の南側では次の4か所があげられる。①宮川が形成した宮川沿いの平坦地、②当遺跡が存在する中野の扇状地、③中野の扇状地と比べると小規模な下野の扇状地、④信包、黒内、笹ヶ洞、寺地周辺に広がる扇状地と谷底平野である。

宮川の南側は主に濃飛流紋岩と呼ばれる岩体からなっており、非常に硬く、風化もしにくいため、平坦地は形成されにくい。その中で、1km四方程度のやや広い扇状地が存在するのは中野と黒内のみである。中野と黒内周辺に扇状地が広がっているのは、いずれも断層が関わり、供給物が多いためだと考えられるが詳細は不明である。中野大洞平遺跡の北側約100mに見られる露頭では、泥質の基質部分に角礫が乱雑に入っているのが観察できた。角礫の大きさは多くが20cm以下の径であり、中には長径が1m弱のものもあった。土石流堆積物の様相を呈している。

西ヶ洞廃寺跡は、飛驒市古川町市街から西北西へ約5kmの古川町寺地に位置する。寺地は殿川が形成した谷底平野である。当廃寺跡は、小規模な扇状地と谷底平野の境界部に存在している。当廃寺跡周辺も、濃飛流紋岩が基盤岩となっている。

中野山越遺跡、中野大洞平遺跡、大洞平古墳群は、飛驒市古川町市街から西北西へ約2.5kmの古川町中野に位置する。これらの遺跡は現在の中野の集落がある扇状地上に存在する。その扇状地は、南から北に流れる何本もの宮川の支流によって形成されており、ほぼ北向きの緩斜面を造っている。西北西－東南東に約2km、南南西－北北東に約0.4～1kmの広がりを持っている。遺跡は北向きの緩斜面に立地するが、遺跡真南の山頂の標高がその東西に連なる山頂の標高に比べてやや低いため、この緩斜面の日当たりは良い。

第2節 歴史的環境

今回調査した遺跡の所在する宮川左岸の古川町中野・信包・寺地地区と、その対岸に当たる宮川右岸の古川町杉崎・太江地区では縄文時代から中近世に至るまで数多くの遺跡が知られている（第4図、第1表）。

縄文時代 宮川左岸の扇状地には、中野西ヶ洞遺跡、中野宮ヶ洞遺跡、中野トンビケ洞遺跡などの遺物散布地が点在する。中野山越遺跡は、昭和51年(1976)～54年(1979)に古川町教育委員会（当時）による3次にわたる発掘調査で、縄文時代中期～後晩期及び平安時代の集落跡が確認され、その出土品362点は国の重要文化財に指定されている。また宮川右岸では、岡前遺跡は平成6年(1992)に当センターが調査を行い縄文時代から平安時代の集落跡を確認している。また、御番屋敷遺跡では昭和29年(1954)に縄文時代中期の竪穴住居跡が発見され、「御番屋敷先史時代住居跡」として県史跡に指定されている。

弥生時代 中野大洞平遺跡の周辺では弥生時代遺跡は確認できない。飛騨地方全体では、塚田遺跡、安城寺遺跡、箕輪石橋遺跡、赤保木遺跡、薬師野遺跡、向畠遺跡（以上高山市）などが発掘調査されている。これらの遺跡は、いずれも弥生時代中～後期に位置づけられる。塚田、安城寺遺跡では北陸系の「月影式」土器が確認されている。また、調査例は限られるが、弥生時代中期後半には飛騨独自の弥生土器（横羽状文壺）が出現する。外面に施された横方向の矢羽状沈線が特徴的な壺である。1936・1937年に赤木清、吉田富夫、杉原莊介などにより紹介され、「西ノ山式（乃至新宮式）」という型式名も用いられている（赤木1937a・b、杉原1937、吉田1936）。近年では石川日出志が横羽状文壺について、飛騨独自の土器型式として「内垣内式」を提唱している（石川1995）。

古墳時代 宮川左岸の古墳を概観する。宮川を望む河岸段丘上に古墳が集中する。信包八幡神社跡前方後円墳（以下、信包八幡神社古墳といふ）は河岸段丘上に立地する全長64mの前方後円墳である。6世紀前半の築造と考えられる。飛騨における導入期の横穴式石室として知られ、県史跡に指定され

第1表 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地（飛騨市）	種別	時代	備考
1	大洞平1号古墳	00166	古川町中野大洞平	古墳	古墳	県史跡
2	大洞平2号古墳	00167	古川町中野大洞平	古墳	古墳	県史跡
3	大洞平3号古墳	00168	古川町中野大洞平	古墳	古墳	
4	大洞平4号古墳	06487	古川町中野大洞平	古墳	古墳	
5	大洞平5号古墳	06488	古川町中野大洞平	古墳	古墳	
6	中野大洞平遺跡	06535	古川町中野大洞平	散布地	縄文～平安	
7	中野山越遺跡	00165	古川町中野山越	住居跡	縄文～平安	国重文
8	西ヶ洞庵寺跡	06522	古川町寺地西ヶ洞	寺院跡	平安	
9	信包中原田古窯跡	06516	古川町信包中原田	古窯跡	奈良	
10	信包八幡神社跡前方後円墳	00149	古川町信包八幡	古墳	古墳	県史跡
11	岡前遺跡	00150	古川町杉崎御構	散布地	縄文・平安	
12	杉崎庵寺跡	00151	古川町杉崎淡原	寺院跡	白鳳	県史跡
13	稻荷神社古墳群	00153, 00154, 06480	古川町杉崎天神洞	古墳	古墳	
14	太江多度古墳群	00155～00157, 06481～06485	古川町太江多度	古墳	古墳	
15	太江前平古墳群	00158, 00159	古川町太江前平	古墳	古墳	
16	太江遺跡、寿楽寺庵寺跡	09274, 09275	古川町太江	集落跡、寺院跡	古墳・平安・白鳳	
17	御香屋敷遺跡	00152	古川町太江御香屋敷	集落跡	縄文	県史跡
18	太江中ヶ野古墳群	00161～00163, 06486	古川町沼町東洞	古墳	古墳	
19	小島城跡	00164	古川町沼町前平	城館跡	中世	県史跡
20	中野宮田古墳	06530	古川町中野宮田	古墳	古墳	
21	中野西ヶ洞遺跡	06532	古川町中野西ヶ洞	散布地	縄文	
22	中野宮ヶ洞遺跡	06531	古川町中野宮ヶ洞	散布地	縄文	
23	中野トンビヶ洞遺跡	06533	古川町中野トンビヶ洞	散布地	縄文	
24	中野祢宜ヶ洞古墳	06534	古川町中野祢宜ヶ洞	古墳	古墳	
25	中野山越古墳群	06536～06547	古川町中野大洞	古墳	古墳	
26	寺地西ヶ洞古墳群	06523, 06524	古川町寺地西ヶ洞	古墳	古墳	
27	高野光泉寺古墳	00200	古川町高野光泉寺	古墳	古墳	県史跡
28	高野水上古墳	00199	古川町高野水上	古墳	古墳	県史跡
29	向小島城跡	00147	古川町信包	城館跡	中世	県史跡
30	小鷹利城跡	00146	古川町信包	城館跡	中世	県史跡 分布図

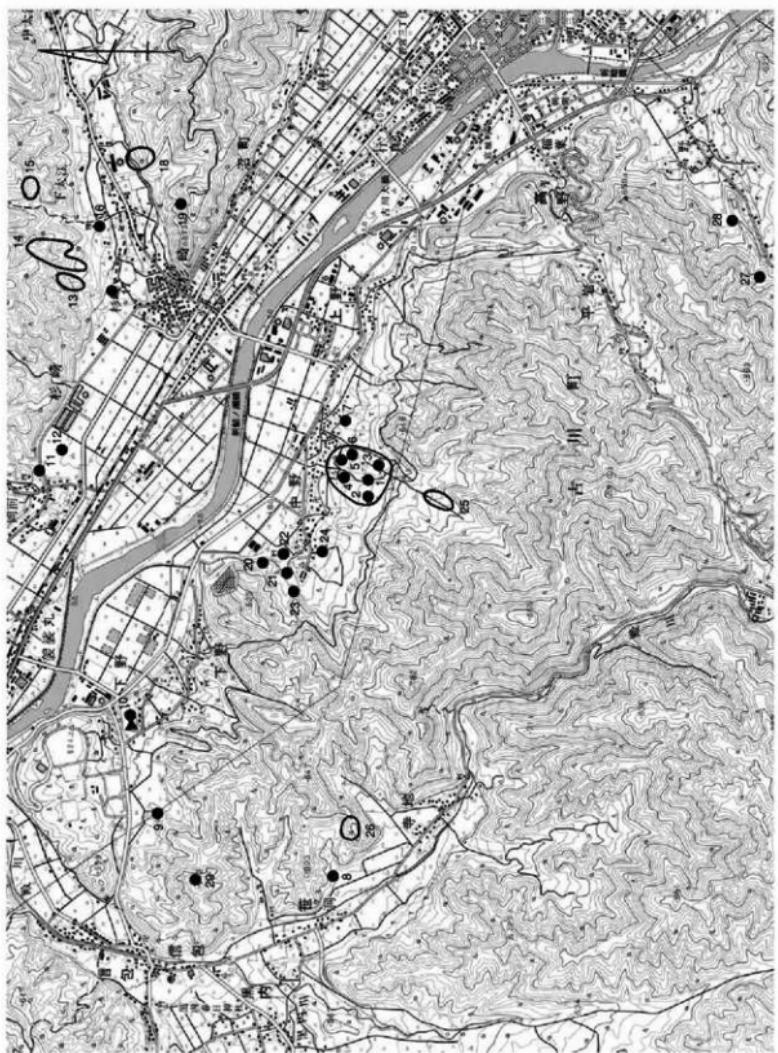


図4 国道の位置と周辺の主要な道路(1:25,000)

ている。大洞平古墳群^(註1)は、点在する5基の古墳に3基の方墳が含まれる^(註2)。いずれも6世紀末から7世紀初頭の築造と考えられる。「二ツ塚」と呼ばれる1・2号古墳が県史跡に指定されている。この大洞平古墳群の周辺には中野宮田古墳、中野山越古墳群などが点在する。西ヶ洞廃寺跡の南東には寺地西ヶ洞古墳群が位置する。また、大洞平古墳群の南には、巨石を用いた横穴式石室を持つ高野光泉寺古墳、高野水上古墳が知られている。両古墳とも7世紀の築造と考えられ、県史跡に指定されている。宮川右岸では、太江地区を望む北側及び南側の丘陵に古墳が集中する。太江多度古墳群、太江前平古墳群、太江中ヶ野古墳群などが点在している。

白鳳～平安時代 飛驒地方は白鳳期の古代寺院の集中する地域として知られている。古代寺院と古墳時代終末期の大型方墳や巨石を用いた横穴式石室墳との関連が注目される。調査遺跡周辺では宮川右岸に2か寺が所在する。寿楽寺廃寺跡は、飛驒地方で最古の創建と考えられる寺院跡で、西暦686年に新羅僧行心^(著者)が大津皇子の謀反に関わったとして配流された「飛驒国伽藍」と考えられている。発掘調査により、「高家寺」の墨書のある須恵器、鶴尾、塑像などが出土している。杉崎廃寺跡は、創建年代は寿楽寺廃寺より遅ると考えられる。発掘調査により塔・金堂・講堂・中門・鐘楼・僧坊を備えた整然とした伽藍配置が確認され、「見寺」と墨書のある須恵器、木簡などが出土している。これらの寺院跡と関連して、瓦と須恵器を焼成した信包中原田古窯跡が知られている。

古代の集落跡として、宮川右岸では岡前遺跡、左岸では中野山越遺跡などがあげられる。岡前遺跡では、平安時代の堅穴住居跡が確認されている。飛驒地方で初となる「和同開珎」の出土が注目される。中野山越遺跡では、平安時代の堅穴住居跡が確認されている。西ヶ洞廃寺跡では「十能寺」と線刻された須恵器や、灰釉陶器が採集されており、平安時代の山林寺院跡として以前より知られていた。平安時代の山林寺院跡は飛驒地方では確認例はないが、北陸（越前・加賀）地方では、多くの山林寺院跡が確認され、白山信仰との関連や国府周辺や郡境・国境に濃密に分布することが指摘されている。

中世 南北朝期にはこの地域は飛驒国司鈴小路氏の本拠地となる。下呂市周辺は飛驒国守護京極氏、飛驒市神岡町周辺は江馬氏の勢力下におかれなど、鈴小路氏の勢力は飛驒全域におよぶものではなかったようである。調査遺跡周辺には、小島城跡、向小島城跡、小鷹利城跡が鈴小路氏と関わりの深い城館跡として知られている。小島家一小島城跡は小島家（鈴小路家嫡流）の居城跡、向小島城跡は向氏（鈴小路家支流）の居城跡、小鷹利城跡は小鷹利氏（鈴小路家支流）の居城跡である。3城館跡とも県史跡に指定されている。

(註1)「大洞平」の読み方は、県史跡に登録されている読みは「おおばらだいら」である。また飛驒市役所で確認した結果、市では「おおばらだいら」と読む。ただし地元では古くから「おおひら」の読み方を用い、大洞平古墳群は「おおひらこふんぐん」と呼ぶことが多い。ここでは「おおばらだいら」と読むことにする。

(註2)大洞平1号古墳、2号古墳の墳形について、県史跡では1号古墳は円墳、2号古墳は方墳と登録されている。現地観察の結果、1号古墳の墳形は「方墳」との結論に達した。伊藤秋男南山大学教授も、現地観察の結果から方墳と判断している。これらの結果を受けて1号古墳の墳形は方墳として扱うこととする。したがって、調査した5号古墳を含めた3基が方墳となる。

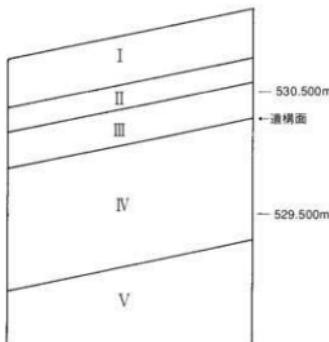
第3章 西ヶ洞廃寺跡

第1節 基本層序（第5図）

西ヶ洞廃寺跡は、丘陵裾の傾斜角約20度の緩斜面上に立地する。緩斜面上には土砂の流れ込みにより、地山層の上に厚い堆積が認められる。表土（I層一層厚40cm）は畑作に伴う耕作土である。遺物包含層（II・III層一層厚50cm）は、2層に分かれる黒褐色土で、須恵器、灰釉陶器を包含する。II層とIII層は包含される遺物に明確な時期差などは認められない。遺構は、遺物包含層の下に堆積する黒色土（遺構基盤層：IV層一層厚1m）上面で確認した。地山（V層）は、黄褐色土である。

第2節 遺構と遺物

西ヶ洞廃寺跡では、丘陵裾の緩斜面上で2基の鍛冶関連遺構、大型建物礎石3基、建物礎石13基、土坑9基、ピット8基を確認した。遺構はいずれもIV層上面で検出している。出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、石器、石製品、金属製品（鉄滓含む）が合計1,817点出土している（第2表）。



基本層序

- I 表土、暗褐色土, 10YR3/3。
- II 遺物包含層、黒褐色土, 10YR2/3。
- III 遺物包含層、黒褐色土, 10YR2/2。
- IV 遺構基盤層、黒色土, 7.5YR2/1。
- V 地山、黄褐色土, 10YR5/8。

第5図 西ヶ洞廃寺跡基本層序

第2表 西ヶ洞廃寺跡出土遺物数

	遺構・グリッド	縦文	弥生	土師	須恵	灰釉	陶器	石	金属	合計
1号鍛冶 関連遺構	SB1			14	18	25	8	4	69	
	SB2							1	6	7
2号鍛冶 関連遺構	SB3			36	49	27	3	1	27	141
	SB4			8	6	1	3			16
遺構建石	SI2								1	1
	SI3			4	26	2				32
	SI4			1	4					5
	SI7				5		1			6
	SK4				2				1	3
	SK6				1					1
土 壌	SK7			1	3	2	1	1	1	9
	SK8					1				1
	SK9				2					2
	P2				1					1
ビット	P4					2				2
	P5			1	1					2
	P6				2	3				5
	2F				1					1
	3B			1	7	4		1		13
	3C			1	9	10	2			22
	3D			9	16	20	5	4		54
	3E			10	27	16	3	1	7	64
遺 物 包 含 層	3F			1	6	35	13	1	1	57
	4B				3	14	12	6	1	36
	4C				5	27	13	7	2	54
	4D			90	141	69	13	1	3	313
	4E			7	43	32				82
	5B			1	12	3	2	1		19
	5C			13	76	59	11	2	1	162
	5D			29	159	117	14	4	1	324
	5E			1	9	3				13
	6B					1				1
	6C			12	85	44	4	2		147
	6D				6	21	29	1		57
	7C					2	3			5
	不明			20	27	25	6	2	10	90
合 計	0	1	280	829	533	87	19	68	1,817	

専用文：縞文土器、弥生：弥生土器、土師：土師器、須恵：須恵器、灰釉：灰釉器、陶器：陶器類、石器：石器、石製品、金属：金属製品

(1)1号鍛治関連遺構 (SB1・2)

遺構（第7・8図） 調査区の南側で確認し、IV層上面で検出した。不整形な平面プランで2段（上段：SB1、下段：SB2）に掘り込まれる。上段部(SB1)床面は平坦であるが、下段(SB2)は15度の緩やかな傾斜となる。埋土中には焼土、礫などが含まれる。柱穴は確認していない。上段部と下段部の境付近で3基の鍛冶炉1～3を確認した。鍛冶炉1は埋土中に焼土、鉄滓を含み、埋土上層で鉄床石かねとういしが出土した。鍛冶炉2・3とも埋土上層で被熱した石が出土した。

出土遺物（第9図） 遺構からは土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、石製品、金属製品（鉄滓含む）が合計76点出土した。灰釉陶器の碗(1・2)と製塙土器(3)は遺構埋土中から、鉄床石(4)は鍛冶炉1から出土している。製塙土器は先端部の角が短く作られ、北陸地方の製塙土器に類似する。外面には成形時の指圧痕が残る。鉄床石の石材は溶結凝灰岩である。表面には被熱とともに、槌状工具による殴打痕と考えられる多くの段が確認できる。

(2)2号鍛治関連遺構 (SB3・4)

遺構（第10図） 1号鍛治関連遺構の東約10mの位置で確認し、IV層上面で検出した。1号鍛治関連遺構と同じ構造で、不整形な平面プランで2段（上段：SB3、下段：SB4）に掘り込まれる。上段部(SB3)床面は平坦であるが、下段(SB4)は10度の緩やかな傾斜となる。埋土中には焼土、炭化物などが含まれる。柱穴、鍛冶炉は確認していない。SB3の床面には基盤層に深く入り込んだ大きな石が3か所で露出している。作業台として使用された可能性もある。

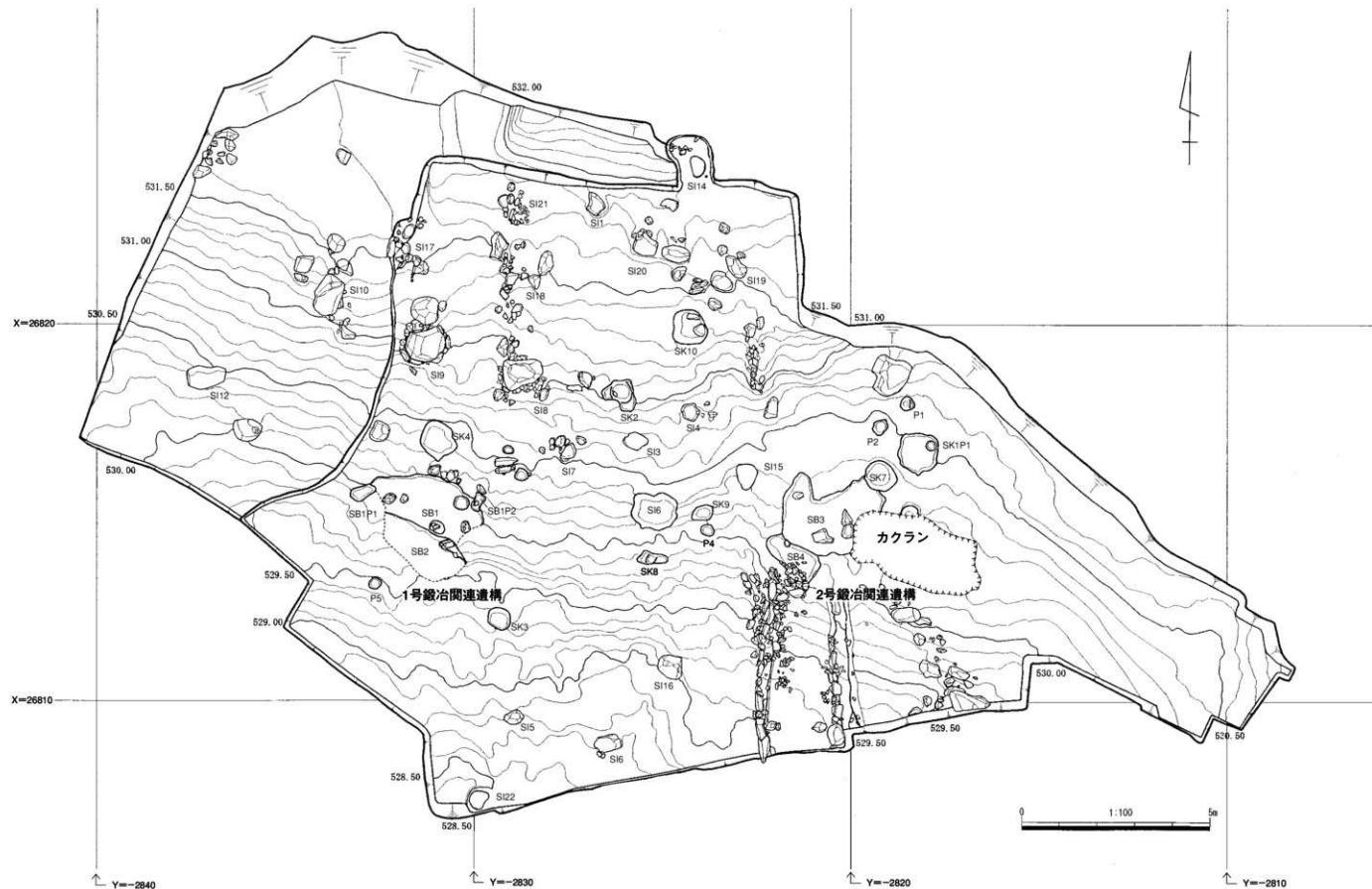
出土遺物（第11・12図） 遺構からは土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、石製品、金属製品（鉄滓含む）が合計157点出土した。須恵器は壺(5)、有台盤(6)、無台碗(7・8)である。有台盤(6)は供献从具の可能性もある。無台碗(8)は糸切りが施されず、胎土も粗く、焼成も甘い。灰釉陶器は無台皿(9)と段皿(10)である。土師器壺(11)にはロクロによる外面調整が施される。砥石(12)は、重機による表土掘削中にSB3の上層で確認した。石材は砂岩である。全体に被熱し、上面と側面は研磨の痕が確認できる。大型の砥石で、据えた状態で荒砥として使用された可能性がある。鉄滓(14～17)には椀形鉄滓(17)も含まれる。

第3表 西ヶ洞廃寺跡鍛治関連遺構観察表

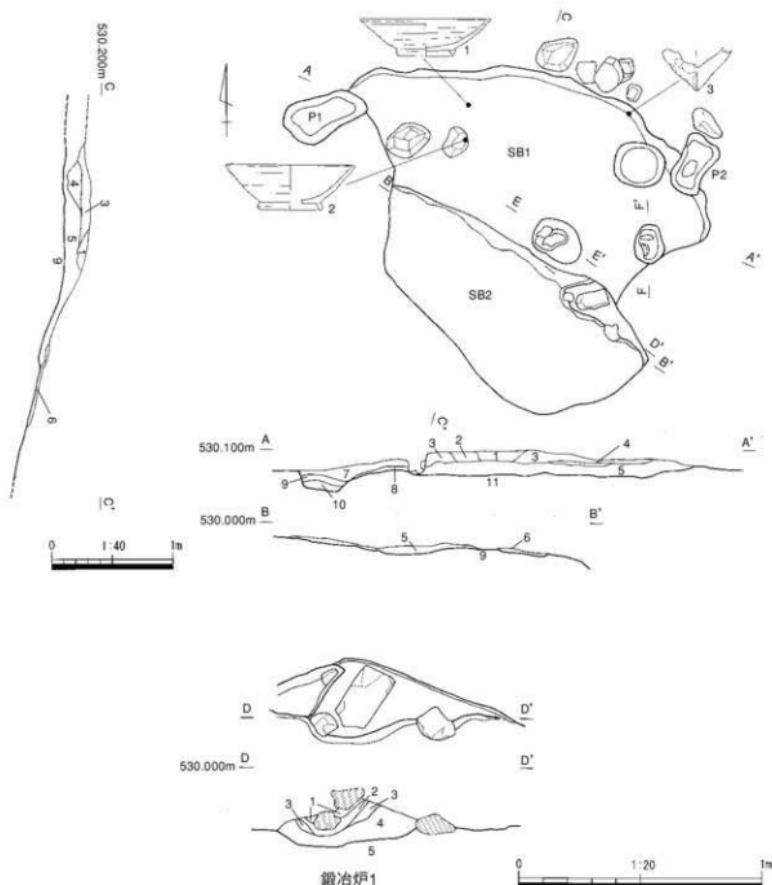
遺構名	グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形	幅(m)	奥行(m)	深さ(m)	周溝	鍛冶炉	柱穴	時代
1号鍛治 関連遺構	SB1・2	3C・4C	530.0	N・18°・E	不整形 2段	3.1	2.5	0.4	無	3	不明 平安
2号鍛治 関連遺構	SB3・4	5C・6C	530.3	N・46°・E	不整形 2段	2.6	3.1	0.3	無	無	不明 平安

(3)大型建物礎石 (SI8～10)

遺構（第6・13図） 1号鍛治関連遺構の北側で確認し、IV層上面で検出した。幅1m、高さ50cm程度の巨石がほぼ一直線上に並ぶ。巨石間の距離は2m70cmを測る。巨石は根石と思われる人頭大の礎の上に据えられた状態で確認した。石の大きさ、根石の状態から何らかの建物の礎石と考えられる。SI8の東2m70cmにある土坑(SK2)は礎石を抜き取った痕跡かもしれない。この礎石より北側は斜面がやや緩やかになる。またSI8・9の北側には根石と思われる礎(SI2・17)があることから、建物はSI8～10の北側に展開していたと思われる。確認した状況では具体的な建物の復元には至らなかったが、礎



第6図 西ヶ洞磨寺跡全体図

**SB1-2**

- 1 SB1-2埋土、にぶい赤褐色土,5YR4/4、焼土含。
- 2 SB1-2埋土、暗赤褐色土,10YR3/3、焼土含。
- 3 SB1-2埋土、黒褐色土,10YR2/3。
- 4 SB1-2埋土、黒色土,10YR2/1、炭化物含。
- 5 SB1-2埋土、黒褐色土,10YR2/2、径5mm繩、炭化物含。
- 6 SB1-2埋土、暗赤褐色土,10YR3/3、焼土、砂礫含。
- 7 SB1-2基盤層、暗赤褐色土,10YR3/3、径5mm繩、炭化物含。
- 8 黑褐色土,10YR2/2、径5mm繩、炭化物含。
- 9 SB1-2P1埋土、黑褐色土,10YR2/2、砂繩、径5mm繩含。
- 10 SB1-2P1埋土、黑褐色土,10YR2/3、砂繩含。
- 11 SB1-2基盤層、黑色土,10YR2/1。

SB1-2鍛冶炉1

- 1 SB1-2埋土、黒褐色土,10YR2/3、径3mm繩、鉄滓含。
- 2 SB1-2埋土、オリーブ黒色土,7.5Y3/1。
- 3 SB1-2埋土、焼土、にぶい赤褐色土,5YR4/4、オリーブ黒色土(7.5Y3/1)含。
- 4 SB1-2鍛冶炉1埋土、黒褐色土,10YR2/3、径3mm繩、鉄滓含。
- 5 SB1-2基盤層、黒色土,10YR2/1。

第7図 1号鍛冶関連遺構 (SB1・SB2)・鍛冶炉1

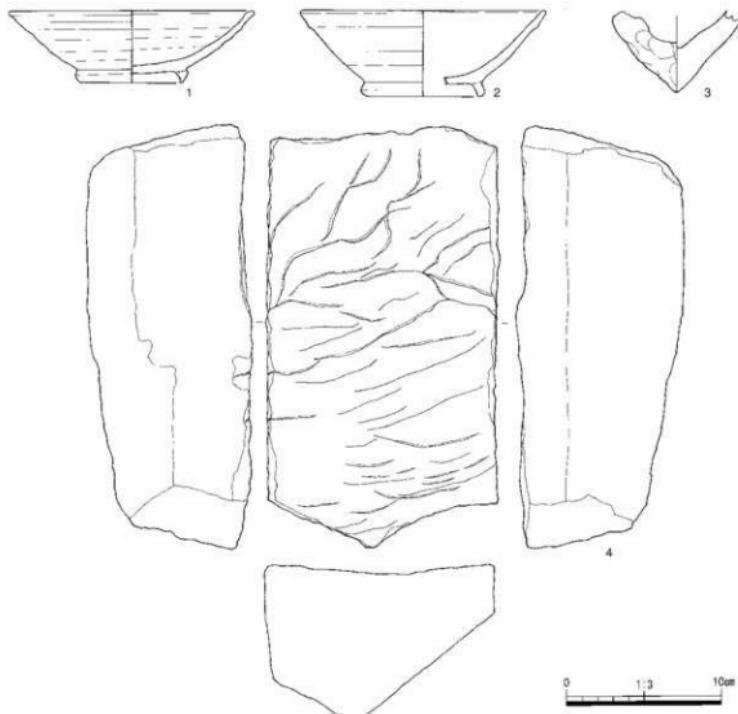
**SB1-2銅冶炉2**

- 1 SB1-2銅冶炉2埋土、青黒土,5BG1.7/1。
- 2 SB1-2銅冶炉2埋土、黒褐色土,10YR2/3,径5mm埋含。
- 3 SB1-2銅冶炉2埋土、黒色土,10YR2/1。黒褐色土(10YR2/2),径5mm埋含。
- 4 SB1-2銅冶炉2埋土、黒褐色土,10YR2/3,径5mm埋含。
- 5 SB1-2基盤層、黒色土,10YR2/1。

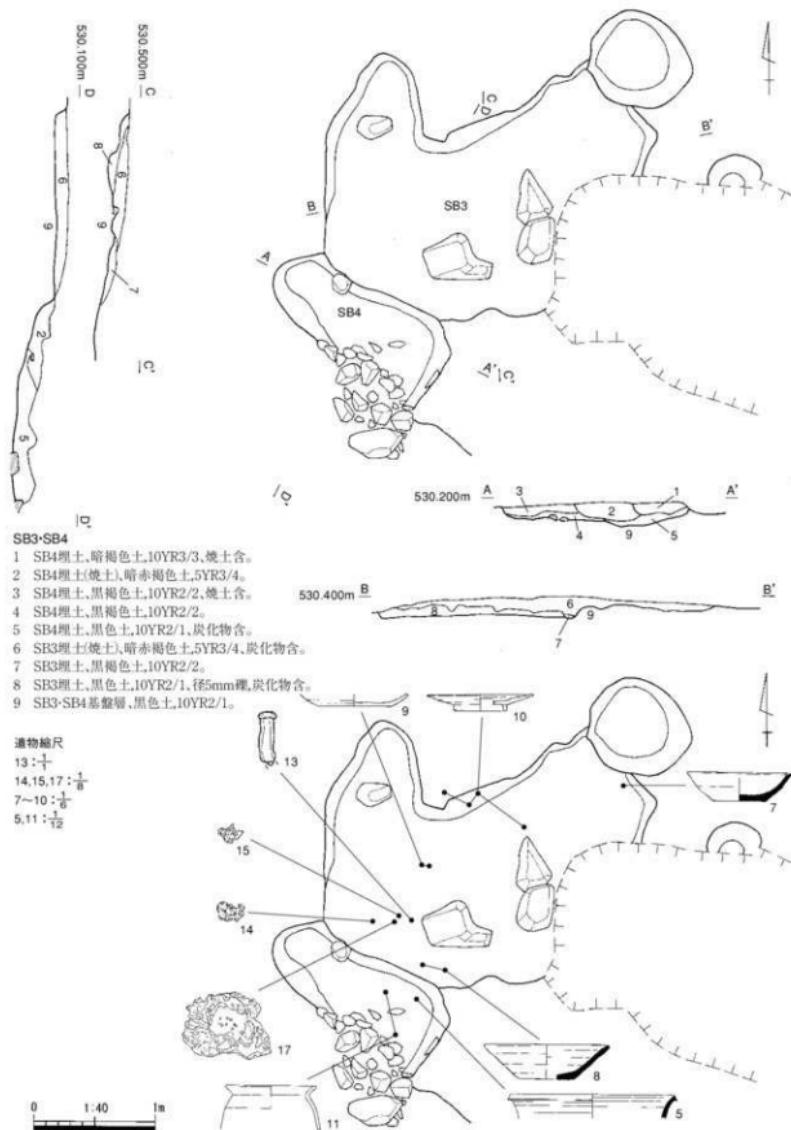
SB1-2銅冶炉3

- 1 SB1-2銅冶炉3埋土、青黒土,5BG1.7/1,径3mm埋含。
- 2 SB1-2銅冶炉3埋土、暗赤褐色土,5YR3/2。
- 3 SB1-2銅冶炉3埋土、黒褐色土,10YR2/2,径5mm埋含。
- 4 SB1-2銅冶炉3埋土、黒褐色土,10YR2/3,径5mm埋含。
- 5 SB1-2基盤層、黒色土,10YR2/1。

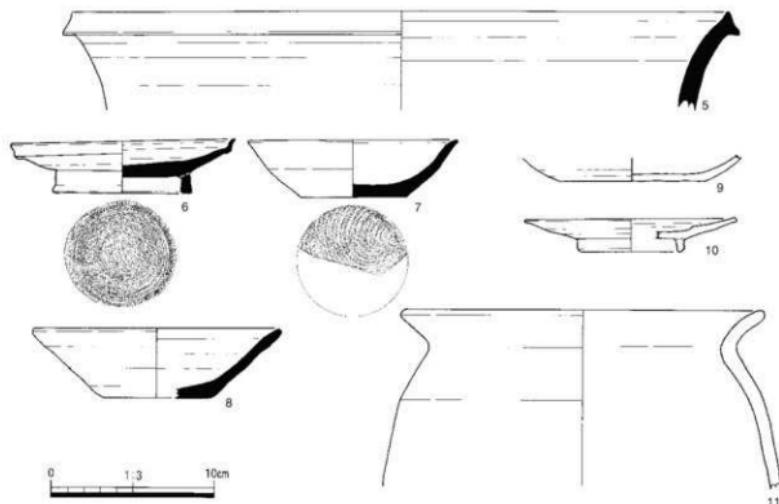
第8図 1号銅冶関連遺構 (SB1・SB2)・銅冶炉2・3



第9図 1号銅冶関連遺構 (SB1・SB2) 出土遺物



第10図 2号鍛冶窯連遺構(SB3・SB4)遺物出土状況



第11図 2号鍛冶関連遺構(SB3・SB4)出土遺物(1)

石の大きさから推定して寺院の中核をなす建物の礎石と考えられる。これらの礎石に伴う遺物は出土しなかった。

(4) その他の建物礎石 (SI1~7, 12~22)

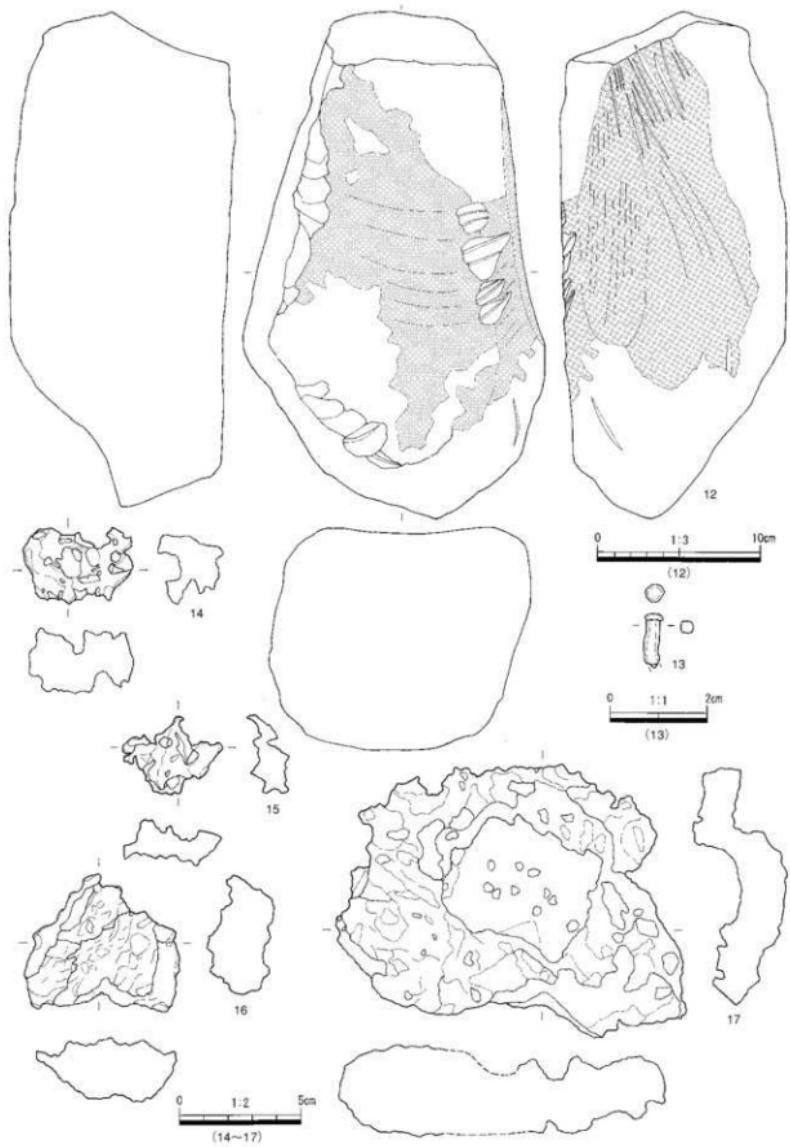
遺構 (第6・13・14図) 大型建物礎石 (SI8~10) の周辺には礎石と思われる石が点在する。IV層上面で検出した。これらの中には根石をもつもの (SI6・7) もあるが、多くは根石をもたず礎石のみであった。確認した状況では具体的な建物の復元には至らなかったが、建物礎石 (SI8~10) に付随する施設の礎石と考えられる。

出土遺物 (第16図) SI1~4とSI7から土師器、須恵器、金属製品 (鉄滓含む) が合計44点出土した。いずれも礎石を取り除いた下から出土している。ほとんどが小片であるが、SI7の根石の間から須恵器無台碗(22)が出土している。

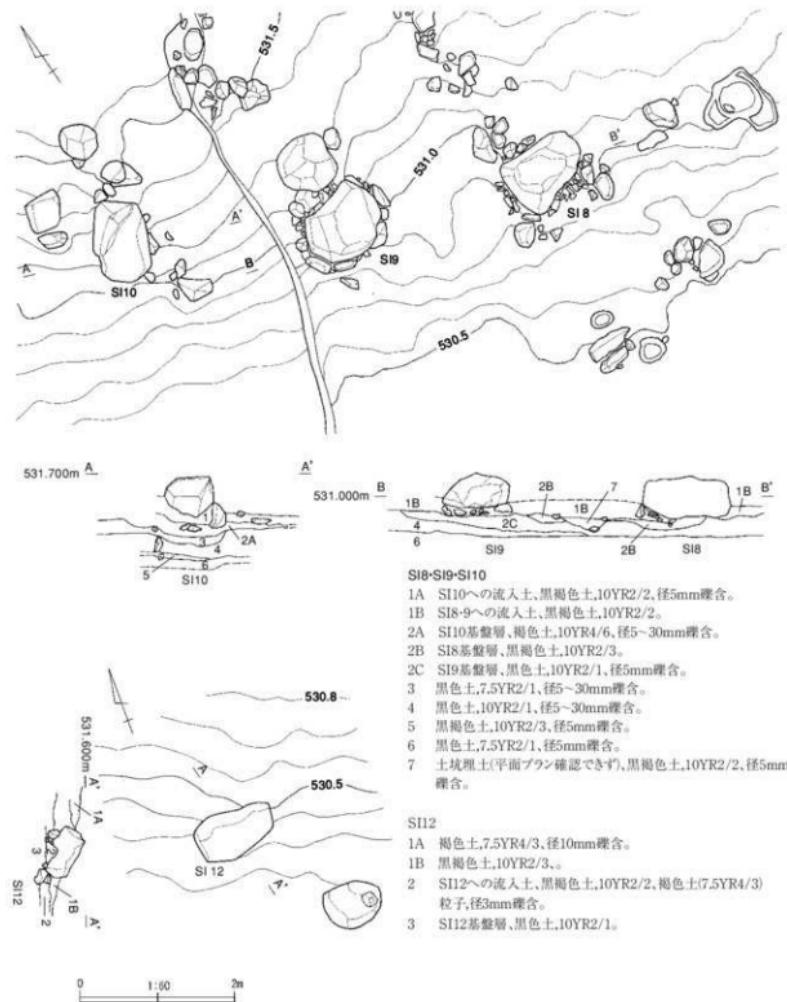
(5) その他の遺構

遺構 (第6・15図) 土坑10基、ピット5基をIV層上面で確認した。その性格を明らかにするには至らない。SK4・6~9、P2~6から遺物が出土した。SK7は2号鍛冶関連遺構を切って掘り込まれている。

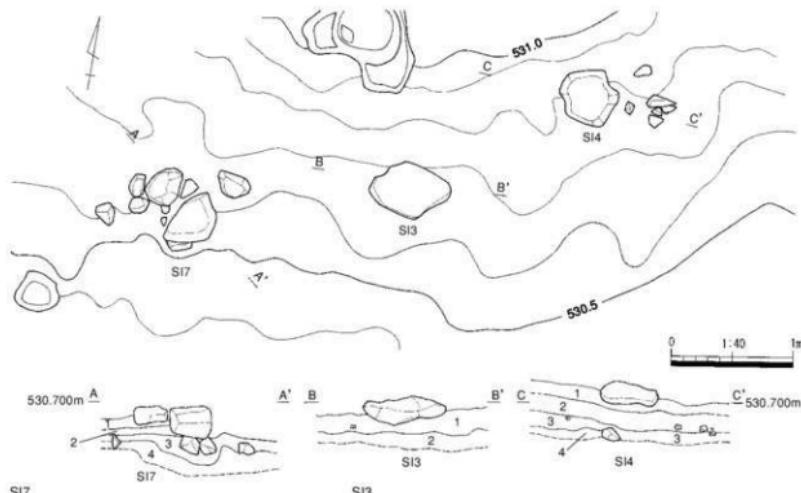
出土遺物 (第16図) 土坑・ピットから土師器、須恵器、灰釉陶器が合計10点出土した。これらのうちSK4から須恵器短頸壺(21)、SK7から墨書きされた須恵器無台碗(23)、P5から土師器壺(18)、P6から灰釉陶器水瓶(19)・短頸壺(20)が出土した。須恵器無台碗(23)の墨書きは、「はらい」の部分は確認できるが、文字の一部であるため解読には至らない。いずれも鍛冶関連遺構、建物礎石と同時期の遺物と考えられる。



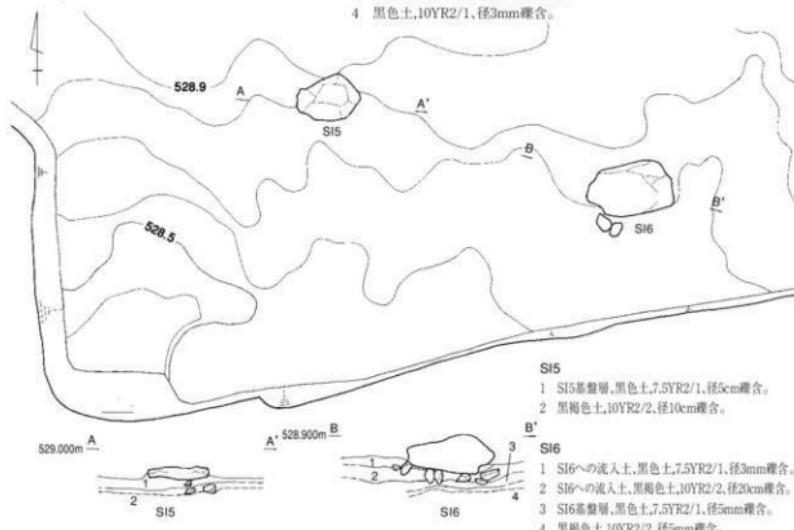
第12図 2号鋳冶関連遺構 (SB3・SB4) 出土遺物 (2)



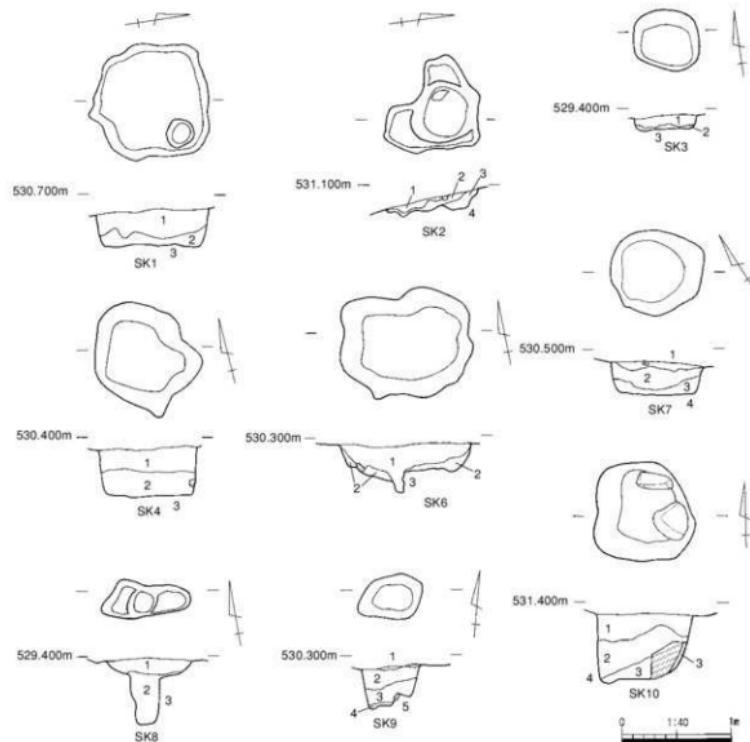
第13図 建物礎石(SI8・9・10・12)



- SI3**
- 1 SI3基盤層、黒色土、10YR2/1、径3mm織合、炭化物含。
 - 2 黒褐色土、10YR2/2、径50mm織合。
- SI4**
- 1 SI4基盤層、黒色土、10YR2/1、径5mm織、炭化物含。
 - 2 黑褐色土、10YR2/2、径3mm織合。
 - 3 黑褐色土、10YR2/2、径5mm織合。
 - 4 黑色土、10YR2/1、径3mm織合。



第14図 建物礎石(SI3～7)

**SK1**

- 1 SK1埋土、黒褐色土,10YR2/3,径10mm疊合。
2 SK1埋土、黒褐色土,10YR2/2,径10mm疊合。
3 SK1基盤層、黒色土,10YR2/1。

SK2

- 1 SK2埋土、に4v+黄褐色土,10YR4/3,径3mm疊合。
2 SK2埋土、黒褐色土,10YR2/3,径3mm疊合。
3 SK2埋土、黄褐色土,10YR5/6,径3mm疊合。
4 SK2基盤層、黒色土,10YR2/1。

SK3

- 1 SK3埋土、黒褐色土,10YR2/3,径2mm疊合。
2 SK3埋土、黒褐色土,10YR2/2,径3mm疊合。
3 SK3基盤層、黒色土,10YR2/1。

SK4

- 1 SK4埋土、黒褐色土,10YR2/3,にぶい黄褐色土
(10YR4/3)粒子,径3mm疊合。
2 SK4埋土、黒褐色土,10YR2/2,径3mm疊合。
3 SK4基盤層、黒色土,10YR2/1。

SK7

- 1 SK7埋土、黒褐色土,10YR2/3,径5mm疊合。
2 SK7埋土、黒褐色土,10YR2/2。
3 SK7埋土、黒色土,10YR2/1,灰化物含。
4 SK7基盤層、黒色土,10YR2/1。

SK8

- 1 SK8埋土、暗褐色土,10YR3/3。
2 SK8埋土、黒褐色土,10YR2/2。
3 SK8基盤層、黒色土,10YR2/1。

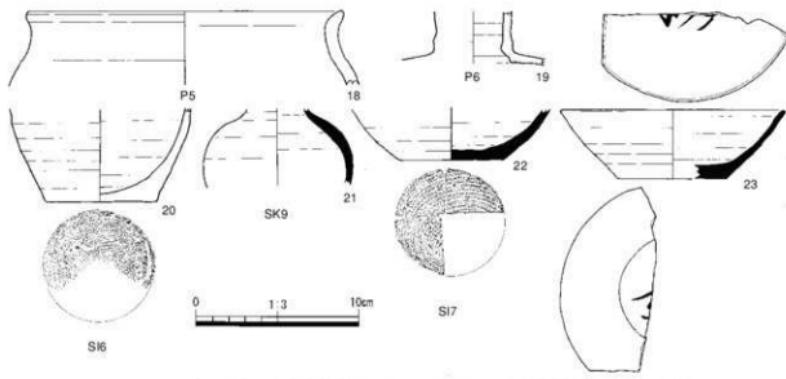
SK9

- 1 SK9埋土+焼土、暗赤褐色土,5YR3/4。
2 SK9埋土、黒褐色土,10YR2/3,径5mm疊合。
3 SK9埋土、黒褐色土,10YR2/2,径5mm疊合。
4 SK9埋土、黒色土,10YR2/1。
5 SK9基盤層、黒色土,10YR2/1。

SK10

- 1 VSK10埋土、黒褐色土,10YR2/2,径5mm疊合。
2 VSK10埋土、黒褐色土,10YR2/3,径5mm疊合。
3 SK10埋土、黒褐色土,10YR2/2,径5mm,人重大疊合。
4 SK10基盤層、黒色土,10YR2/1。

第15図 西ヶ洞庵寺跡 土坑 (SK1~4・6~10)



第16図 その他の遺構(P5・P6・SK4・SK7・S17)出土遺物 SK7

(6) 遺物包含層出土遺物 (第17~21図)

遺物包含層(Ⅱ・Ⅲ層)から、西ヶ洞廃寺跡に伴うと考えられる須恵器、灰釉陶器、陶磁器類(緑釉陶器含む)、土師器、金属製品(鉄滓含む)及び廃寺跡と無関係と思われる弥生土器、石器が合計1,514点出土した。Ⅱ層とⅢ層の包含遺物の様相には差違が認められないため、Ⅱ層とⅢ層を合わせて遺物包含層出土遺物として取り扱うこととする。

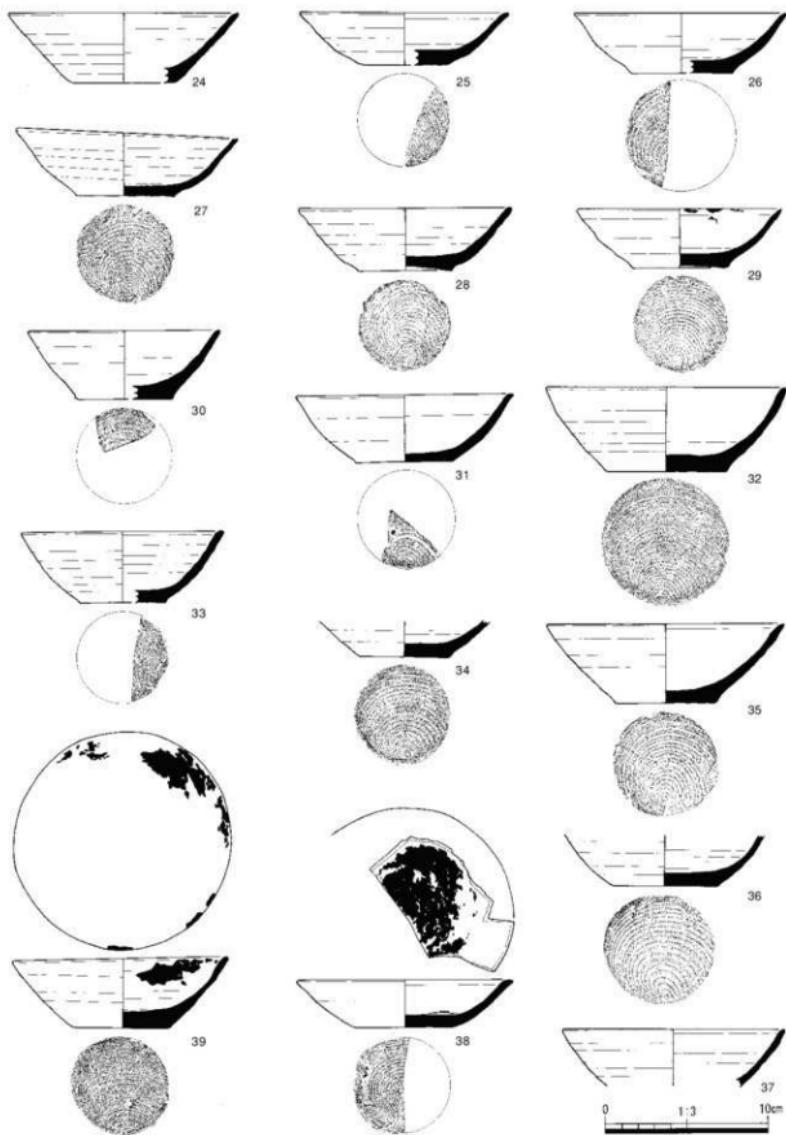
須恵器(22~51)は、無台碗(24~36・38・39)、有台碗(40~44)、有台盤(45~47)、短頸壺(48・49)、壺(50)、香炉(51)が出土した。

無台碗のうち、(24)を除く(25~36・38・39)は、器高は2.9~5.1cmとさほど高くなく、底部外面には糸切り痕が残る。器形は、体部最下部がまっすぐに立ち上がり、体部下半は丸みをもってふくらみ、口縁部付近ではやや内凹して立ち上がる。これに対し、(24)は、器高は4.2cmで他のものと大差はないが、糸切り痕は認められない。器形は、体部は最下部から口縁部に向かって直線的に立ち上がる。(29)は内面口唇部付近、(38・39)は内面全体に漆が付着している。

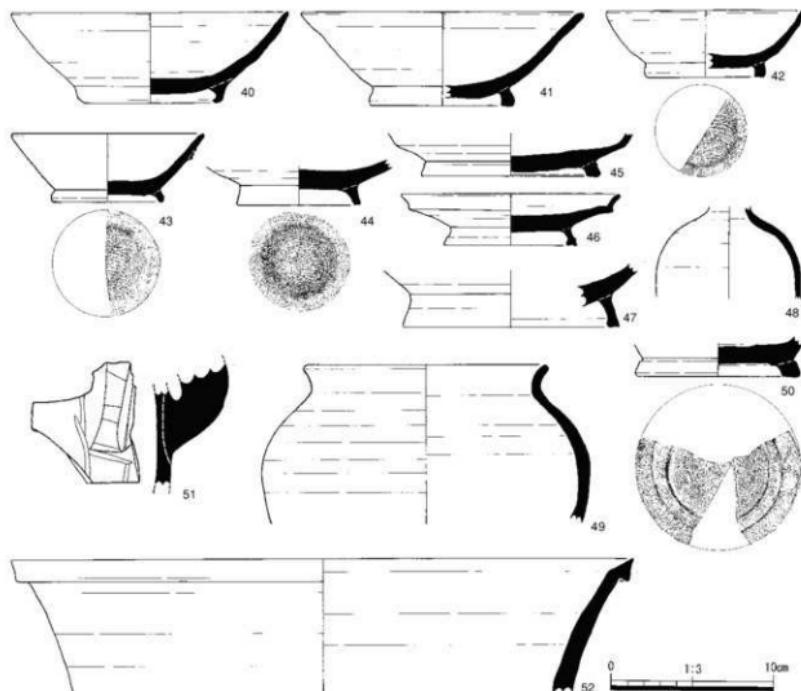
有台碗には、大型碗(40・41・44)と小型碗(42・43)が存在する。大型の有台碗は口径17.0~17.2cm、器高5.5~5.8cm、小型の有台碗は口径11.8~12.1cm、器高4.1~4.2cmを測る。大型碗、小型碗ともに貼り付け高台で、碗体部との取り付け部付近から外側に湾曲し、接地部付近で内側に屈曲する。大型碗の器形は、全体が緩やかにふくらんで立ち上がる。底部内面は、体部内面との境ははっきりせず、体部内面の描くカーブはそのまま底部内面へと続き、放物線を逆さにしたような弧状の断面形を呈する。小型碗の器形は、外面は大型品同様全体が緩やかにふくらんで立ち上がる。小型品の内面底部は、水平な平坦面を作り出している。(43)は体部上半の口縁部に近い部分に把手が取り付けられた痕跡が確認できる。

有台盤(45~47)は、3点とも非常に丁寧なつくりである。底部外面の糸切り痕はナデ調整により消されている。高台は低いもの(45)と高いもの(46・47)がある。供献仏具の可能性が考えられる。

短頸壺(48・49)は、内外面に回転ナデ調整が施される。



第17図 遺物包含層出土遺物(1)



第18図 遺物包含層出土遺物(2)

壺(50)は、底部外面に線刻が施される。線刻は一部しか確認できないが、「廿」の一部かもしれない。

香炉(51)は、破片であるが、体部に耳がついた部分が出土している。耳は体部に貼り付けられた後、体部と一緒にヘラ削りにより成形される。大型の香炉は平安時代に盛行し、獸脚が取り付けられるものも多い。

灰釉陶器(53~91)は、碗(53~81)、皿(82~87)、段皿(88)、耳皿(89)、水瓶(90)、短頸壺(91)が出土した。

碗には、底部外面の回転糸切り痕をナデにより消したもの(53~71)と回転糸切り痕がそのまま残るもの(72~81)が存在する。

回転糸切り痕を消した碗には、小型碗2点(56・57)、中型碗7点(59~62・64・65・71)、大型碗5点(58・63・66・68・69)がある。小型碗は口径12.8~12.9cm、器高3.8~4.3cm、中型碗は口径13.1~16.2cm、器高4.1~4.5cm、大型碗は口径17.0~17.7cm、器高5.4~5.9cmを測る。また、皿との区別が難しい浅いつくりの碗(53・54)も認められ、口径14.2cm、器高3.0~3.2cmを測る。大型碗は口径、器高ともに大きく作られ、小型碗は中型碗と器高はほぼ同じであるが、口径が小さく作られる。高台はどのサイズの碗

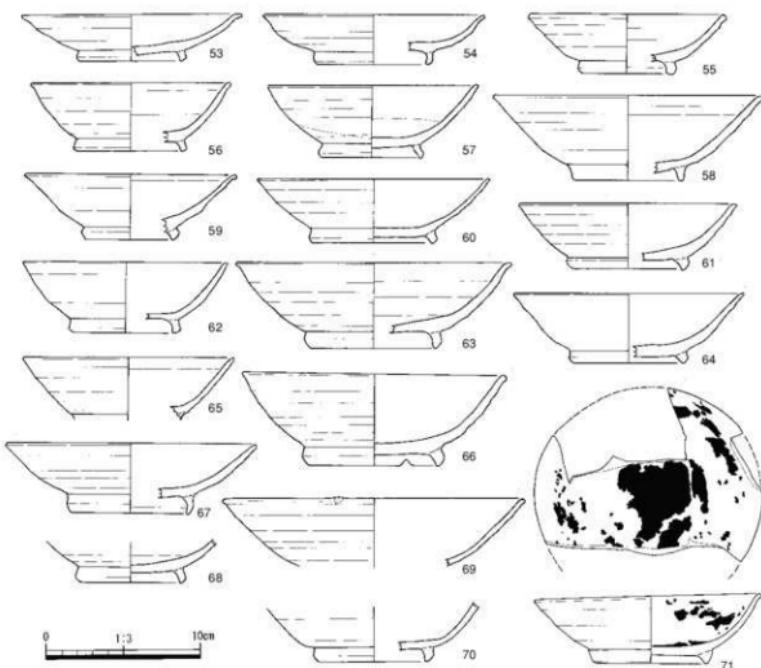
にも三日月高台が貼り付けられる。(57)は灰釉の漬け掛けが施される。(66)は高台の接地部分に、棒状の圧痕が認められる。土器の成形時、高台貼り付け後碗を棒の上に置いて乾燥したと思われる。(71)は内面全体に漆が付着する。

回転糸切り痕を残す碗には、中型碗7点(75~81)と小型碗3点(72~74)がある。大型碗は確認されなかつた。中型碗は口径13.6~16.8cm、器高4.2~5.0cm、小型碗は口径12.2~12.6cm、器高3.8~4.5cmを測る。台はいずれのタイプの碗にも三日月高台が貼り付けられる。

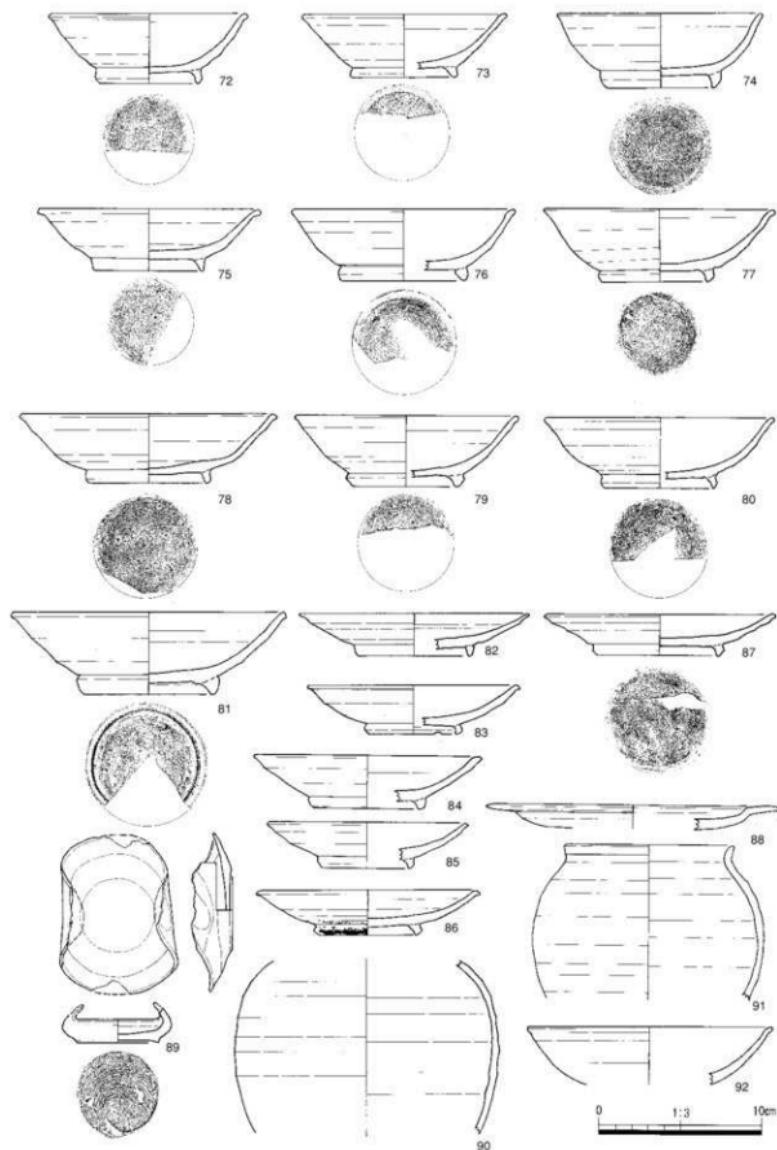
皿(82~87)は、口径12.4~14.2cm、器高2.2~3.2cmを測る。(87)には回転糸切り痕が残るが、他の皿は回転糸切り痕はナデにより消されている。(86)は高台に漆が付着している。

段皿(88)、耳皿(89)、水瓶(90)、短頸壺(91)は供献仏具と考えられる。耳皿は、砂田氏所蔵遺物の中にも認められる（後述）。

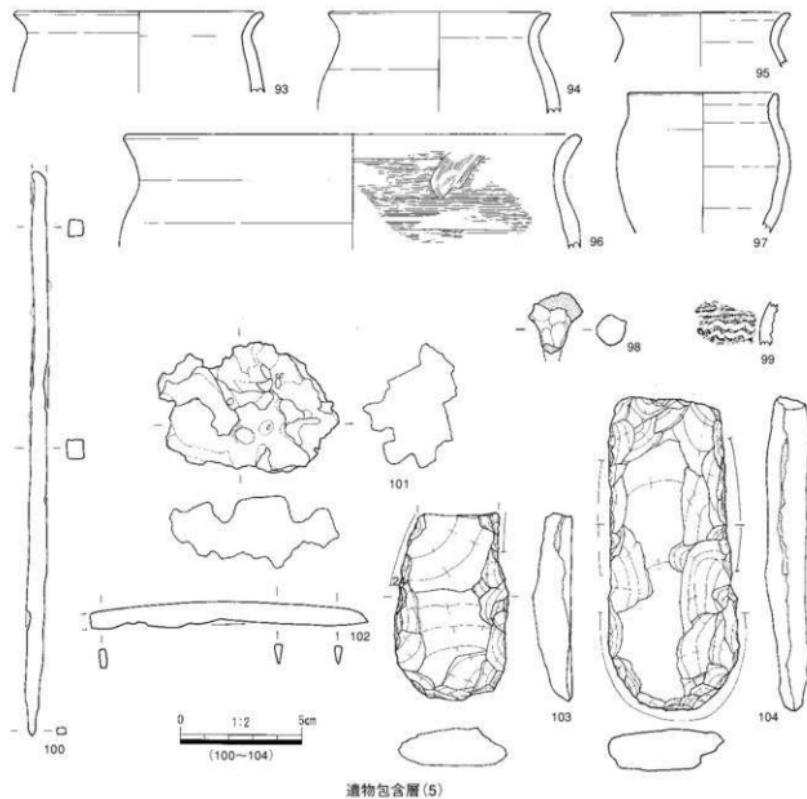
緑釉陶器(92)の碗が1点出土した。小破片であるが、口縁部の復元径は15cm程度である。鮮やかな緑色を発色している。在地の土器ではなく、他地域から持ち込まれたものと考えられる。また、常滑製の甕(52)が出土しており、時代が下り中世に位置づけられる。寺院との関連は明確ではない。



第19図 遺物包含層出土遺物(3)



第20図 遺物包含層出土遺物(4)



第21図 遺物包含層出土遺物 砂田氏所蔵遺物

土師器(93~98)は、壺(93~97)と製塙土器(98)である。壺の内外面には板ナデが施される。製塙土器は、1号鍛冶関連遺構出土の製塙土器(3)同様先端部の角が短く作られ、北陸地方の製塙土器に類似する。外面には成形時の指圧痕が残る。

金属製品は、箸(100)、鉄滓(101)、刀子(102)が出土した。箸、鉄滓は、1号鍛冶関連遺構と2号鍛冶関連遺構の間の比較的遺構密度の薄い地点、刀子は大型の建物礎石(SI8~10)の北側、斜面がやや平坦になる地点で出土している。

弥生土器は1点出土している。壺(99)の小片で、外面には平行沈線及び波状沈線が横方向に巡る。

石器はいずれも縄文時代の石器である。打製石斧4点、磨石類1点、剥片13点の合計18点が出土した。石器はほとんどが遺物包含層から出土し、チャートの剥片1点のみがSK7から出土した。打製石斧2点(103・104)は2点とも基部が折損している。石材は(103)が砂岩、(104)が凝灰岩で、これら以外の石材はチャート10点、石英2点、下呂石1点である。

(7)砂田清一郎氏所蔵遺物（第21図）

西ヶ洞廃寺跡の調査以前から、遺跡近くに在住する砂田清一郎氏宅に西ヶ洞廃寺跡で採集された須恵器、灰釉陶器が100点以上保管されていた。砂田氏所蔵の土器には、寺名の線刻が施されたものも含まれることから、砂田氏所蔵の土器の一部について、採集された時の状況を詳細に御教示頂いた上、実測及び写真撮影を行い、資料を提示させていただいた。

砂田氏の御教示によると、所蔵されている土器類は西ヶ洞廃寺跡及びその周辺で採集されたものであり、その多くは砂田氏の父君が採集されたものであるとのことである。須恵器の無台碗(105)は、内面底部に「能寺」と線刻されている。この碗は調査地点で採集されたもので、元々はこの破片と接合する破片が存在していた。その接合する破片は現在所在が不明であるが、(105)と接合すると寺名が「十能寺」と線刻されていたとのことである。また、須恵器有台碗(106)は糸切り痕が残る外面底部に「成」と線刻されている。これらの線刻は、焼成前に刻まれたものである。灰釉陶器長頸瓶(107)の外面底部には「某」に似た文字が線刻されている。この文字はきちんと判読できない。また、陶製の球と耳皿(108)は、砂田氏本人が採集されたものである。掲載した写真（図版13）の耳皿の上に球が乗った状態で、調査地点で採集されたとのことである。また、灰釉陶器小瓶(109)も調査地点で採集されたものである。須恵器、灰釉陶器は、今回の発掘調査で確認された須恵器、灰釉陶器と同時期のものであり、いずれも西ヶ洞廃寺跡に伴う須恵器と考えられる。

第4章 中野山越遺跡

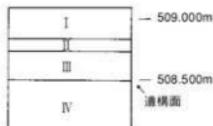
第1節 基本層序（第22図）

中野山越遺跡は、扇状地上の平坦面に立地する。調査地点は畠地として耕作されており、上層には外部から持ち込まれた客土なども含まれる。遺物包含層は存在していたが、状態は悪かった。表土（I層－層厚25cm）は畠地に伴う耕作土である。表土の下には外部から持ち込まれたと思われる客土（II層－層厚10cm）が堆積する。遺物包含層（III層－層厚22cm）は、縄文土器、弥生土器、須恵器、灰釉陶器を包含する。遺構は、地山（IV層）上面で確認した。

第4表 中野山越遺跡出土遺物数

遺構・グリッド	縄文	弥生	土師	須恵	灰釉	陶磁	石	金属	合計
SB1	理土	4		5	34		1		44
	P1	2					1		3
	P6	2	I						3
	P9				1				1
	P16			2	1				3
	P20			1					1
ビット	P2				1				1
	P7				1				1
	P19				2				2
	P20			1					1
遺物包含層	28		10	32	1		10	1	82
合 計	36	1	19	72	1	1	11	1	142

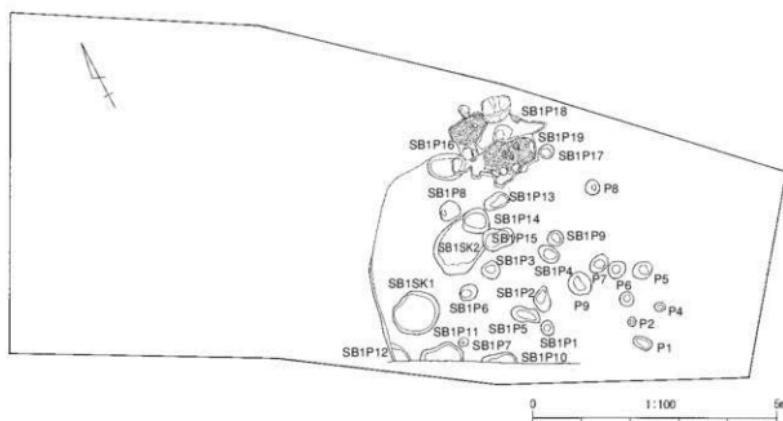
※縄文：縄文土器、弥生：弥生土器、土師：土師器、須恵：須恵器、灰釉：灰釉陶器、陶磁：陶磁器類、石：石器、石製品、金属：金属製品



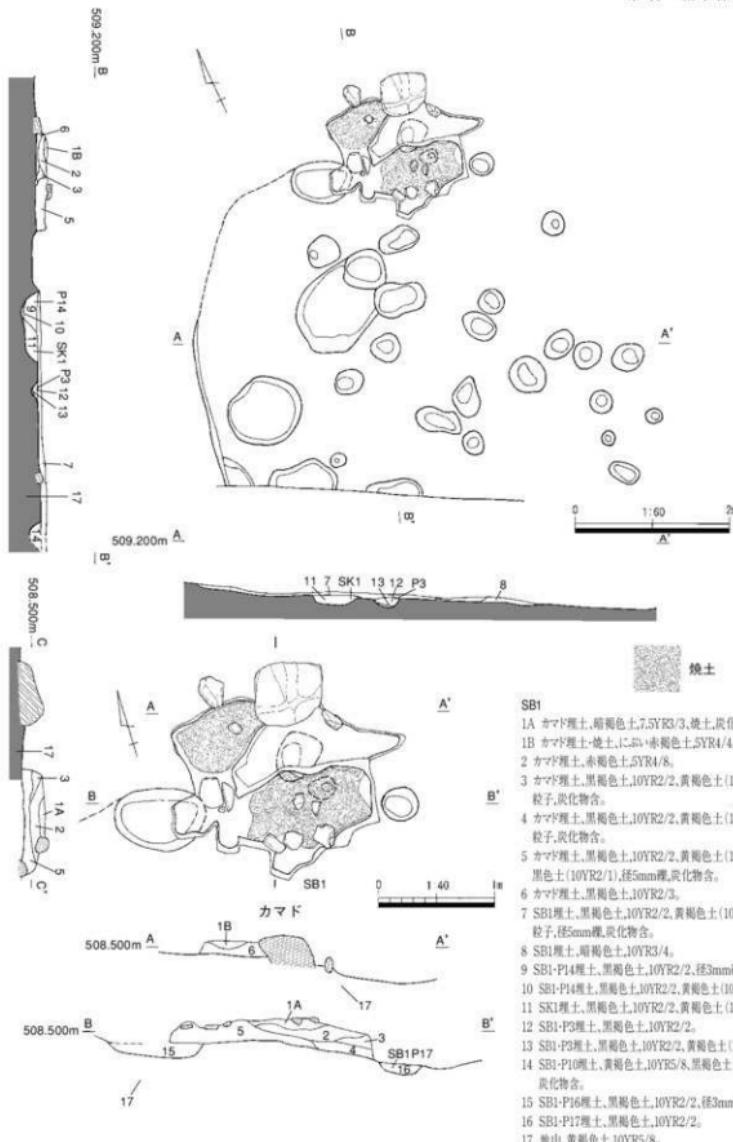
基本層序

- I 表土、黒褐色土、10YR2/2、径5mm疊含。
- II 客土、明黄褐色土、10YR6/6、径5mm疊含。
- III 遺物包含層(縄文～古代)、黒褐色土、7.5YR3/2、径3mm疊、炭化物含。
- IV 地山、明黄褐色土、10YR6/8。

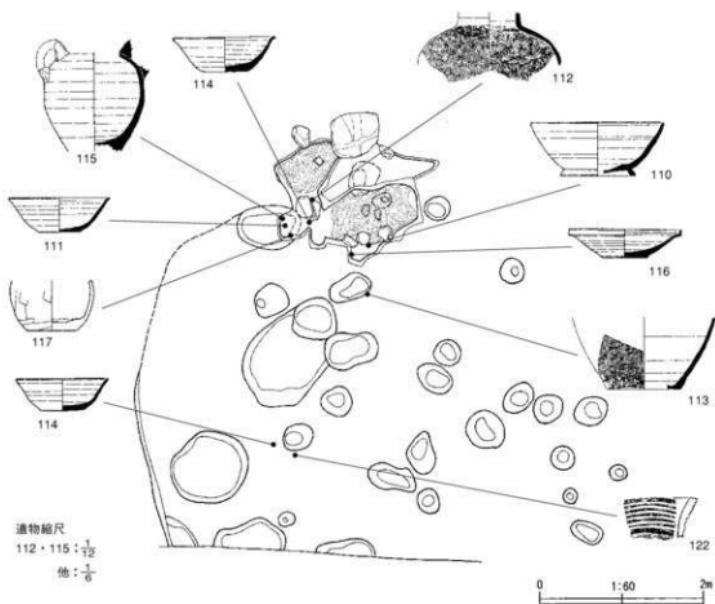
第22図 中野山越遺跡基本層序



第23図 中野山越遺跡全体図



第24図 1号住居跡(SB1)・カマド



第25図 1号住居跡(SB1)遺物出土状況

第2節 遺構と遺物

中野山越遺跡では、カマドをもつ堅穴住居跡1軒、土坑2基、ピット28基を確認した（第23図）。遺構はいずれも地山上面で検出している。調査区の西側では遺構は確認できなかった。遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、石器、金属製品が合計142点出土している。（1）1号住居跡（SB1）

遺構（第24図） 調査区東側で確認し、地山上面で検出した。後世に削平を受けたのか、東側のプランは全く検出できず、西側も一部検出できなかった部分もあるため、不整形な平面プランを確認するにとどまった。埋土は黒褐色土ないし暗褐色土で、焼土、炭化物などが含まれる。住居内では土坑2基、ピット19基を確認したが、柱穴は確認できなかった。住居北側でカマドを確認した。カマドは崩落しており、15cm程度の盛り上がりで焼土、炭化物等の集中を検出した。焼土の下ではピットを確認した。ピットは住居跡の外側に当たるため、煙道部の痕跡かもしれない。カマド付近は特に遺物が集中して出土している（第25図）。

出土遺物（第9図） 遺構からは縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器類、石製品が合計

第5表 積穴住居跡観察表

遺構名		グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形	幅(m)	奥行(m)	深さ(m)	周溝	炉・カマド	柱穴	時代
1号住居跡	SB1	-	510.0	N·18°·E	不整形	-	-	0.1	無	カマド	不明	平安

60点出土した。遺物はカマド付近に集中している（第25図）。

住居跡出土遺物の主体をなすのは須恵器で、40点出土した。縄釉陶器片1点、土師器9点も住居に伴う遺物と考えられる。

これ以外は縄文土器8点、弥生土器1点、石鎌1点が出土した。

須恵器は、無台碗（111・114・117・118）、有台碗（110）、無台皿（116）、壺（112・113）、双耳瓶（115）が出土した。

無台碗は、口径11.3～12.4cm、器高3.9～4.2cmを測る。器形は体部下半がふくらみ、緩やかな弧を描いて立ち上がる。底部外面には回転糸切り痕が残る。

有台碗は、口径16.2cm、器高6.5cmを測る大型の碗である。底部外面には回転ヘラ削りが確認できる。

壺は、外面には平行タタキ痕、内面には同心円の当て具痕が確認できる。

双耳瓶は、片方の耳のみが残存していた、外面には回転ナデを施す。

縄釉陶器（119）は、縄釉が剥落している。焼成時の焼きムラによるものか。

土師器は、壺（120・121）が出土している。（120）は口縁部から体部にかけて縦方向のハケ目調整が確認できる。（121）は体部下半に縦方向の板ナデを施した後、底部付近を横方向に板ナデを施す。

縄文土器深鉢（123）は、縄文時代中期後葉の東海系の土器である。キャリバー型の口縁部をもち、棒状工具による沈線で渦巻文を描いている。

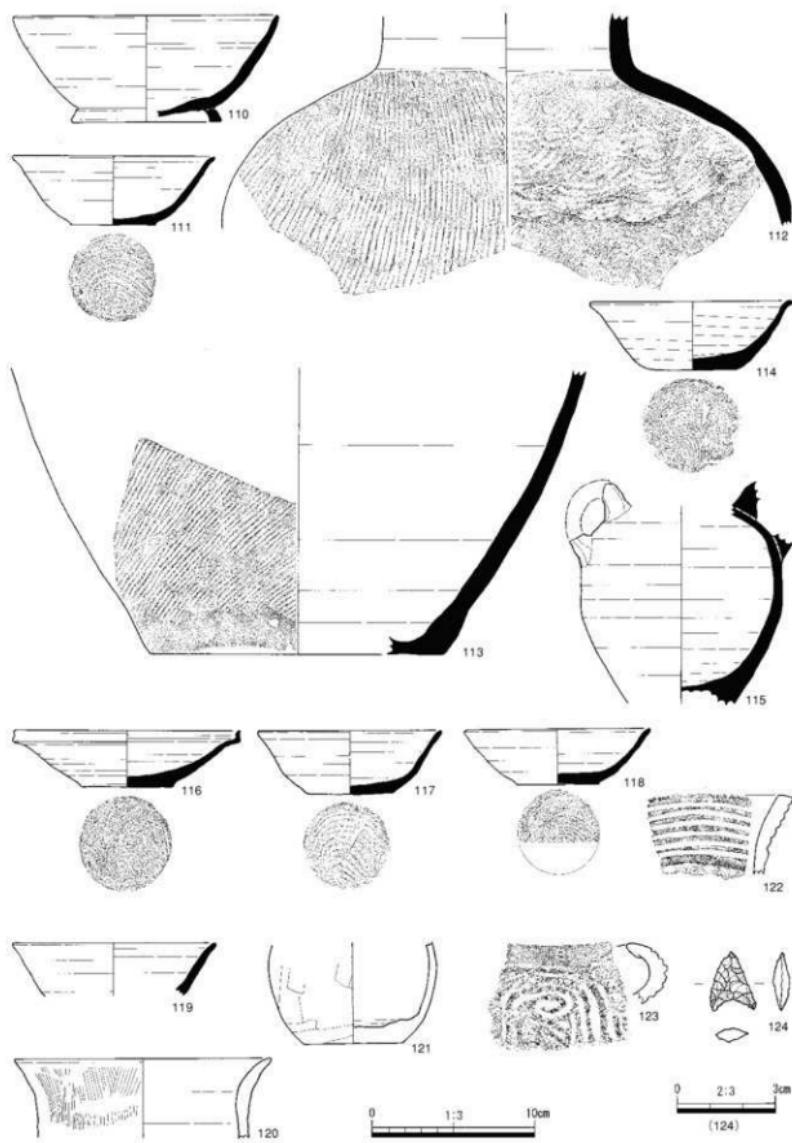
弥生土器壺（122）は、1点のみの出土で、弥生土器ではないかもしれない。口縁部に横方向の条痕文が施される。外面口唇部付近にはススが付着する。

石鎌（124）は下呂石製である。

第6表 中野山越遺跡縄文土器集計表

	3群 中期	6群1類 縄文・条痕	6群2類 無文	6群3類 不明	合計
SB1埋土	3			1	4
SB1P1		1		1	2
SB1P6	1			1	2
遺物包含層	4	5	11	8	28
合計	8	6	11	11	36

*縄文土器の分類基準は、第5章P41,45参照



第26図 1号住居跡 (SB1・SX1) 出土遺物

第5章 中野大洞平遺跡

第1節 基本層序（第27図）

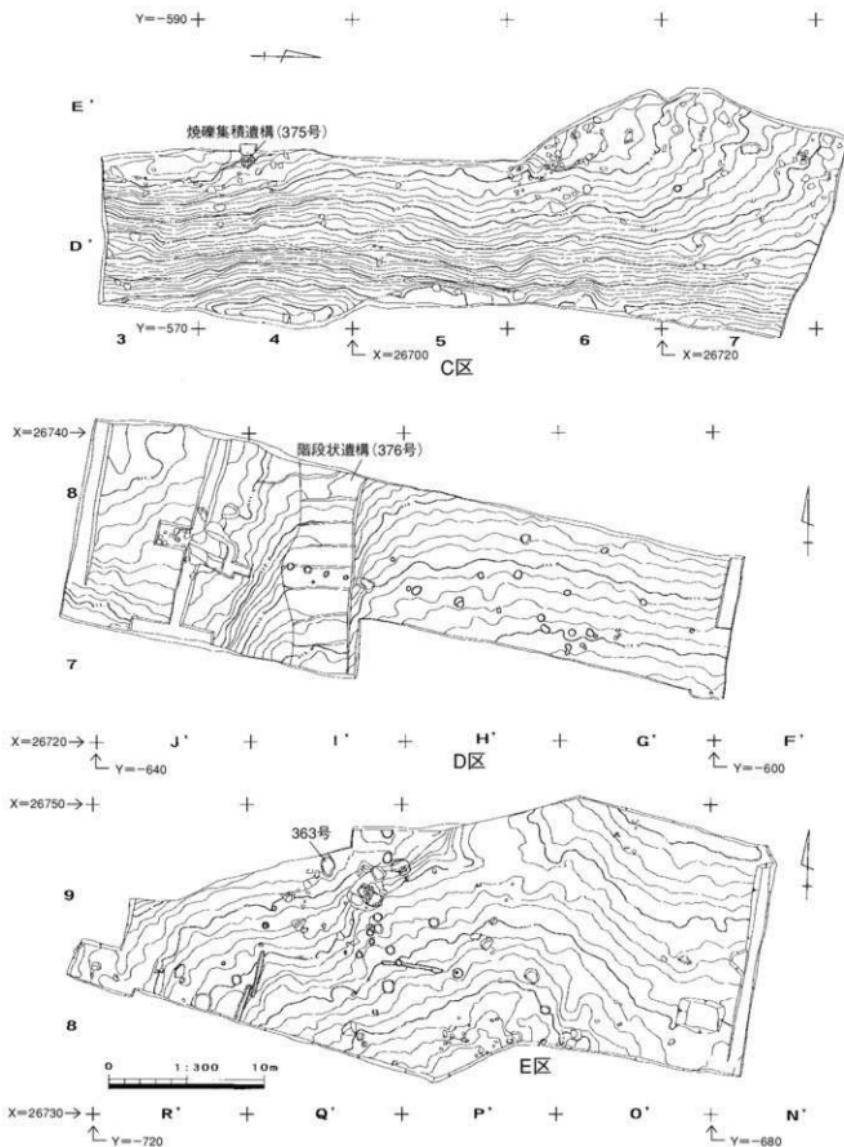
中野大洞平遺跡は、扇状地上に立地する。調査区はA～E区に分けている。各地区の堆積状況は微妙に異なる。

A・B区では地形により、調査区内で堆積状況に違いが見られる。A・B区の北側は段丘の端にあたり段差がある。B区中央部は低位段丘に向かって開く谷地形になっている。この谷地形は縄文時代には埋没しており、谷埋土は縄文時代の遺物包含層（Ⅲ層）となっている。Ⅲ層はA区及びB区北側には存在しない。この点をふまえてA・B区の基本層序を述べる。表土（I層－層厚20cm）は畑作に伴う耕作土である。遺物包含層は、南側で2層（II層－層厚40cm、IV層－層厚20cm）、北側で3層（II層－層厚20cm、III層－層厚50cm、IV層－層厚20cm）に分かれる。II層は、縄文時代から奈良時代の遺物包含層である。III、IV層は縄文時代の遺物包含層で、III層は、縄文時代早期から晩期の遺物を包含し、IV層は縄文時代早期の土器小片を包含する。地山（V層）は明黄褐色土である。

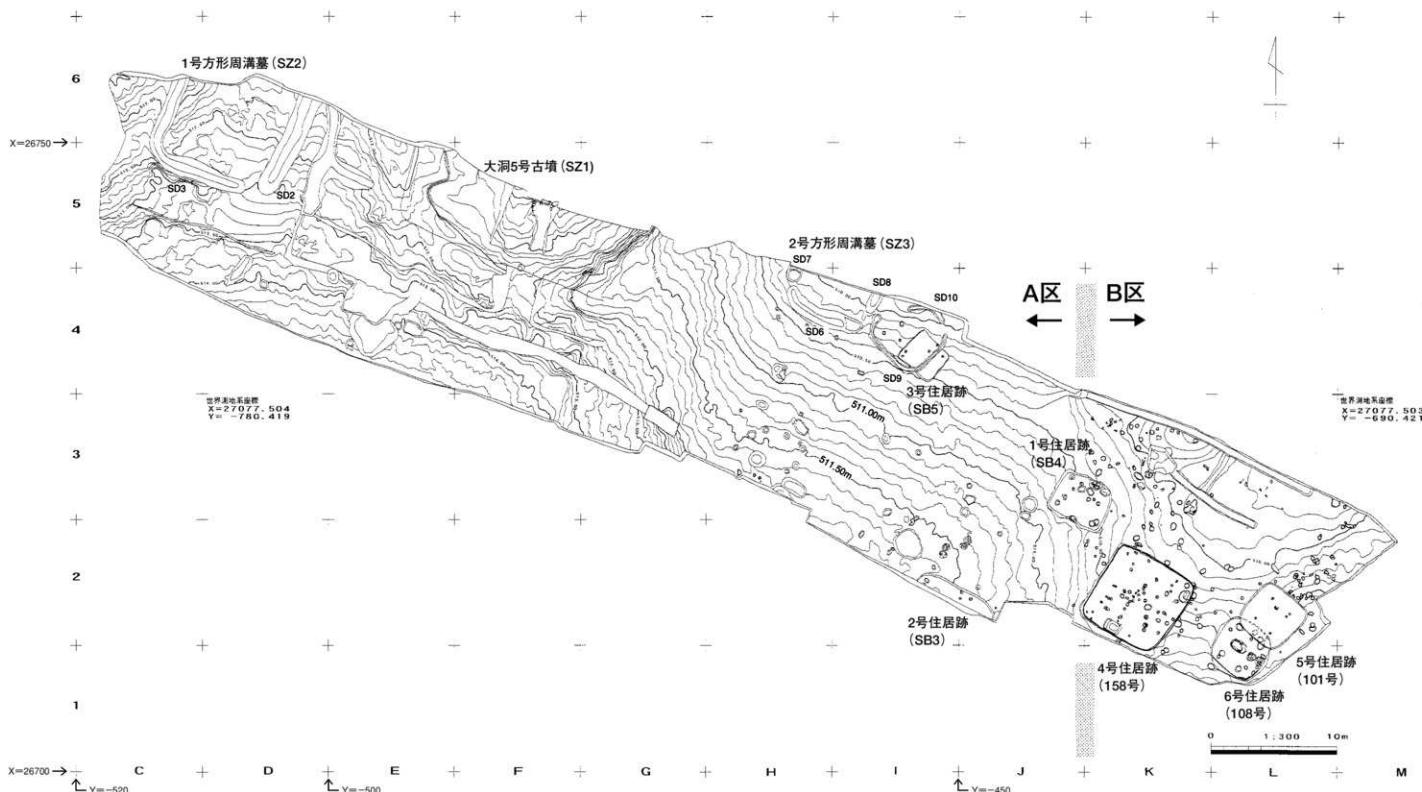
C区は、調査区東側の大半が斜面になっている。表土（I層－層厚10cm）は腐植土である。遺物包



第27図 中野大洞平遺跡(A～E区)基本層序



第28図 中野大洞平遺跡(C~E区)全体図



第29図 中野大洞平塚跡 (A + B区) 全体図

含層は、南側で2層（Ⅱ層—層厚20cm、Ⅲ層—層厚10cm）に分かれる。Ⅲ層は、斜面部分では認められず、調査区西側及び北側の平坦部分のみに堆積する。Ⅱ層は、縄文時代から平安時代の遺物包含層であるが、出土した遺物はいずれも小片である。Ⅲ層も、縄文時代から平安時代の遺物包含層である。図示し得る遺物はⅢ層から出土している。地山（Ⅳ層）は明黄褐色土である。

D区の東側は平坦面が広がり、西側は谷地形となり地山面が落ち込む。表土（I層—層厚15~20cm）は畑作に伴う耕作土である。遺物包含層（II層—層厚5~50cm）は、縄文時代から平安時代の遺物包含層である。地山（III層）は黄橙色土である。

E区は、東側から西側に向かって緩やかに下る斜面である。表土（I層—層厚30cm）は畑作に伴う耕作土である。遺物包含層（II層—層厚30cm）は、縄文時代から近世の遺物包含層である。地山（III層）は明黄褐色土である。

第2節 遺構と遺物の概要

中野大洞平遺跡では、A区で竪穴住居跡3軒、古墳1基（第6章で詳述）、方形周溝墓2基、土坑12基、ピット47基、B区で竪穴住居跡3軒、土坑1基、ピット167基、C区で焼窯集積遺構1基、ピット2基、D区で階段状遺構1基、ピット19基、E区で土坑4基、ピット25基を確認した。遺構は全地区とも地山上面で検出した（第28・29図）。

遺構の記述は、A・B区はまとめて竪穴住居跡、方形周溝墓の順で記述し、竪穴住居跡は縄文時代から時代順に記述した。

遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、石器、石製品、金属製品が合計7,264点出土した（第8・9表）。

縄文土器では一般的に用いられている土器型式を適用し、文様要素・文様構成・型式等を考慮した上で、1~6群に分類した（第10表）。

第7表 中野大洞平遺跡石器分類表

区	遺構	石錐	石錐	石匙	スクレイパー	ビエヌエスキュー	打製石斧	磨製石斧	磨石類	石製品	石核	測			合計
												下凹石	チャート	黒曜石	
	SB3											5	3	1	9
	SB4							2				10		1	13
	SB5											2	3	1	6
	SD3											6	1		7
A	SZ1	1										4	1		6
	SD5						1				1				2
	SD6							1			1				2
区	SK8											1			1
	SK11											1	3		4
	SK12											1	1		2
	SK20											1			1
	SK37											1			1
	P45												1		1
B	101号						1	1		1	1	24			28
	108号	1					1	1	2			5	20		30
	158号	3						4	1	1		87	29		125
区	176号												1		1
	202号												1		1
	270号												1		1
E	363号								1				1		2
遺構計		5	0	0	2	1	8	3	4	1	2	148	66	1	243
遺構外		16	2	1	4	0	21	4	4	5	6	360	114	9	549
合計		21	2	1	6	1	29	7	8	6	8	508	180	10	792

第8表 中野大洞平遺跡遺構(大洞平5号古墳を含む)出土遺物数

区	遺構・グリッド	縄文	弥生	土師	須恵	灰釉	陶磁	石	金属	合計
A区	SB3 埋土	2	18	10				9		39
	SB4 P13	65	19	14	17			13		128
			1							1
	SB5 埋土	32	91	23				6		152
	1号方形 周溝墓	SD2		6			1			7
	SD3	50	2	3	1			7		63
	SD6 2号方形 周溝墓	5	27	3				2		37
	SD7			1						1
	SD8		2							2
	SZ3 大洞平 5号古墳	32	40	14						86
土坑	SZ1 SD5	8	15	16	208			6	6	259
		5	25	101		1	2			134
	1号溝 SD9		7							7
	SB1		1		58					59
	SB2	2	1		5					8
	SK2				5	1				6
	SK6	1								1
	SK8	2	1				1			4
	SK11	5					4			9
	SK12	1					2			3
B区	SK20						1	1		
	SK37						1	1		
	SR1			9						9
	SR3			5						5
	SR2		2	8						10
	SR5		1							1
	SR8			2						2
	SR9			1						1
	SX1	3								3
	SX2	3			7			5	15	
C区	SX4	9	3							12
	P9 ビット				1					1
	P10				1					1
	P12				1					1
	P16				6					6
	P18				1					1
	P19				1					1
	P20				1					1
	P24				1					1
	P25				1					1
D区	P27				1					1
	P28				1					1
	P29				3					3
	P31				1					1
	P40				1					1
	P42				1					1
	P45				1				1	2
	P47				3					3
	P49				1					1
	埋土	275	38					30		343
E区	264		1							1
	270							1	1	
	273		2							2
	158 理土	208	1027					125		1360
F区	101 理土	32	103					28		163
	146									0
	176							1	1	
	202							1	1	
	263	3								3
G区	ビット	326			1					1
	土坑	363						2	2	
H区	ビット	338	1							1
	合計	763	1407	119	427	0	3	243	11	2973

*弥生：弥生土器、土師；土加器、須恵器、灰陶；灰陶陶器、陶磁；陶器
石器、石器、石製品、金器；金属製品

第9表 中野大洞平遺跡遺物包含層出土遺物数

区	遺構・グリッド	縦文	弥生	土師	須恵	灰釉	陶磁	石	金属	合計
A 区 遺 物 層	2J	160	44		2		1	11		218
	3D						1			1
	3G				1			1		2
	3H	116	32	2			1	26		177
	3I	43	2		1			7		53
	3J	165	3	29	2			103		302
	4B							1	1	
	4C							1	1	
	4D			1				1		2
	4E	1			1			1	1	4
	4F	5			3			1		9
	4G				1					1
	4H	52	97	18		1		11	5	184
	4I	27	40	5	3			8		83
	5C			1				1		2
	5D	1					1	1	1	4
	5E	6	2		11			3		22
	6E	7								7
	6D	1	1		1			1		4
	不明	183	8	21	75	5	5	23		320
B 区 遺 物 層	1K	3	18	3	1	1		10		36
	1L	3	5		4			1		13
	2K	125	109					53		287
	2L	29	112					14		155
	3K	493	23	17	1			153		687
	3L	232	15					45		292
	不明	12	13	6	238	2	5	48	1	325
	試掘レンチ	25	13	5	58	5	2	4		112

区	遺構・グリッド	縦文	弥生	土師	須恵	灰釉	陶磁	石	金属	合計
C 区 遺 物 層	6E'		11			7			2	20
	7D'	47	106			58	10		5	226
	7E'	12	19			49	13		5	98
	7G'	6	13	17	19	31				86
	8D'	17			16	23	3		2	61
	8E'	2			3	4	1			10
	7H'			7	13					20
	7I'			4	4				1	9
D 区 遺 物 層	7J'				2				2	4
	8G'	5	4		12	64	24			109
	8H'		2	5	27	1				35
	8I'	4	8	3	11				1	27
	8J'	6	6			14			1	27
	8K'					1				1
	不明	1				1			1	3
	8N'					9				9
E 区 遺 物 層	8O'	25	26	18	29	4	1			103
	8P'			1		4		1		6
	8Q'					6				6
	8R'					1				1
	9N'	1	1			9				11
	9O'	3	7			25				35
	9P'	3	4			7			1	15
	9Q'	3	3	1	6					13
合計		1830	791	194	797	101	17	549	12	4291

*弥生：弥生土器、土師；土師器、灰陶；須恵器、灰釉；从陶器器、陶磁；陶器器皿。石：石器、石制品。金属：金属製品。

第10表 中野大洞平遺跡出土縄文土器分類表

第1群土器：縄文時代早期（1類：押型文、2類：その他）

第2群土器：縄文時代前期

第3群土器：縄文時代中期（1類：信州系、2類：北陸系、3類：その他）

第4群土器：縄文時代後期

第5群土器：縄文時代晩期

第6群土器：その他の土器、土製品（1類：縄文、撚糸・条線のみ、2類：無文、3類：時期・型式名等不明、4類：浅鉢、5類：底部、6類：土製品）

縄文土器に関する記述はこの分類に基づいている。

石器は器種ごとに分類した（第7表）。遺構出土の石器は個別の遺構ごとに説明する。また、それとは別に中野大洞平遺跡出土の石器全体を器種ごとに分析し、記述する。

第3節 A・B区の遺構と遺物

（1）6号住居跡（108号）

遺構（第30、31図、第11表） B区東端で確認し、地山上面で検出した。縄文時代中期の竪穴住居跡で、弥生時代の竪穴住居跡（5号住居跡：101号）に切られる。住居は建て替えが行われており、柱穴1（264号、267号、270号、277号）と柱穴2（265号、273号、275号、278号）が確認できる。

隅丸方形の平面プランだが、建て替えの影響により上端はやや不整形である。平面プランと柱穴1、石圓い炉（268号）の配置から、当初柱穴2を用いた住居が建てられ、その後柱穴1を用いた住居に建て替えられたことが判る。埋土中には焼土、炭化物などが含まれる。

柱穴1に伴う石圓い炉（268号）は、柱穴の中央に配される。東側の炉石は抜き取られ、内部には焼土が認められる。炉内からは被熱して表面がはがれた縄文土器（149）が出土している。また、土坑（269号）は埋甕が抜き取られた痕跡と考えられる。この土坑も柱穴1に伴うと考えられる。南側の柱穴（270号と277号）の間には、段差が認められる。住居南側には周溝（377号）が確認できる。

柱穴2に伴う炉（379号）の痕跡を、柱穴の東外側で確認した。土坑状の掘り込みの底には扁平な石が置かれる。建て替えの際に埋められたものである。周溝（378号）は柱穴2に伴うと考えられ、隣接する柱穴1に伴う周溝（377号）とは繋がらない。

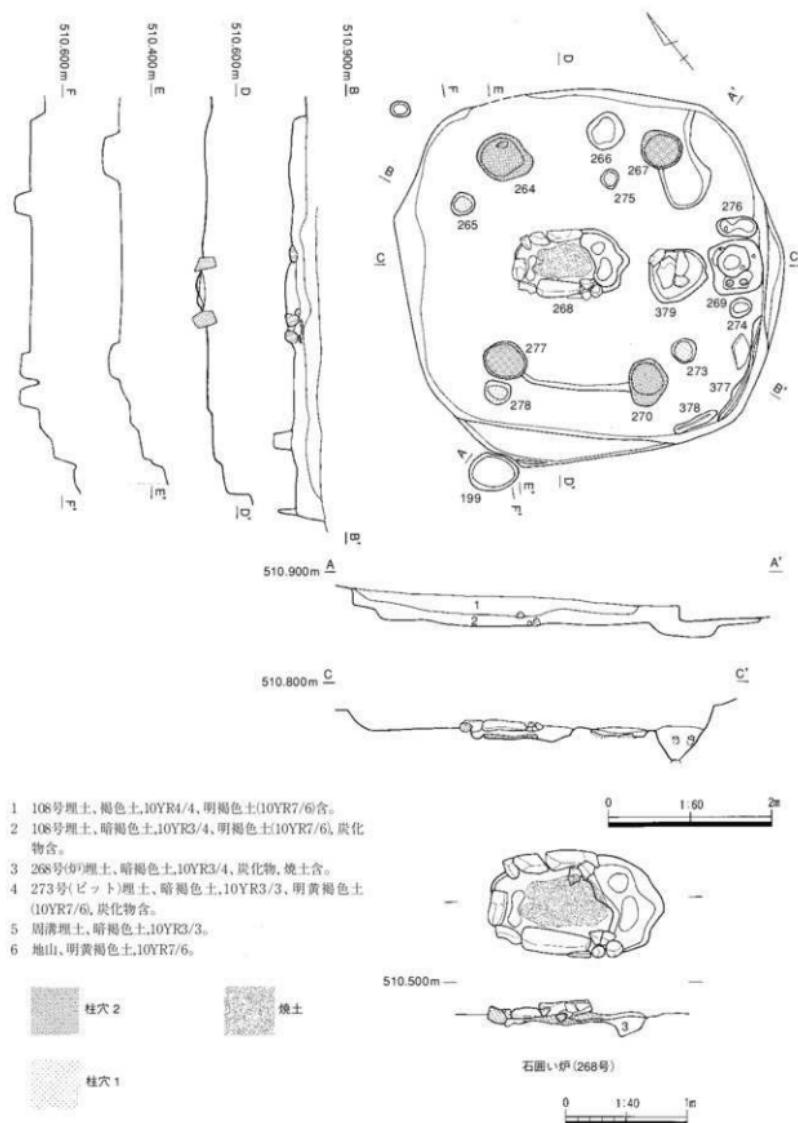
出土遺物（第32図） 縄文土器、弥生土器、石器が出土した。

縄文土器は、1群（早期）、3群（中期）、4群（後期）、6群（その他）が出土した。

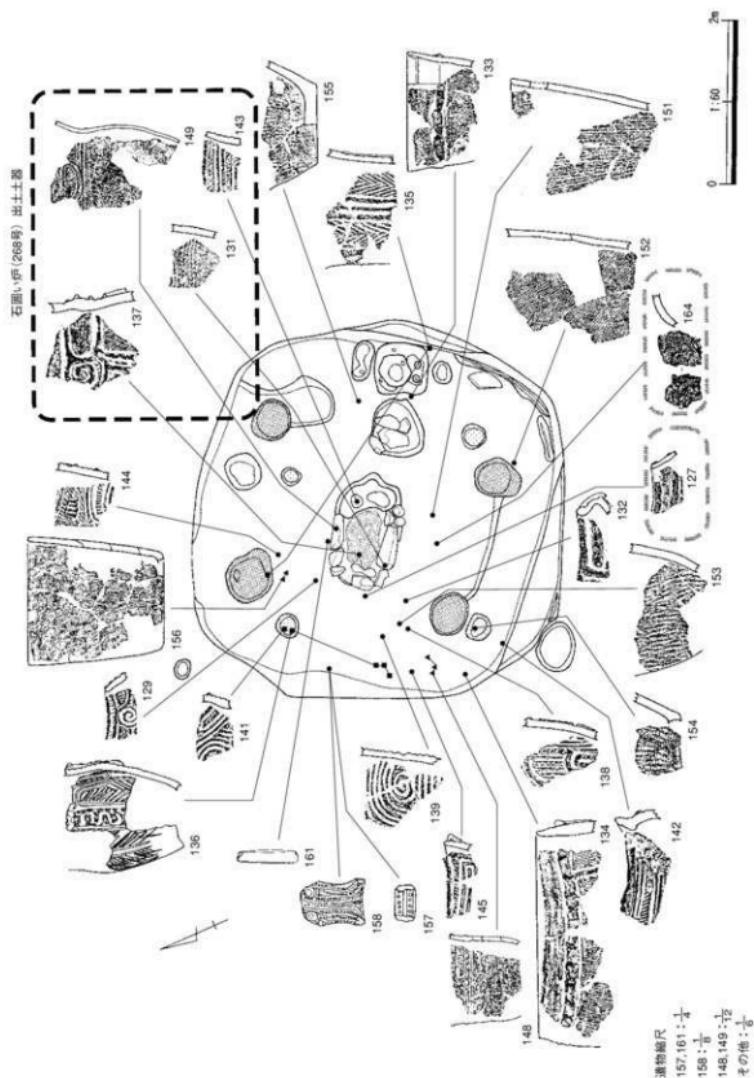
第11表 中野大洞平遺跡・竪穴住居跡観察表

遺構名	区	グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形	幅(m)	奥行(m)	深さ(m)	周溝	炉・カマド	柱穴	時代	切り合い等
1号住居跡	SB4	A-B 2J-2K- 3J-3K	510.6	N-28°-E	隅丸方形	4.6	3.7	0.3	無	カマド	5	奈良	
2号住居跡	SB3	A	2I-2J	511.5	N-26°-E	—	6.8	—	0.1	無	不明	不明	弥生後期
3号住居跡	SB5	A	4I	510.3	N-45°-E	隅丸方形	3.2	2.8	0.1	無	不明	不明	弥生後期
4号住居跡	158号	B	1K-2J- 2K	510.5	N-33°-E	隅丸方形	7.1	7.1	0.2	有	地炉	4	弥生後期
5号住居跡	101号	B	1L-2L	510.3	N-35°-E	隅丸方形	4.4	3.0	0.1	無	コの字形 石圓い炉	4	弥生後期
6号住居跡	108号	B	1L-2L	510.5	N-42°-E	隅丸方形	4.7	4.5	0.4	有	石圓い炉	8	縄文中期

SD9に切られる
108号を切る
101号に切られる

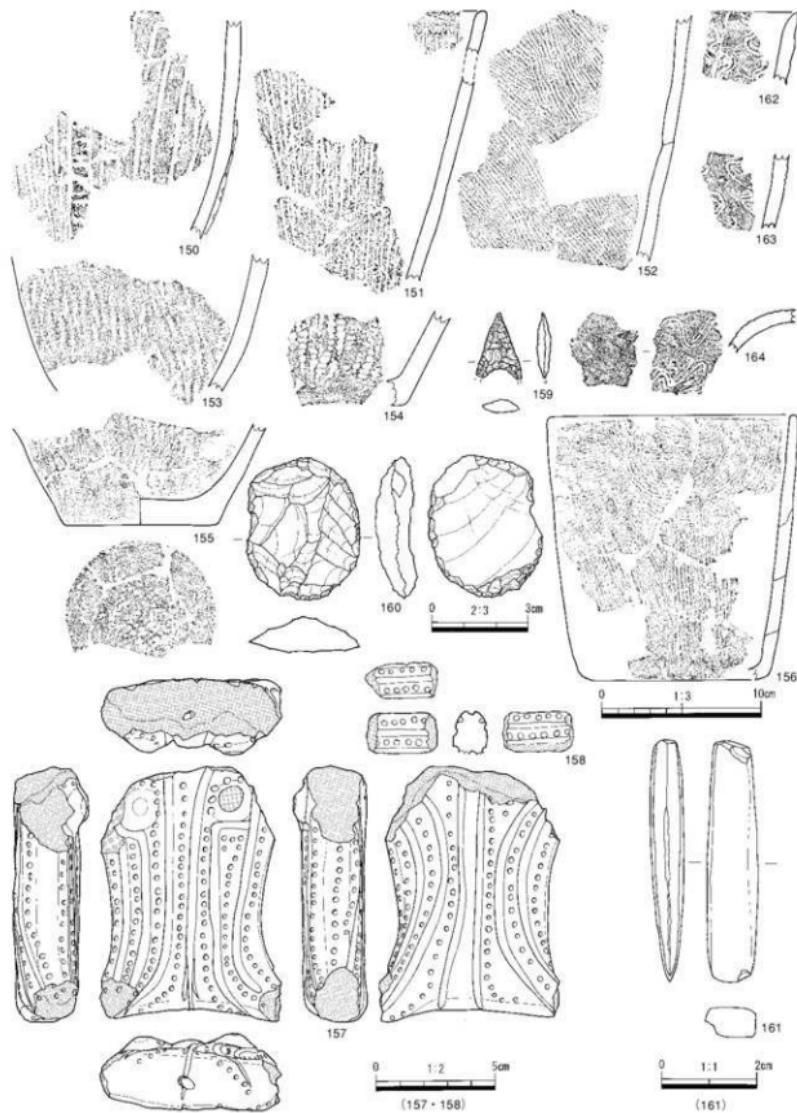


第30図 6号住居跡 (108号)





第32図 6号住居跡(108号)出土遺物(1)



第33図 6号住居跡(108号)出土遺物(2)

1群（125～127）は、1類（125,126）と2類（127）を確認した。

3群（128～149）は、3類（128～132,148,149）と1類（133～139）、2類（140～147）を確認した。3類のうち129は東海系の咲烟式土器、131は西日本系の里木戸式土器である。2類のうち140と141は同一個体である。

6群（150～158）は、1類（150～156）と6類（157,158）を確認している。6類のうち、土偶（157）は、胸から脚にかけてよく残っている。板状で妊娠表現の意識が認められず、自立を考えない形態である。表・裏両面ともに棒状工具による縦方向の沈線と、串状工具による刺突列による文様を全面に施す。中期の土偶で沈線と刺突列を加えた例としては、花切遺跡（富山県大山町）・真脇遺跡（石川県能都町）が挙げられる⁽²¹⁾。沈線は表裏各6本が引かれる。表面では乳房の間に2本、乳房の外側に各2本の沈線が引かれ、乳房間の沈線のうち、右側の沈線と、向かって右側乳房下の沈線は底の面まで引かれる。この沈線は、乳房の下で横位の沈線となる。沈線間と乳房の周間に刺突列を施し、中央刺突列は底面まで続く。裏側の沈線は中央に2本、その左右外側に各2本が引かれる。表面同様沈線の間に刺突列を施すが、中央2本の沈線間には刺突列がみられず、表面ほど密に刺突を施さない。裏面沈線内には一部赤色顔料が残る。表裏面とも外側の沈線は、脚部が外側に開くのに合わせて外側に開くように末広がりに引かれる。胴部左側面には刺突列が施される。乳房間の沈線のうち、右側の沈線は正中線と考えられる。これに対し左側の沈線は末広がりに引かれる。底面と上端の欠損面には棒状工具による穴があけられ、その深さは底面が約3.2cm、上端の欠損面の穴が約2.7cmである。これらの穴は消化器表現と考えられる。158は不明土製品で、157同様に全面に沈線と刺突列による文様が施される。157と158は住居跡壁際の床面で近接して出土し、その関連性が想定される。ただし、刺突工具の違い（157は串状工具・158は円管状工具）を確認し、刺突径が158の方が大きいことから別個体と考えられる。

弥生土器（162～164）は、いずれも櫛描波状文が施される。162,163は鉢で縦方向の櫛描波状文、164は壺で横方向の櫛描波状文が施される。住居埋土中への混入と考えられる。

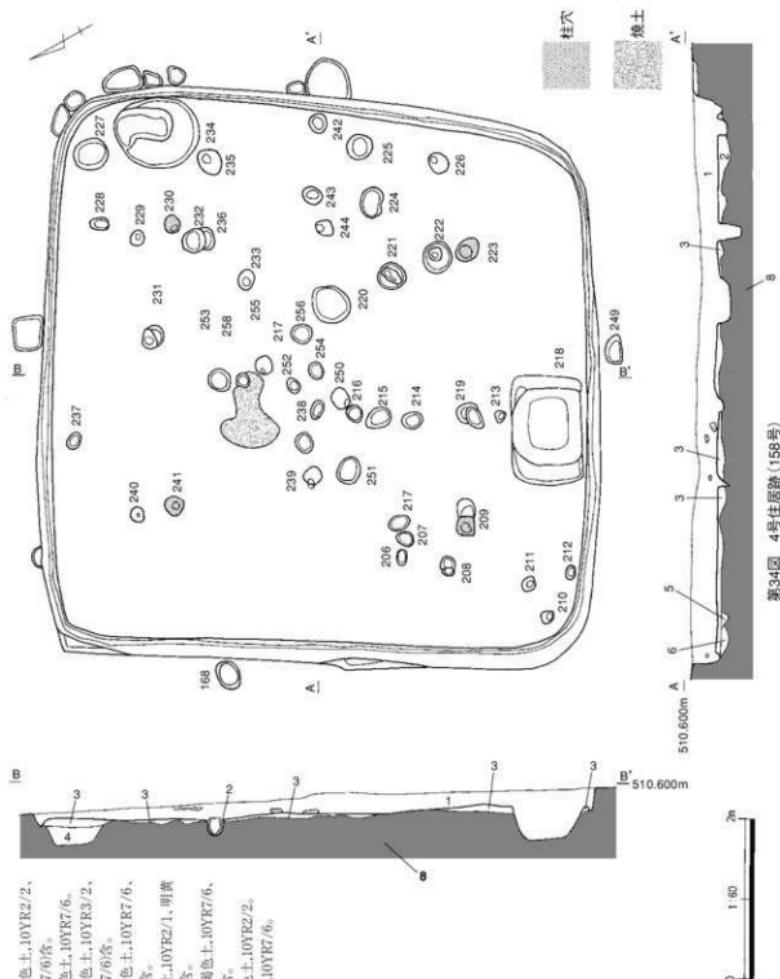
石器は、石鎚1点、スクレイバー1点、小型の磨製石斧1点、剥片25点が出土している。石鎚（159）とスクレイバー（160）はチャート製、小型の磨製石斧（161）は蛇紋岩製である。剥片の石材は下呂石5点、チャート20点である。下呂石よりもチャートの方が多く出土している。

（2）4号住居跡（158号）

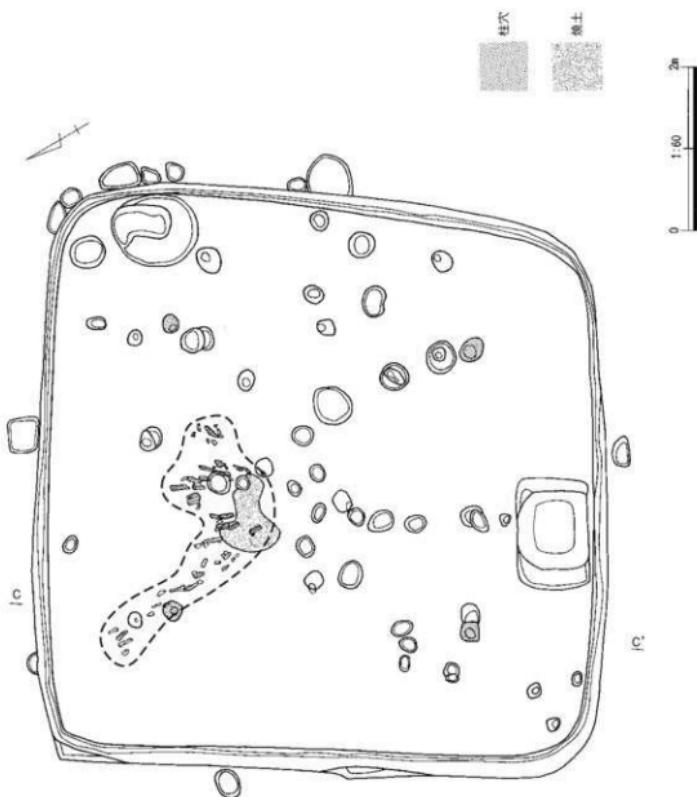
遺構（第34～36図、第11表） B区北端で確認し、地山上面で検出した。弥生時代末頃の大型堅穴住居跡である。確認した4本の柱穴（209号,223号,230号,241号）は床面からの深さが50cmを超える。隅丸方形の平面プランを呈し、埋土中、地床炉付近の床面よりやや浮いたレベルで炭化材を確認した（第35図）。

床面には、貼床が張られる。その貼床を切る形で、土坑2基（218,234）、ビット39基（206～244,250～256、うち柱穴4基を除く）が掘り込まれる。ビットのうち、壺（183）が埋められたビットは深さ20cm、他のビットは深さ10cm程度である。39基ものビットが同時に開口していたとは考えにくく、同時に開口していたビットは数基と思われる。

住居の中央やや北寄りで地床炉を確認した。不整形な焼土面が広がり、その東端には壺（183）が埋

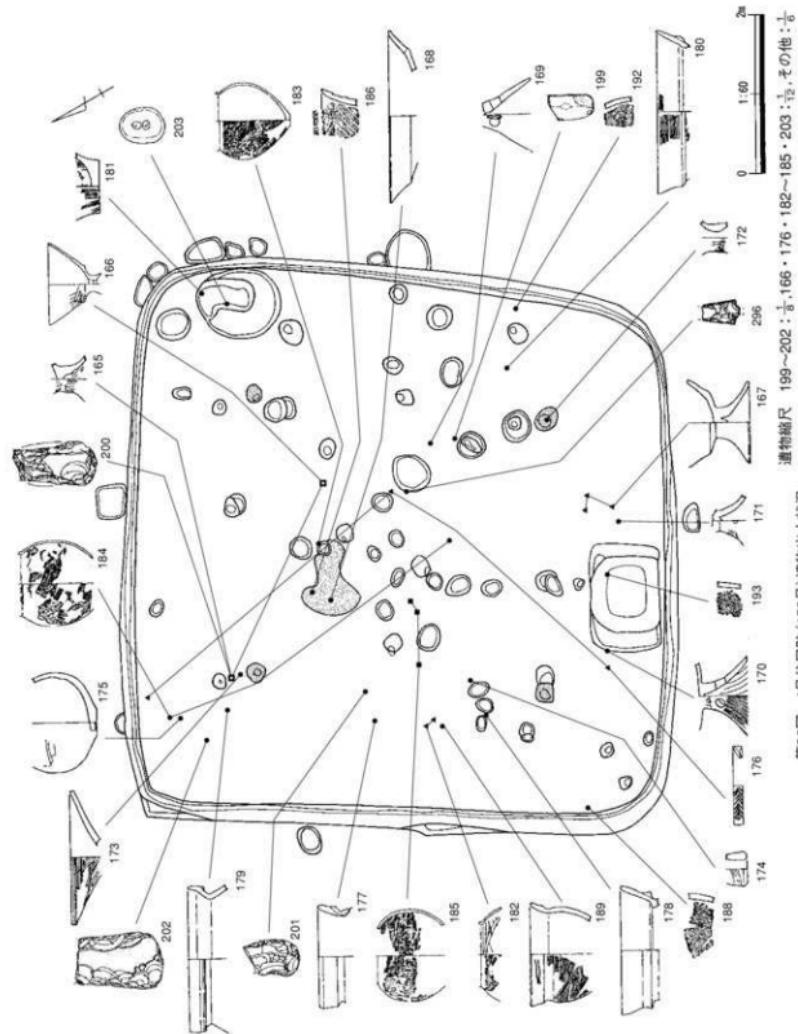


第34図 4号住居跡(158号)



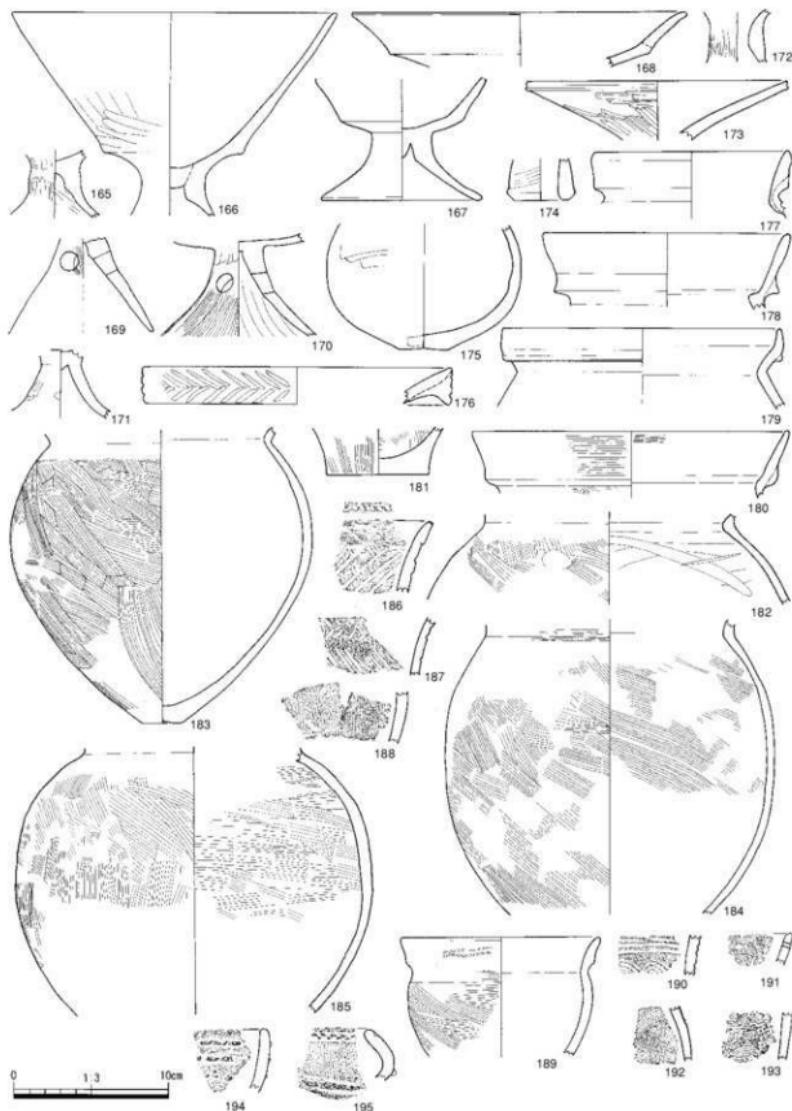
第35図 4号住居跡(158号)炭化材出土状況断面



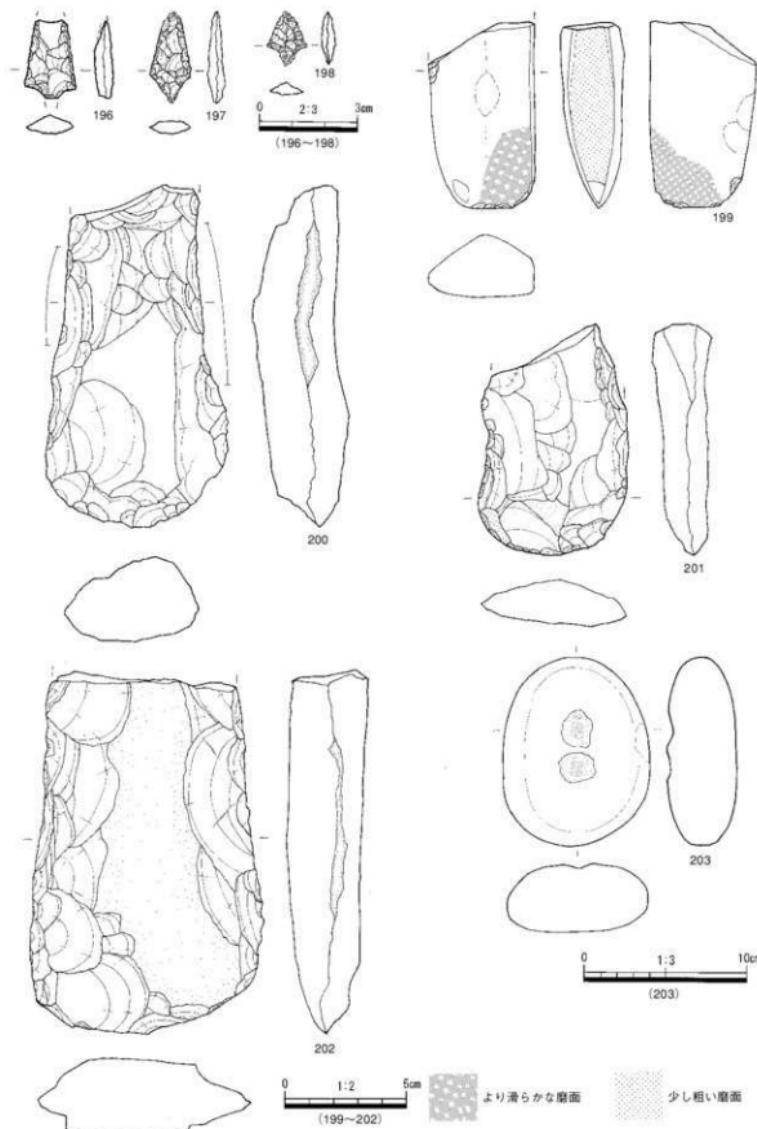


第36図 4号(住居跡158号)遺物出土状況

遺物縮尺 199~202:1/3, 166·176·182~185·203:1/2, その他:1/1



第37図 4号住居跡(158号)出土遺物(1)



第38図 4号住居跡(158号)出土遺物(2)

められる。甕は口縁部分を欠く。

出土遺物（第37,38図） 弥生土器、縄文土器、石器が出土した。

弥生土器は住居内の一括資料で、高杯（165～172）、器台（173）、壺（175,176,190,191,193）、甕（177～188,190,192）、鉢（189）、器種不明（174）を確認した。高杯、器台には東海地方の影響が認められる。全体にきめが細かく白っぽい胎土である。廻間I式に比定される。

壺のうち、176はパレススタイル土器と同技法のつくりで、191は補修孔をもつ小型直口壺である。

甕のうち、178～180は北陸系の有段口縁甕で、遺物の外形から月影式に比定される。ただし、外面の段をもつ器形は月影式と相違ないが、外面の段に対応した内面の段をもたず、緩やかに立ち上がる。これに対し、北陸地方で作られた甕には蓋が伴うことから、蓋の「受け」として機能する内面の段をもつ。このような相違点から、これらの甕は北陸地方で作られた土器が直接持ち込まれたのではなく、外形のみを忠実に模した在地の土器と思われる。183～185は口縁部を欠く。平底の小径の底部に「く」の字状の口縁部をもつ能登型甕と考えられる。186,187は弥生時代中期後半の横羽状文甕である。飛ダ独自の弥生土器型式「内垣内式」に比定される。内垣内式は東海地方の高藏式に並行する。器壁全体に板ナデを施した後、横方向の矢羽状沈線文を施す。186は、口縁部を肥厚させ、口唇部に刻みが入る。典型的な横羽状文甕である。

鉢（189）は、北陸系の有段口縁鉢である。器種不明（174）は筒状の形態で、下端部は平坦に仕上げられる。住居埋土中への混入と考えられる。

縄文土器（194,195）は、2群（194）と3群3類（195）を確認した。194は縄文時代前期、195は中期後葉に位置づけられる。住居埋土中への混入と考えられる。

石器は石鎌3点（196～198）、磨製石斧1点（199）、打製石斧3点（200～202）、磨石1点（203）、剥片116点が出土した。石鎌は有基鎌で、196と197は全長が長い。石材は196が下呂石製、197,198はチャート製である。磨製石斧は基部が欠損する。打製石斧はいずれも基部が欠損する。磨石は安山岩製で片面に2つの凹みがみられる。剥片の石材は下呂石87点、チャート29点で下呂石の方が多い。これらの石器は、石器自体の属性から厳密に時期を特定し得ない。しかし弥生時代にもみられる全長の長い有基鎌や磨製石斧が含まれること。また、北陸地方では月影式の時期に大量の打製石斧が伴う⁽³²⁾ことから、この住居に伴う石器の可能性はある。

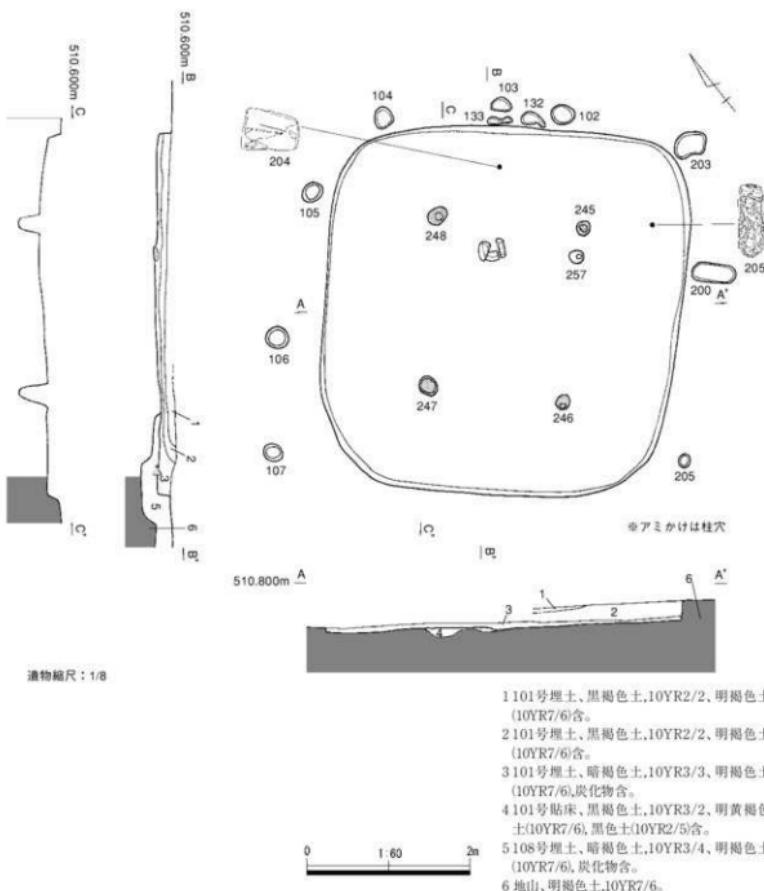
（3）5号住居跡（101号）

遺構（第39図、第11表） B区北端で確認し、地山上面で検出した。弥生時代末頃の堅穴住居跡で、縄文時代中期の堅穴住居跡（6号住居跡；108号）を切る。確認した4本の柱穴（245～248号）は床面からの深さ30～40cmを測る。隅丸方形の平面プランを呈する。床面には貼床が張られるが、部分的にしか確認できない。埋土中にはほとんど遺物が含まれなかった。住居の中央やや北寄りの柱穴より内側で、コの字型の石囲い炉を確認した。

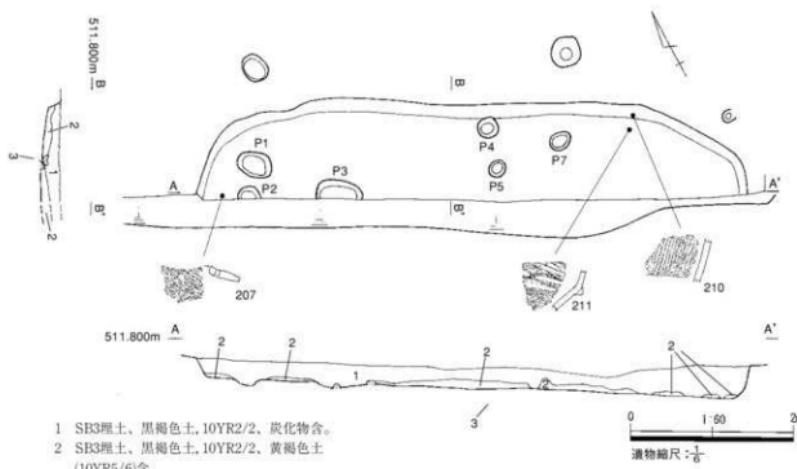
出土遺物（第42図） 弥生土器、石器、石製品が出土した。

弥生土器はほとんどが小片で、器種が把握できたのは器台（206）1点のみである。器台の脚部で、端部には面取りが施される。胎土は白っぽく、きめ細かい。

石器は打製石斧1点（205）、石製品（石冠）1点（204）、磨石類1点、剥片24点が出土した。石冠



第39図 5号居住跡(101号)遺物出土状況



第40図 2号住居跡 (SB3) 遺物出土状況

(204)は凝灰岩製で、半分が欠損する。剥片の石材はすべて下呂石である。石冠は縄文時代のもので、混入品と思われる。打製石斧は4号住居跡の石器類と同様に住居に伴う遺物の可能性がある。

(4)2号住居跡 (SB3)

遺構（第40図、第11表） A区東側南端で確認し、地山上面で検出した。弥生時代の堅穴住居跡である。住居跡一部の調査を行った。床面上で6基のピットを確認したが、柱穴として確認できるピットはなかった。貼床や炉は調査部分では確認できなかった。隅丸方形の平面プランを呈すると判断される。

出土遺物（第42図） 弥生土器、縄文土器、石器が出土した。

弥生土器は無頸壺(207～209)で同一個体と考えられる。焼成前に把手を取り付けるための2か所の穿孔を施し、外側には斜格子文を施した後ナデにより無文帯を作り出す。同様の無頸壺は、赤保木遺跡でも出土している（高山市教育委員会1993）。

縄文土器は、6群1類（210）と5群（211）が出土した。210は縄文が施されている。211は晩期の浮線文系の土器である。

(5)3号住居跡 (SB5)、1号溝 (SD9)、2号溝 (SD10)

遺構（第41図、第11表） いずれの遺構もA区北端で確認し、地山上面で検出した。

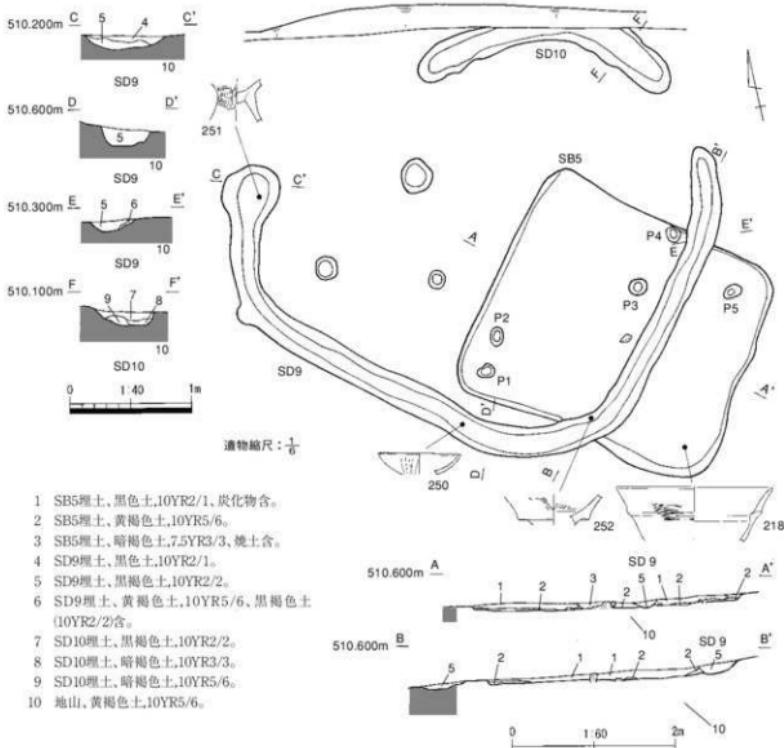
3号住居跡 (SB5) は弥生時代末頃の堅穴住居跡で、1号溝 (SD9) に切られる。柱穴、貼床、炉な

どは確認できない。床面までの深さは10cmと非常に浅い。隅丸方形の平面プランを呈する。断定はできないが、コーナー部分の平面形が対応する。このことから、2号溝は、3号住居跡の周溝をなす可能性がある。

また1号溝は、溝の内側で柱穴等は確認できないが、SD9が住居の周溝をなし、周溝をもつ平地式住居の可能性がある。

出土遺物（第42,50図） 弥生土器、土師器、繩文土器が出土した。

弥生土器は、甕（212～215,217）、鉢（218）、高杯（219～221）を確認した。甕のうち、212,213,217は弥生中期後半の横羽状文甕で、混入と考えられる。214はミニチュア土器である。鉢（218）は、北陸系の有段口縁鉢である。高杯（219～221）は、砂粒を多く含み、粗い作りのもの（220）と、きめ細かな胎土で精緻な作りのもの（221）が確認できる。

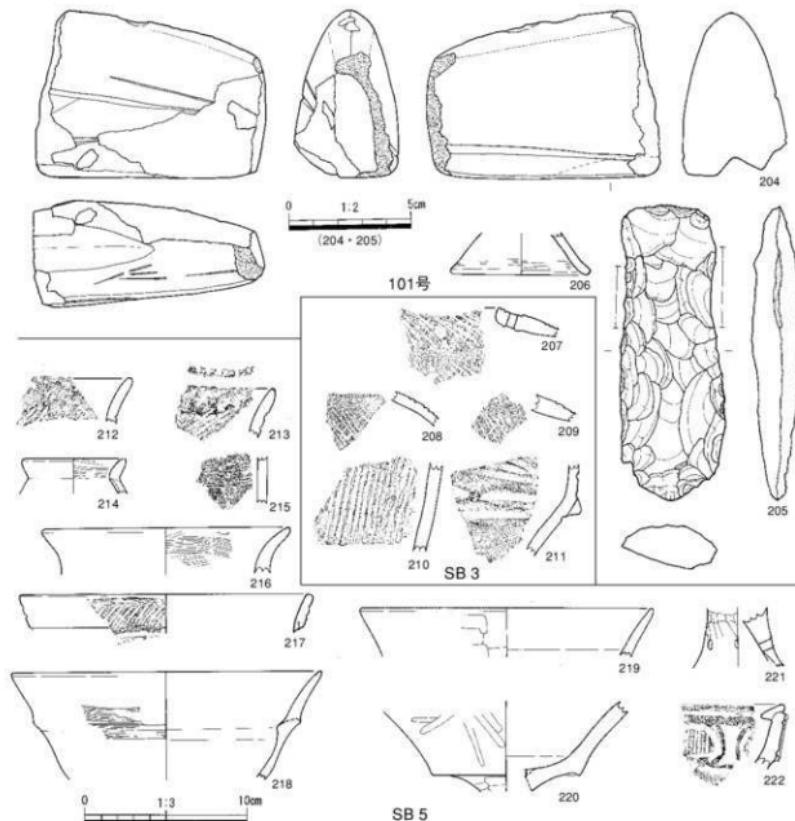


第41図 3号住居跡(SB5)、1号溝(SD9)、2号溝(SD10)

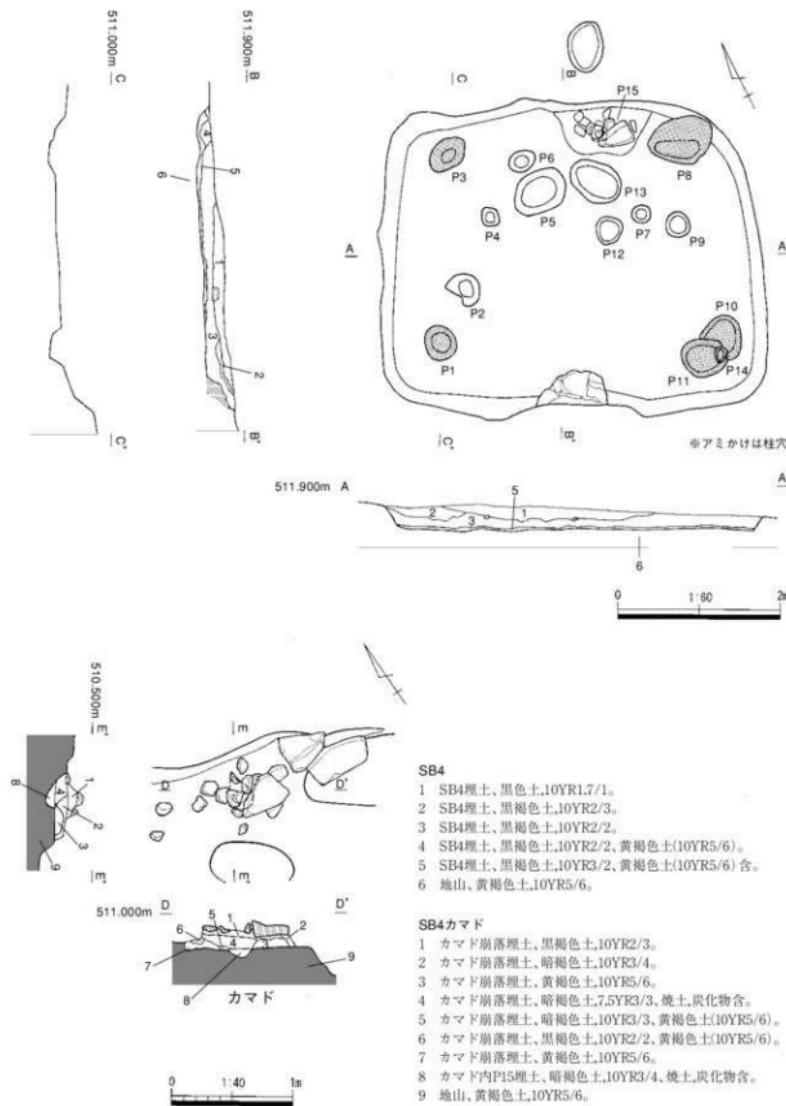
土師器甕（216）は、古墳時代の遺物で混入と考えられる。

縄文土器（222）は、3群1類に位置づけられる。隆帯や沈線で文様を描き、口縁端部を肥厚させ、内傾する面を作り出す。

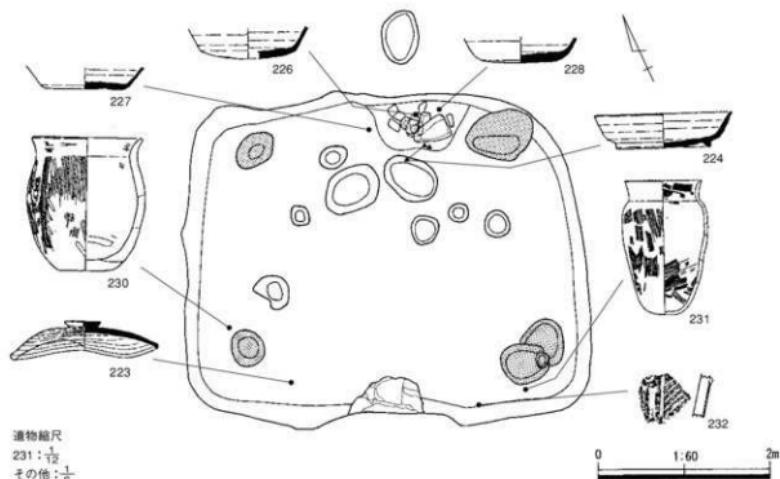
1号溝から弥生土器が出土した（第50図）。弥生土器は、杯（250）、高杯（251）、器台（252）を確認した。高杯は砂粒を多く含んだ粗い作りで、杯、器台はきめ細かな白っぽい胎土で精緻な作りである。



第42図 5号住居跡（101号）、2号住居跡（SB3）、3号住居跡（SB5）出土遺物



第43図 1号住居跡(SB4)



第44図 1号住居跡(SB4) 遺物出土状況

(6)1号住居跡 (SB4)

遺構（第43,44図、第11表） A区東端、住居の一部がB区にかかる位置で確認し、地山上面で検出した。奈良時代の堅穴住居跡で、隅丸方形の平面プランを呈する。確認した5本の柱穴（SB4P1,P3,P8,P10,P11）は床面からの深さ10~20cmを測る。P11とP10は同規模で、P10からP11へ作り替えた可能性がある。住居の南壁には大きな石が露頭し、住居の北側壁面に接してカマドがつくられる。カマドは崩落しており、焼土、炭化物、礫などが盛り上がるよう堆積する。焼土面で確認した礫はカマドの芯材と考えられる。カマド付近からは須恵器が集中して出土し、土師器はカマドから離れた柱穴附近から出土している。

出土遺物（第45図） 須恵器、土師器、縄文土器が出土した。

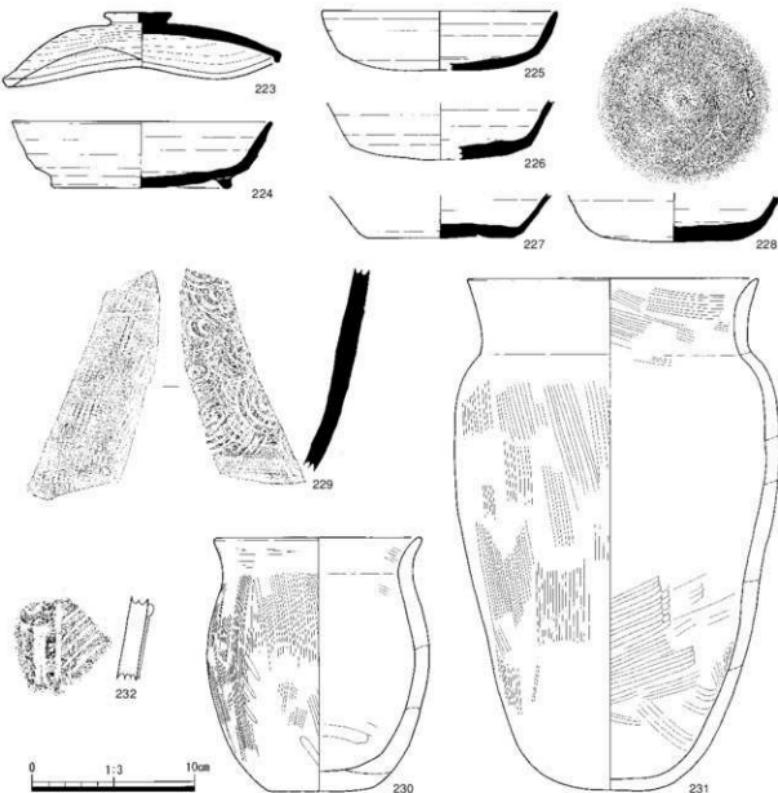
須恵器は、摘み蓋(223)、有台杯(224)、無台杯(225~228)、壺(229)を確認した。摘み蓋は焼成時に大きくひずんだものである。有台杯、無台杯ともに体部は直線的に立ち上がる。無台杯(228)は内面底部に「A」字状の線刻が確認できる。壺は外面には平行タタキ痕、内面には同心円の当て具痕が確認できる。

土師器壺のうち、(230)は頸部くびれがはっきりしない。外面に縦方向のハケ目調整、内面には横方向のハケ目及び板ナデが施される。長胴壺(231)は、外面には縦方向、内面には横方向のハケ目調整が施される。

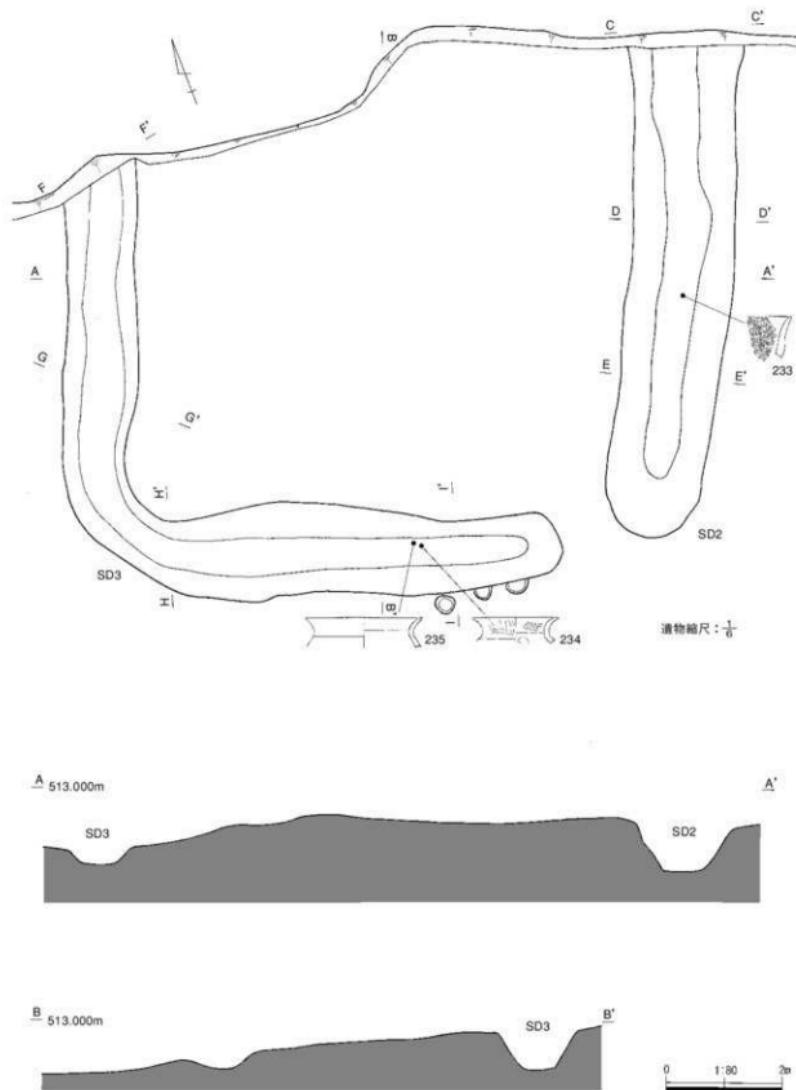
縄文土器(232)は、3群1類に位置づけられる。隆帯と沈線で区画し、区画内に斜行沈線がみられる。

第12表 中野大洞平跡・方形周溝墓観察表

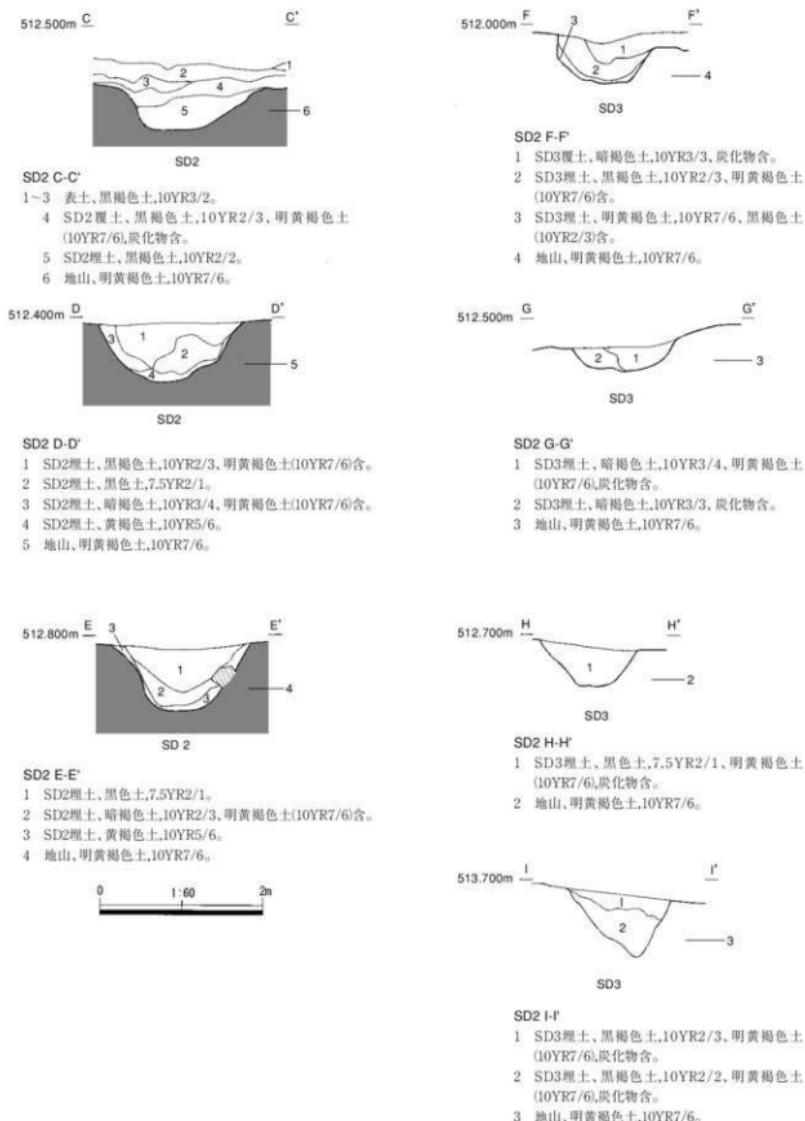
遺構名	区	グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形(四隅)	幅(m)	溝幅(m)	溝深(m)	時代
1号方形周溝墓 SD2・3	SZ2 A	5C・ 5D・ 6C・6D	512.5	N-25°-E	一部つな がる	11.4	SD2:1.8 SD3:1.0~1.6	SD2:0.7 SD3:0.3~0.8	弥生後期
2号方形周溝墓 SD6・7・8	SZ3 A	4H・ 4I・5H	510.0	N-26°-E	切れる	7.8	SD6:1.3 SD7:1.2 SD8:1.0	SD6:0.6 SD7:0.7 SD8:0.2	古墳



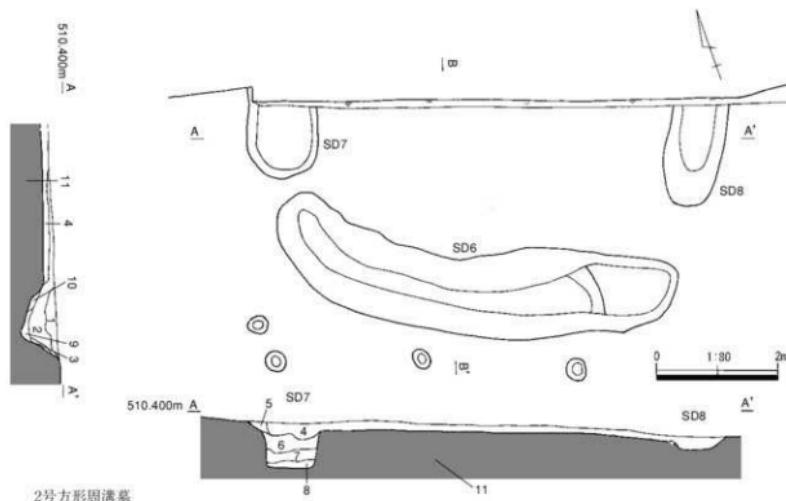
第45図 1号住居跡(SB4) 出土遺物



第46図 1号方形周溝墓(SZ2・SD2・SD3)遺物出土状況



第47図 1号方形周溝墓 (SD2・SD3)断面図



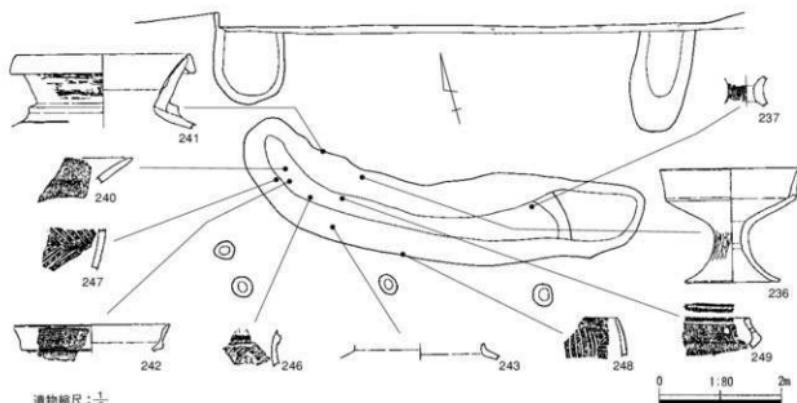
2号方形周溝墓

SD6, SD7, SZ3

- 1 SD6埋土、SZ3覆土、黒色土、10YR2/1、炭化物含。
- 2 SD6埋土、SZ3覆土、黒色土、7.5YR2/1、炭化物含。
- 3 SD6埋土、黄褐色土、10YR5/6。
- 4 SD8埋土、SZ3覆土、黒色土、10YR2/1。
- 5 SZ3覆土、黒褐色土、10YR2/2。
- 6 SD7埋土、褐色土、10YR4/6。

- 7 SD6埋土、褐色土、10YR4/6、黒色土10YR2/1含。
- 8 SD7埋土、黒色土、10YR2/1、黄褐色土(10YR5/6)含。
- 9 SD6埋土、黒色土、7.5YR2/1。
- 10 SD6埋土、黒色土、7.5YR2/1、黄褐色土(10YR5/6)含。
- 11 地山、黄褐色土、10YR5/6。

第48図 2号方形周溝墓(SZ3・SD6~8)

遺物縮尺: $\frac{1}{6}$

第49図 2号方形周溝墓(SZ3)遺物出土状況

(7)1号方形周溝墓 (SZ2,SD2,3)

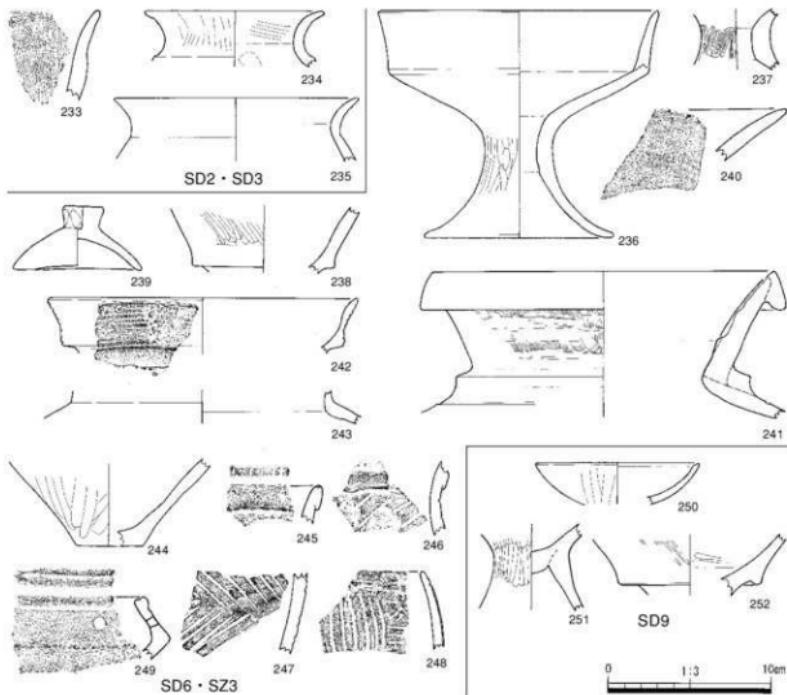
遺構（第46,47図、第12表） A区西端南側で確認し、地山上面で検出した。

1号方形周溝墓 (SZ2,SD2,3) は古墳時代の方形周溝墓で、2条の周溝(SD2,3)に囲まれる。SD2南端とSD3東端の間は掘り残される。平面プランは方形である。周溝は直線的ではば直角に折れ曲がる。方形周溝墓の東側及び南側では周溝が良好に残存し、深さ0.7~0.8mを測るが、西側では地山面が削平され、周溝も深さ0.3m程度と浅くなる。周溝埋土内から土師器が出土している。盛り土、主体部は確認できない。

出土遺物（第50図） 周溝(SD2,3)から土師器甕(233~235)が出土した。233は縦方向のハケ目調整が施され、奈良時代の土師器が混入したものと考えられる。234,235は口縁部から頸部にかけて縦方向のハケ目調整が施され、ハケ目終端が稜線上に浮き上がる。

(8)2号方形周溝墓 (SZ3,SD6,7,8)

遺構（第48,49図、第12表） A区大洞平5号古墳東側南端で確認し、地山上面で検出した。



第50図 1号方形周溝墓 (SZ2・SD2・SD3)、2号方形周溝墓 (SZ3・SD6)、1号溝 (SD9) 出土遺物

2号方形周溝墓（SZ3,SD6,7,8）は弥生時代後期の方形周溝墓で、周溝（SD6,7,8）に囲まれる。SD6西端とSD7南端、SD6東端とSD8南端の間が掘り残される。平面プランは方形である。周溝は、外側にふくらんで緩やかな弧を描く（SD6）。方形周溝墓の西側及び南側では周溝が良好に残存し、深さ0.6～0.7mを測るが、東側では地山面が削平され、周溝も深さ0.2m程度と浅くなる。周溝（SD6）埋土内から弥生土器及び縄文土器が出土した。弥生土器は方形周溝墓に伴う供獻土器セットと考えられる。盛り土、主体部は確認できない。

出土遺物（第50図） 周溝（SD6）から弥生土器、縄文土器が出土した。

弥生土器は、器台（236,237,240）、高杯（238）、壺蓋（239）、壺（241）、甕（242～248）を確認した。

このうち器台（236）は、厚手で重厚な作りで、北陸地方の土器型式である法仏式に比定される。また、壺蓋（239）は器台（236）とセット関係をなす。これらは、方形周溝墓に伴う供獻土器のセットと考えられる。器台（240）には、全面に朱が塗られる。壺（241）は内面に段がつく、これはパレススタイル土器と同技法である。段より上部は貼り付いた粘土の剥落が激しい。壺の外面には、縦方向の後横方向のハケ目調整が施される。

甕のうち、244は横羽状文甕の底部である。横羽状文甕は、底部付近には羽状文が付けられず、器壁全体に施される板ナデのみが認められる。245～247は横羽状文甕である。248は外面に板ナデを施した後、沈線文により縦方向に区画し、区画内を横方向に平行及び波状の沈線文が走る。この縦方向の区画は、信州地方の栗林式土器にみられる文様要素であり、248は栗林式の可能性がある。

縄文土器（249）は、3群3類に位置づけられる。キャリバー形の口縁部片である。口縁端部と口唇部に沈線を引き、補修孔もみられる。

（9）A・B区遺物包含層出土縄文土器（第51,52図）

A・B区遺物包含層からは、第1群1類、第2群、第3群1～3類、第4群、第6群1、5類が確認できる。

第1群1類 253～255は早期の押型文土器である。253,254はネガティブ、255はポジティブな押型文である。

第2群 256～260は前期の土器である。ともに横方向の細い突帯を貼り付ける。258,259は、薄手の土器で、258の突帯上及び地には縄文が充填される。260は口縁部で、7条の細い突帯を横位に貼り付け、その下部に縄文の充填がみられる。

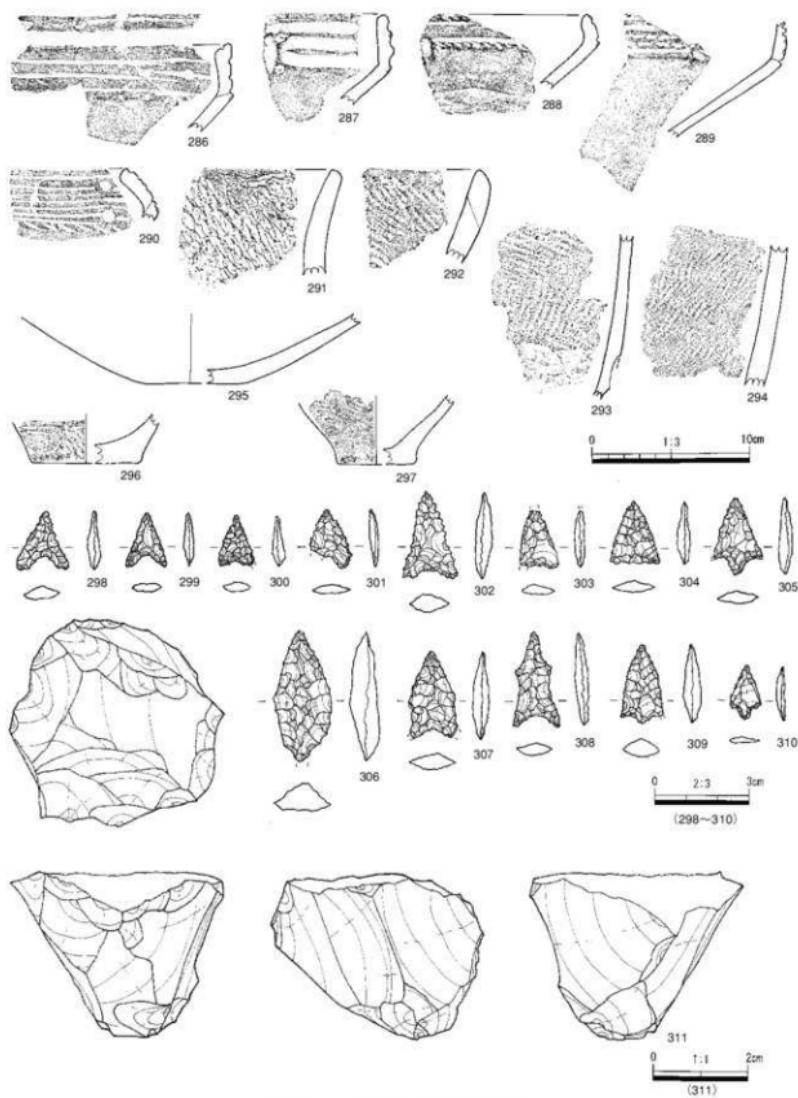
第3群 261～276は中期の土器である。261は口縁部に3条の幅広（10～12mm）の爪形文の施された中期前葉の西日本系の土器（船元式）である。263～268は中期の信州系の土器で、隆帯や沈線による文様が施される。265,268は矢羽根状沈線、266には斜行沈線が施され、267には蛇行する沈線が施されている。269～276は中期の北陸系の土器で、半截竹管状工具や櫛歯状工具による施文がみられる。

270～272は同一個体で、隆帯上に櫛歯状工具による施文がみられる。275は口縁部片で、棒状工具による沈線の下に櫛歯状工具による施文が、276は底部片で、縦の隆帯上に櫛歯状工具による施文がみられる。

第4群 277～290は後期の土器である。277は口縁部片で2条の沈線の間が磨り消され口縁端部の縄文の中にはわずかに赤彩がみられる。278は波状口縁の波頂部に貼付隆帯による瘤状突起で2つの円を作り、その中を刺突する。隆帯の下には、磨消縄文、波頂部からは雨だれ状に垂下する短沈線が施され



第51図 A・B区遺物包含層出土遺物(1)



第52図 A・B区遺物包含層出土遺物(2)

る。口縁端部内面には凹点もみられる。加曾利B2式と考えられる。279は棒状工具による沈線を横位に引き、その間に縄文を充填したり、連続刺突を横位に施す。280は棒状工具による沈線間に縄文を施し、屈曲部に連続した刻みを施す。277,278は後期中葉、279~290は後期後葉と考えられる。279,280は細い沈線を横位に引き、281は口縁端部と沈線の下に縄文を充填する。283,284は波状口縁を呈し、283は屈曲部の上に3本の細い沈線を横位に引き、屈曲部及び口縁端部には縄文を施し、波頂部には三叉文もみられる。八日市新保式と考えられる。284の口縁部は肥厚し、端部は丸く整形される。屈曲部のすぐ上と口縁端部には細い沈線がみられる以外は無文である。285は平口縁で、口縁端部には斜位に縄文を押し付けて刻み状の文様を施している。その下には縄文を施し、口縁と平行に12~13mmの幅で丁寧に磨いた帯状の無文帶3本を横位に施す。286、287は凹線文系の土器で、ともに平口縁である。286は屈曲部の上に3条の沈線を引いて、真ん中の線上には円形の刺突が施される。屈曲部には連続した押圧がみられる。口唇部内面には、なでる前に引かれた沈線がわずかに残る。287は屈曲部の上に幅広の3条の凹線を引き、縦の短沈線で凹線を切り、その横には円形の刺突2個が施される。288は屈曲部の上に2条の沈線を引き、屈曲部と口縁端部には連続した刻みを施す。屈曲部には縦長の凹点もみられる。289は屈曲部の上に沈線を引き、沈線の間に2条の横位の連続刺突を施す。290は屈曲部の上に2つの凹点を施し、7条の細い沈線を横位に引く。屈曲部には連続した斜位の刻みを施す。

第6群 291~294は縄文（293は羽状縄文）が施され、291,292は口縁部片、293,294は剥片部である。295~297は底部片で296と297は縄文が施される。

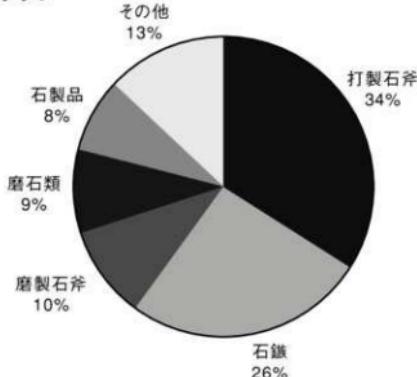
(10) 中野大洞平遺跡出土石器

本遺跡では、792点の石器類が出土した。その種類と点数は、第7表のとおりである。これらの石器類は、遺構内からの出土243点、遺構外からの出土549点である。

石器に関しては、遺構から出土した石器も、遺構外から出土した石器に含めて説明する。

石器組成グラフ（第13表）は下のとおりである。なお、剥片石器のうち石核・剥片については、組

第13表 石器組成グラフ



成資料から省いた。これを見ると、打製石斧や石鎌の割合が高い。縄文時代中期の堅穴住居跡1軒を確認しており、磨石類や石製品といった集落に関する石器も出土しているが割合としては少なく、打製石斧の割合が高いことから根茎類の採集地のような場所であったと考えられる。

以下、各器種ごとに分類を中心に説明する。

①石鎌（159・196～198・298～310・365） 21点出土した。石材は下呂石15点（71.4%）、チャート5点（23.8%）、黒曜石1点（4.8%）である。下呂石の割合が高い。石鎌は尖頭部と、矢柄との装着部である基部に着目して以下のように分類し、そして各石鎌を尖頭部と基部との組み合わせで分類した。

尖頭部の分類

1類：鋭角な尖頭部を持つもの

2類：1類と同じだが、全長が長い（全長が全幅の1.5倍以上）のもの

3類：鈍角な尖頭部を持つもの

4類：先端が小さく尖り、側縁部の方が張った形状のもの

基部の分類

A類：基部の中央部がU字型にえぐられているもの

B類：凹状のわずかなえぐりのはいるもの

C類：深いえぐりのはいるもの

D類：いわゆる平基鎌で、基部が直線状になるもの

E類：いわゆる円基鎌で基部が丸みを帯びて突出するもの

F類：いわゆる有基鎌で、基部に茎を持つもの

尖頭部の分類



1類



2類



3類



4類

基部の分類



A類



B類



C類



D類



E類



F類

石鎌の分類

196は下呂石製で先端部と基部を欠損するもののその大きさと形状から弥生時代の石器の可能性も考えられる。307,308は五角形状を呈しており、いわゆる飛行機鎌である。310は小型であるが黒曜石製である。

②石鎌 2点出土した。2点とも遺構外からの出土で欠損のため一部が残存するのみである。石材は2点ともチャートである。

③石匙 1点出土した。遺構外からの出土で欠損のため一部が残存するのみである。下呂石製である。

④スクレイパー（160） 6点出土した。160は6号住居跡（108号）より出土したもので、チャート製で刃部に明瞭な加工痕がみられる。石材は下呂石とチャートが各3点である。

⑤ビエス・エスキュー（くさび形石器）（375） 向かい合った2辺ないしは4辺の縁辺部につぶれや階段状の剥離痕の認められる石器をビエス・エスキューとした。周溝（SD5）より1点出土した。下呂石製である。

⑥石核（コア）（311） 8点出土した。遺構から2点、遺構外から6点である。357は下呂石製で何度も剥片を取ろうとした痕跡が認められる。石材はチャートが5点、下呂石が3点である。

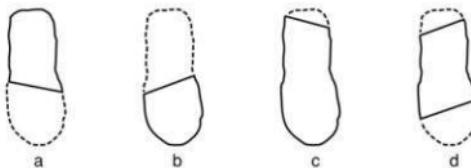
⑦打製石斧（石製土掘り具）（200～202・205・312～315・372） 29点出土した。遺構から8点、遺構外から21点である。各石材ごとの点数は、凝灰岩17点、安山岩5点、花こう斑岩2点、ディサイト2点、砂岩2点で凝灰岩が多数を占めた。打製石斧の形状や折損の部位によって次のように分類した。分類できなかった個体もあるため、分類ごとの合計数は一致しない。

打製石斧の形状による分類（27点）

1類：胴部がほぼ平行な、いわゆる短冊形と呼ばれるもの。18点

2類：胴部がくびれる、いわゆる分銅型と呼ばれるもの。5点

3類：形状が基部に向かってやや収束する、いわゆるバチ型と呼ばれるもの。4点



打製石斧の折損の部位による分類

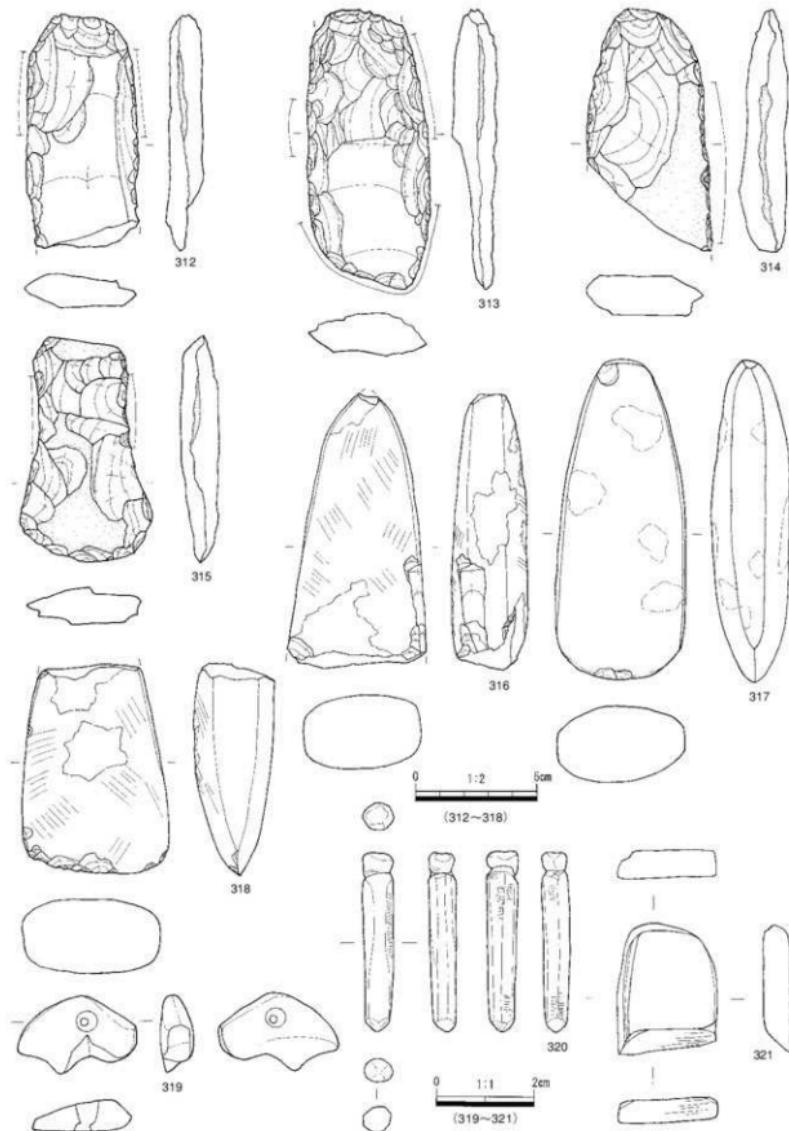
打製石斧の折損の部位による分類（合計26点）

a類8点、b類10点、c類4点、d類4点

基部や刃部の折損が多い。また、装着痕と考えられる磨耗が12点で認められた。

⑧磨製石斧（161・199・316～318・321） 8点出土した。遺構から3点、遺構外から5点である。161は小型の磨製石斧である。蛇紋岩製で遺構番号108から出土した。遺構番号108からは蛇紋岩製の磨製石斧の一部も出土している。317は完形で残存し、316は刃部、318は基部が折損する。遺構番号158より出土した199はやや不定型であり、刃部が折損している。321は濃い緑色をした蛇紋岩製で小型だが丁寧に磨かれており、鋭角な刃部を作出している。表裏面ともに平滑に仕上げられている。片方の側面に再加工の跡が認められることから折損したものを再加工したことが考えられる。石材は蛇紋岩4点、ドライイト2点、砂岩1点、流紋岩質凝灰岩1点である。

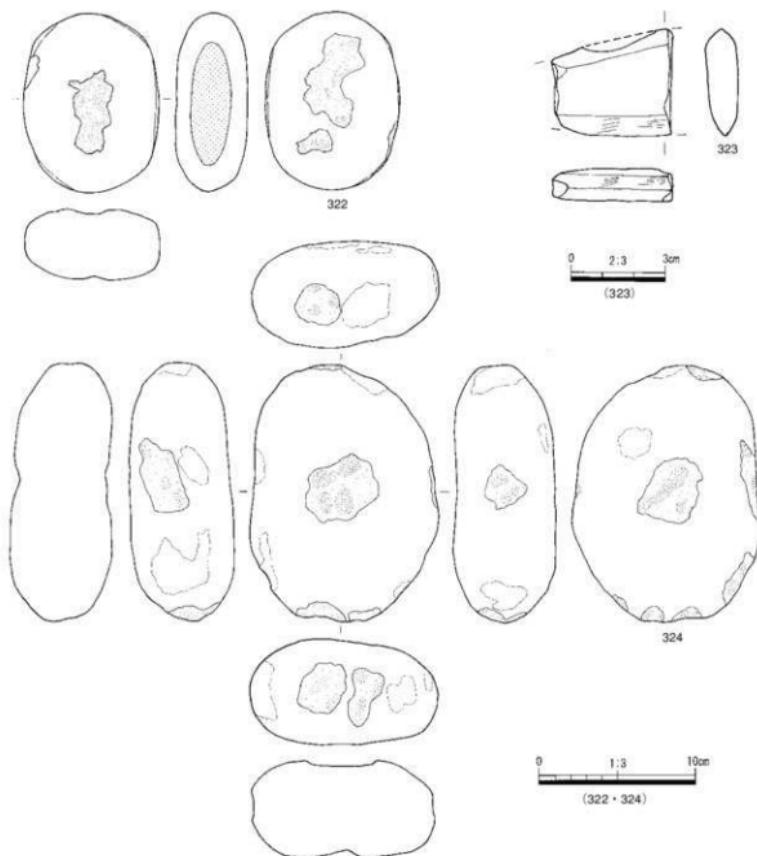
⑨磨石類（203・322・324・349） 磨石・敲石・凹石を磨石類とした。8点出土した。遺構から4点、遺構外から4点である。203は遺構番号158より出土し、片面に2個の凹みがみられる。322はたわし状の形状をしており、両面に凹みがみられ、片方の側面に明瞭な磨り面がみられる。324は表裏両



第53図 A・B区遺物包含層出土遺物(3)

面に凹みがみられ、残りの4つの面全てにも敲打による凹み状の痕跡が認められる。349はC区遺物包含層より出土した。長円形の石の片方の側面に3か所の磨り面が認められる。石材は安山岩が5点、溶結凝灰岩1点、砂岩2点である。

⑩石製品（204・319・320・323） 4点出土した。204は石冠で、遺構番号101から出土した。石材は凝灰岩である。真ん中で折れており二分の一の残存であるが、片方の面の下の方と、底面に線刻による文様が施されている。319はヒスイ製の垂飾で、穿孔が認められる。320は小型であるが全面をよく磨いており、頭部付近には挟りを入れている。頭部の端は平坦に仕上げられており、下端はやや尖り気味に磨いて仕上げられており、垂飾の可能性が考えられる。石材はパイロフィライト（葉ろう石）



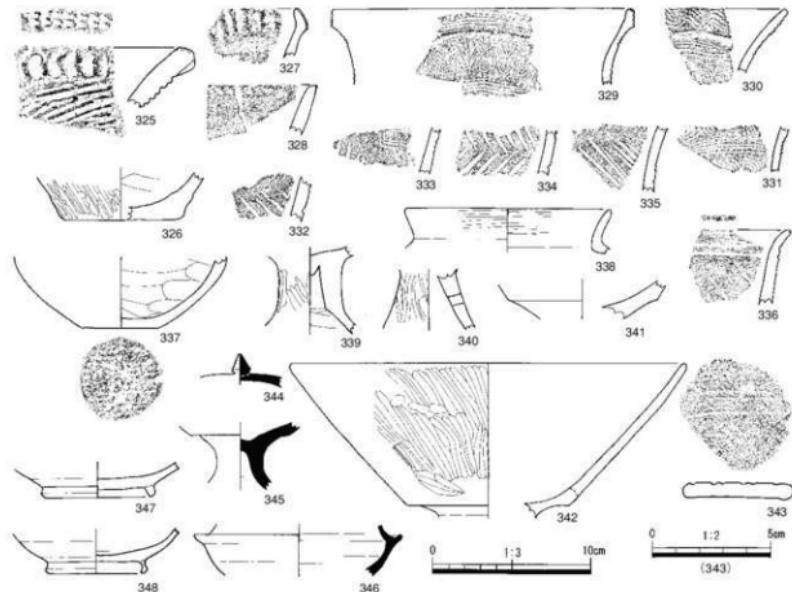
第54図 A・B区遺物包含層出土遺物(4)

である。323は両端を折損するが片方の側面を丁寧に磨いて刃部を作出し、もう一方の側面には一部欠損するもののや斜めの平坦面が認められる。石材は砂岩である。

⑪剥片（フレイク） 全部で703点出土した。内訳は遺構から218点、遺構外から485点である。石材別では下呂石508点（72.3%）、チャート180点（25.6%）、黒曜石10点（1.4%）、その他5点（0.7%）であり、下呂石の割合が高く、統いてチャートが多い。

遺構外（遺物包含層）についてみてみると、下呂石360点（74.2%）、チャート113点（23.3%）、黒曜石9点（1.9%）、その他3点（0.6%）であった。これを質量でみてみると、下呂石1139.8グラム（64.4%）、チャート616.4グラム（34.9%）、黒曜石10.4グラム（0.6%）、その他 2.5グラム（0.1%）であり、点数の割にはチャートの質量の割合が高いといえる。

次に遺構についてみてみると、下呂石148点、チャート67点、黒曜石1点、その他2点であるが、これを遺構ごとに細かくみてみると、縄文時代の遺構である6号住居跡（108号）は下呂石5点、チャート20点とチャートの方が多い。それに対して、弥生時代の遺構である5号住居跡（101号）と4号住居跡（158号）を比較すると、5号住居跡が下呂石のみ24点の出土でチャートの出土が無く、また4号住居跡は下呂石87点、チャート29点といずれも下呂石の剥片が多い。



第55図 A・B区遺物包含層出土遺物(5)

(1)A・B区遺物包含層出土弥生土器、須恵器、灰釉陶器（第55図）

弥生土器(325～343)は、水神平式土器(325,326)、櫛描波状文の施された壺(329～331)、横羽状文壺(332,334～336)、「く」の字状口縁の壺(338)、壺底部(337)、高杯(339～342)、土製円盤(343)である。

須恵器(344～346)は、蓋(344)、高杯(345)、杯身(346)で、灰釉陶器(347,348)は碗である。

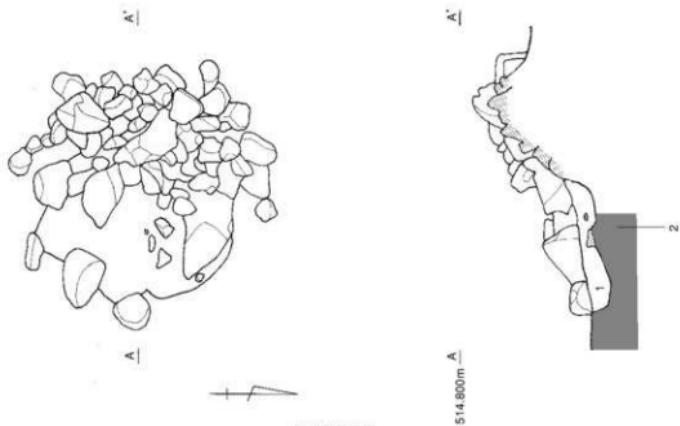
第4節 C・D・E区の遺構と遺物

(1)焼碟集積遺構（375号）（第56図）

C区南側の西端、斜面際の平坦面で確認し、地山上面で検出した。長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.18mの土坑状の掘り込みに、直径5～20cm程の碟が集積する。集積した碟は被熱により赤く変色している。この遺構に伴う遺物は確認されていないが、他遺跡の類例から、縄文時代早期の焼碟集積遺構と判断した。

(2)階段状遺構（376号）（第57,58図）

D区東側、谷状に地山面が落ち込む際で確認し、地山上面で検出した。D区を南北に貫き、1.2～1.8mごとに、10～30cmの段差で9段にわたり、階段状に北から南へと上がってゆく。6段目には1列に4基のピットが並ぶが階段状遺構との関係は不明である。階段状遺構周辺では全く遺物が出土していない。また、南側の断面には谷状に下る部分との境で、溝もしくは土坑状の掘り込みを確認したが、その性格は不明である。

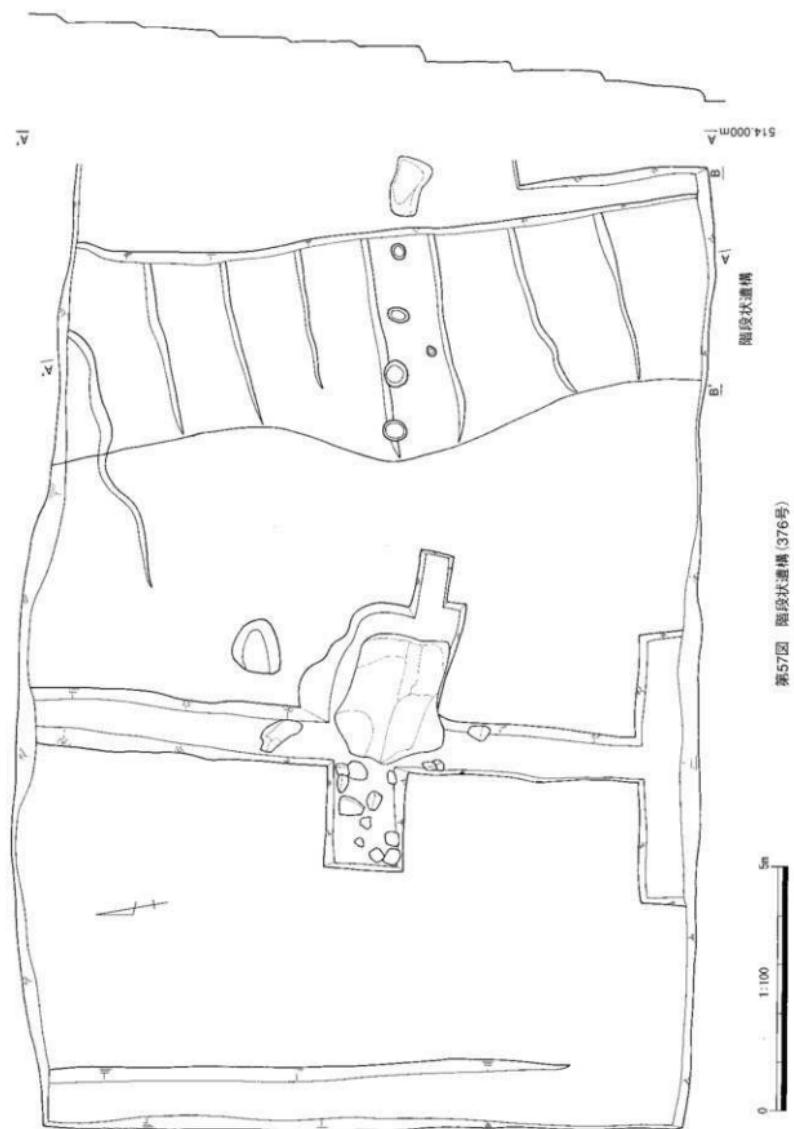


焼碟集積遺構

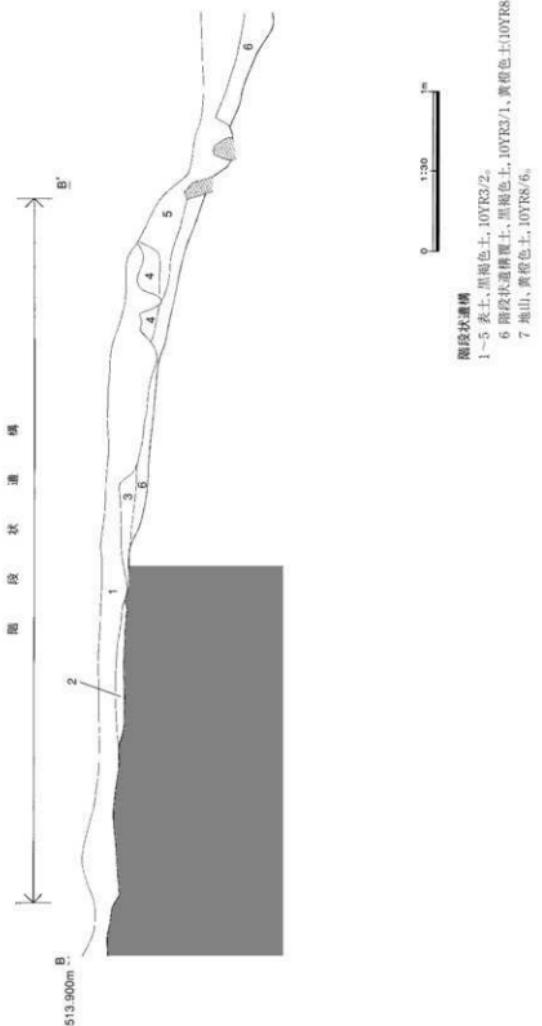
1 烧碟集積遺構(375号)埋土、黒褐色土、10YR2/2、明黄褐色土
(10YR7/6)合。

2 地山、明黄褐色土、10YR7/6。

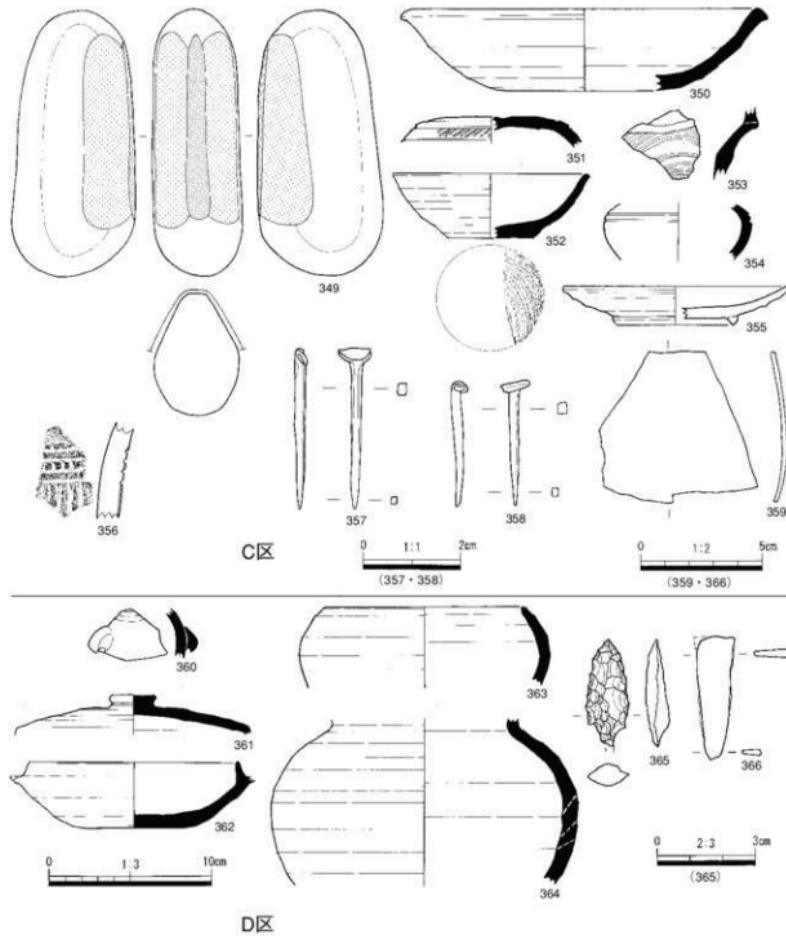
第56図 烧碟集積遺構（375号）



第57図 階段状遺構(376号)



階段状造構の南には、大洞平2号古墳が位置することから、古墳へと向かう「墓道」の可能性を想定し、谷地形で露頭していた濃飛雲紋岩の巨石を古墳へと運んだ可能性もあると考え、露頭する石の周囲で断ち割りを入れ確認した。その結果巨石は岩盤が露頭していたもので、階段状造構が古墳へ石を搬入した墓道である可能性は考えがたい。



第59図 C・D区遺物包含層出土遺物

(3)C・D区遺物包含層出土遺物（第59図）

C・D区は焼蹠集積遺構の他に、特筆すべき遺構はないが、C・D区とも大洞平4号墳に隣接する部分の遺物包含層からは遺物が出土した。古墳に伴う遺物とは考えにくい遺物が多い。

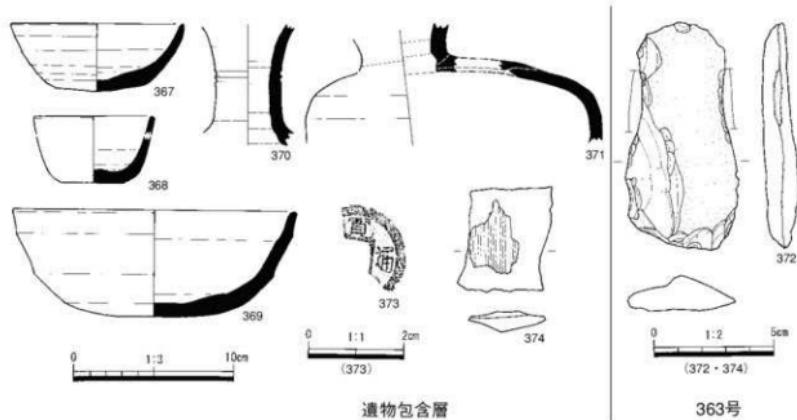
C区では、須恵器(350～354)、灰釉陶器(355)、金属製品(357～359)、縄文土器(356)、石器(349)を確認した。須恵器は、鉢(350)、蓋(351)、杯(352)、提瓶(353)、短頭壺(354)、灰釉陶器は皿(355)、金属製品は釘(357,358)、不明鉄製品(359)、縄文土器は3群2類(356)、石器は磨石類(349)である。

D区では、須恵器(360～364)、金属製品(366)、石器(365)を確認した。須恵器は、提瓶(360)、摘み蓋(361)、杯身(362)、鉢(363)、短頭壺(364)、金属製品はクサビ(366)、石器は石鎌(365)である。

(4)E区遺物包含層出土遺物（第60図）

E区は、数基の土坑が確認された程度で特筆すべき遺構はないが、土坑(363号)から打製石斧(372)が出土し、遺物包含層からは須恵器(367～371)、古銭(373)、金属製品(374)が出土した。

須恵器は、杯(367,368)、鉢(369)、長頭壺(370)、平瓶(371)、古銭(373)は寛永通宝、金属製品(374)は木質の付着が確認できるが残欠である。



第60図 E区遺物包含層・土坑(363号)出土遺物

(注1)名古屋市教育委員会伊藤正人氏のご教示による。

(注2)福井県教育厅理藏文化財調査センター赤澤徳明氏のご教示による。

第6章 大洞平5号古墳

第1節 墳丘・周溝（第61～63図、第14表）

大洞平5号古墳は、中野大洞平遺跡A区西側、1号方形周溝墓の東側で確認した。墳丘の一部が調査対象範囲であるため、横穴式石室と考えられる内部主体は入り口部の確認にとどまった。

断ち割りトレシにより、墳丘盛り土（第62図スクリーン部）を確認した。墳丘盛り土は、褐色土、暗褐色土、明褐色土、黄褐色土、黒褐色土などからなる。また、墳丘盛り土の下に、幅2m以上にわたる遺構の埋土を断面で確認している。この遺構は、墳丘盛り土が覆い被さるため、古墳に先行する遺構だが遺物は確認しておらず、遺構の性格は不明である。

墳丘・周溝とも、東側が削平され、東側のコーナーは確認できない。残存する墳丘部分は幅17mであるが、入り口部分が墳丘中心に開口するとすると、入り口部の中心から墳丘西側の周溝との境まで11mあることから、一辺20mを超える大型の方墳であることが分かる。

周溝は、幅6～8m、深さ0.3mを測る。周溝の主体部入り口前面にあたる南側部分は周溝が掘り残され、土橋状の盛り上がりが確認できる。また、周溝西端は後世の溝に攪乱を受けている。

遺物は、主体部入り口付近を中心に出土している。また、周溝内の遺物は墳丘側で集中して出土している。また、甕類は入り口西側の周溝部分で出土している。

第2節 出土遺物（第64～66図）

大洞平5号古墳の墳丘及び周溝から、須恵器(376～402,408～418)、弥生土器(403,404)、土師器(405)、金属製品(406,407,419,420)が出土した。

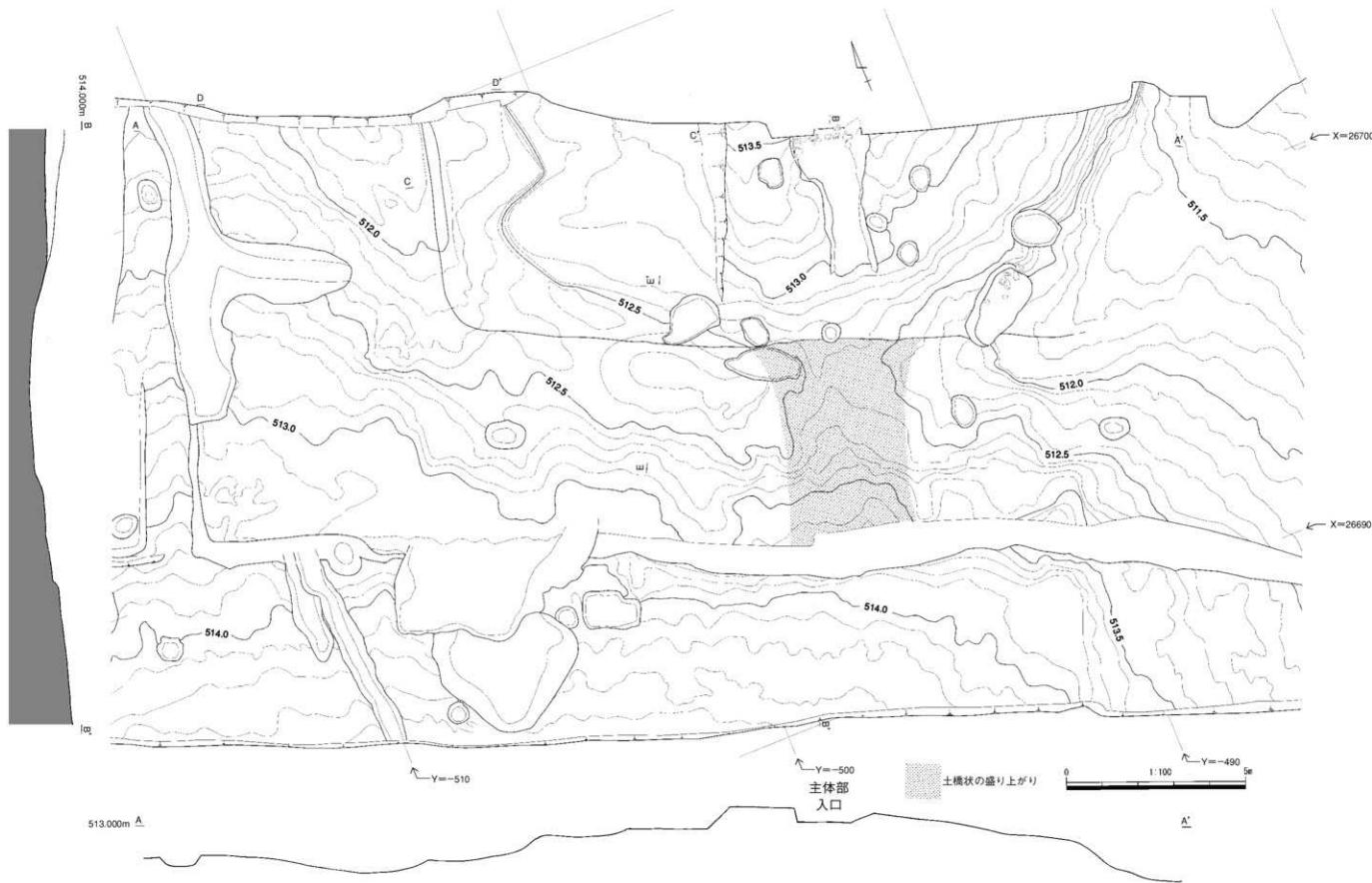
大洞平5号古墳は、中野大洞平遺跡の中に位置するため、混入と思われる遺物も含まれる。須恵器(376～378,392,408～414)、弥生土器(403,404)などは古墳に伴わない遺物と思われる。

古墳に伴うと思われる遺物を中心に記述する。

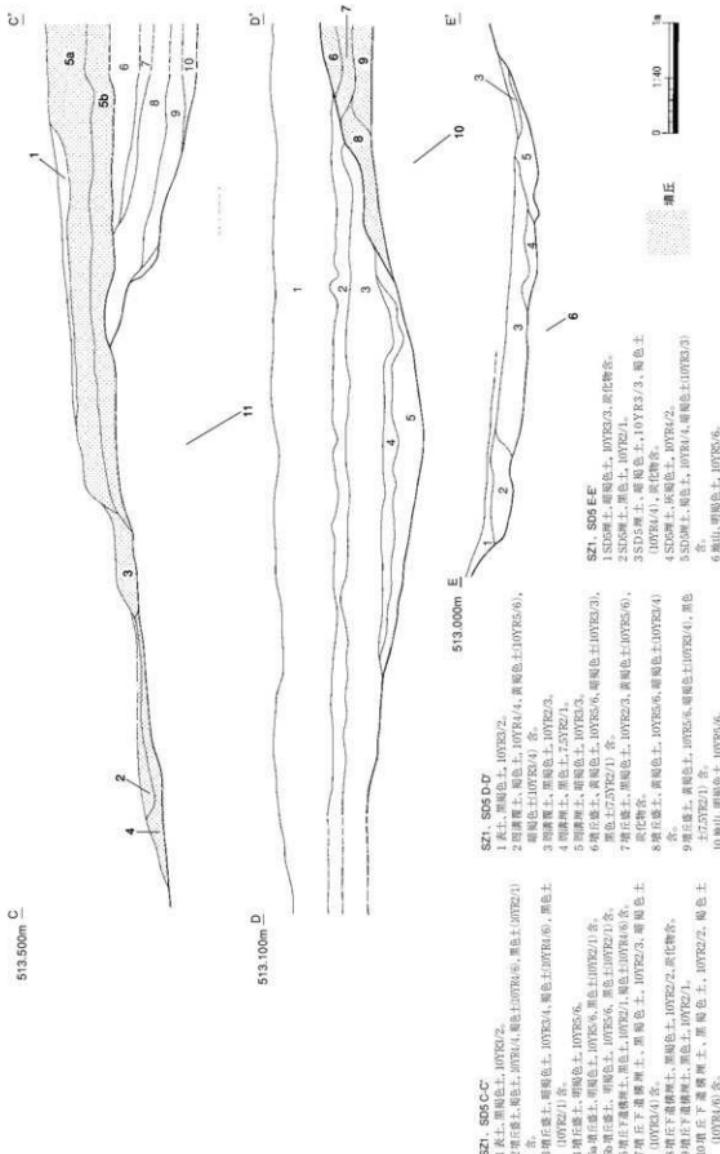
須恵器は、杯蓋(379～381)、杯身(382～391)、平瓶(393)、蓋(394)、高杯(395～398)、有蓋高杯(399)、提瓶(400～402)、甕(415)、短頭甕(416)、壺(417,418)を確認している。このうち杯蓋は体部に稜をもない。また、杯身はかえりから口縁部にかけての立ち上がりが短く内擣する。提瓶にはリング状の耳が取り付けられるもの(400)と耳がボタン状になるもの(401)がみられる。甕(417,418)は、体部外面に平行タタキ目、体部内面に同心円の当て具痕が残る。

第14表 大洞平5号古墳観察表

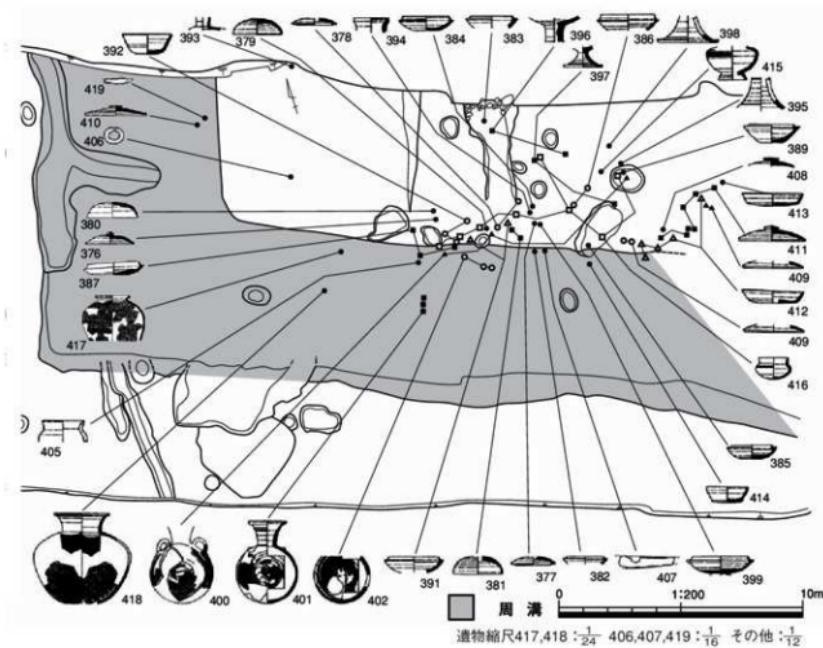
遺構名	区	グリッド	海拔(m)	墳形	主軸方位 (墓道部分)	墳丘幅 (m)	墳丘高 (m)	周溝幅 (m)	周溝深 (m)	内部主体	墓道 (m)
大洞平5号古墳	SZ1,SD5	A 4F-4G 5E-5G	513	方墳	N-11°-E	17以上	2.8	6~8	0.3	調査区外 (横穴式石室)	3.8



第61図 大洞平5号古墳 (SZ1, SD5)

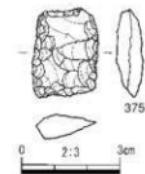


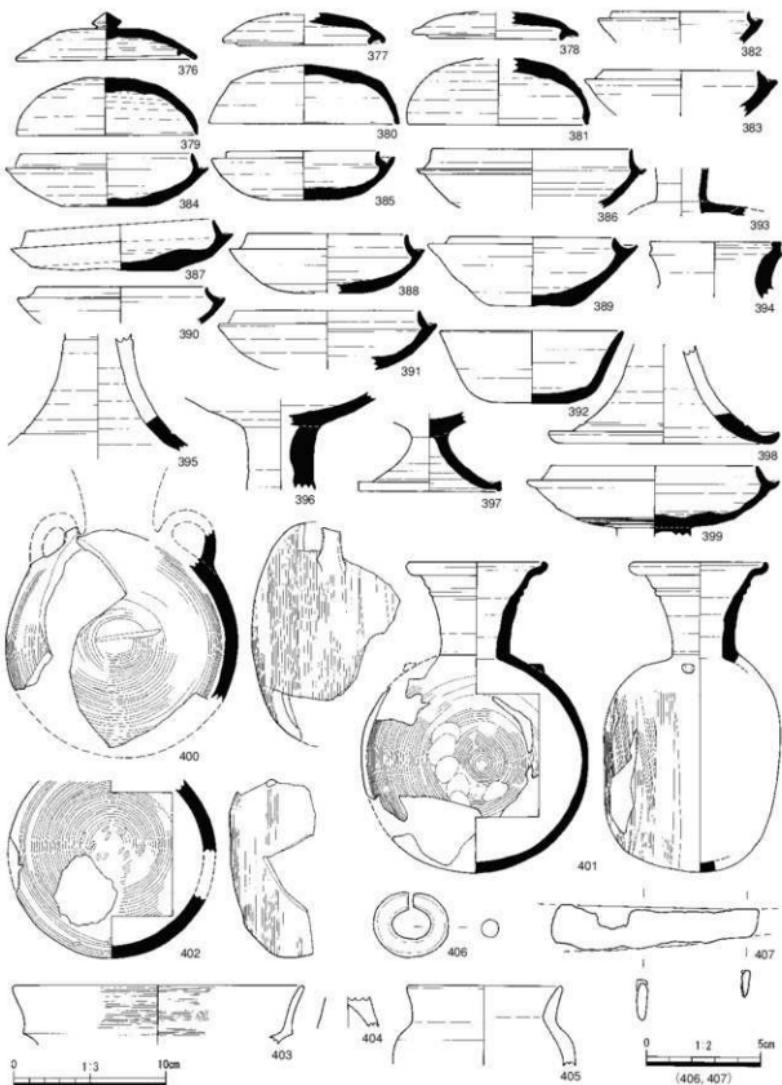
第62圖 大洞平5號古墳(SZ1・SD5)断面



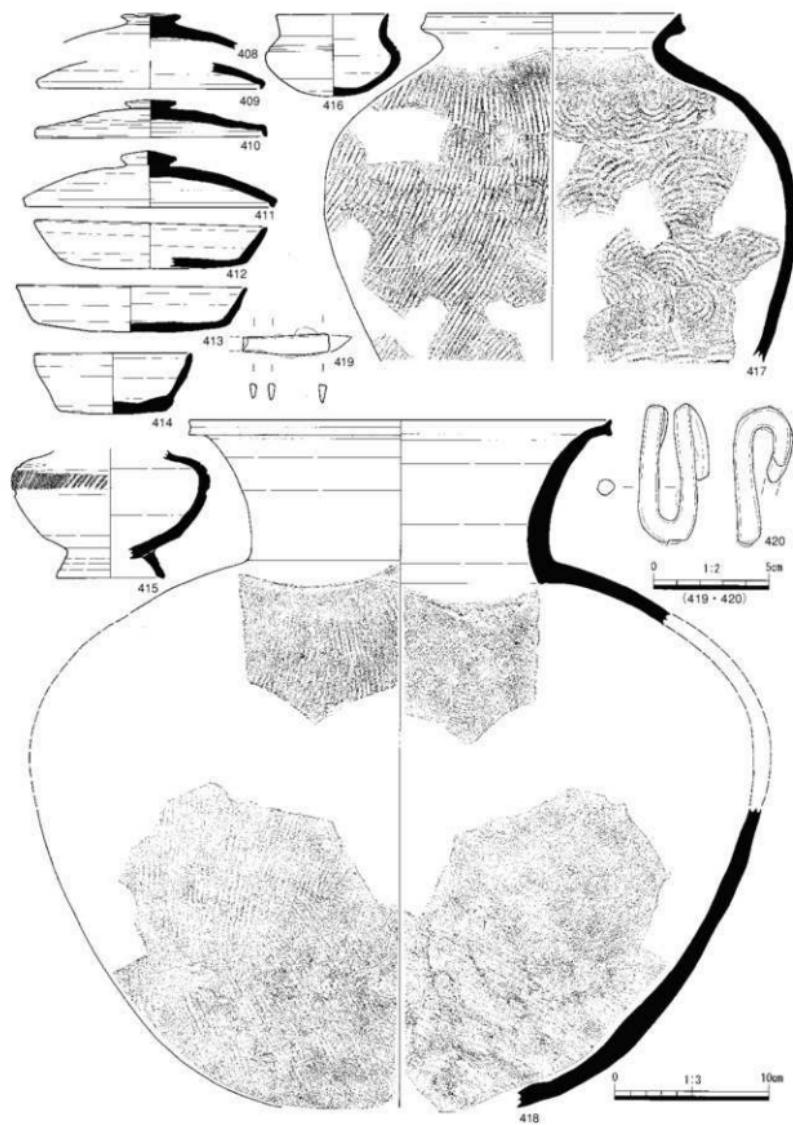
第63図 大洞平5号古墳 (SZ1・SD5) 遺物出土状況

金属製品は、馬具(兵庫鎖、420)、耳環(406)、小刀(407)、刀子(419)、を確認した。いずれも周溝内の出土であるが、元来主体部に副葬されていたものと考えられる。ただし馬具は4Hグリッドからの出土で厳密には周溝内出土といえるかどうか微妙であるが、古墳に伴う副葬品としか考えられない。兵庫鎖で、鎖を鞍からつり下げた鐘錠と考えられる。上部が閉じることなく隙間が空いていることから、兵庫鎖の中間部分ではなく、最上段にあたる鎖と考えられる。この隙間の部分に鍔具の刺金の部分が連結し、革帶に固定されたものと考えられる。耳環は中実の金環と思われるが、金箔は確認できなかった。小刀は茎の出土で、刃部は出土していない。刀子は切先と茎の部分が欠損している。

第64図 周溝 (SD5)
出土遺物(2)



第65図 周溝(SD5)出土遺物(1)



第66図 墓丘及び周辺部出土遺物

第7章 自然科学分析…西ヶ洞廃寺跡出土鉄滓・刀子の分析

第1節 はじめに

西ヶ洞廃寺跡の調査では、鉄滓や刀子などの鉄製品が出土した。鉄滓の多くは鍛治関連遺構2(SB3・4)の床面から出土しており、鍛治関連遺構2は西ヶ洞廃寺跡に関連した鍛冶遺構と考えられる。なお、鉄滓の中には楕円形鉄滓も含まれる。鉄の原材料や性格づけを行うために、鉄滓及び楕円形鉄滓の成分分析を行うこととした。なお、遺物包含層より出土した鉄製品である刀子についても併せて分析し、その関連について検討した。

分析する資料は、出土した鉄滓5点（楕円形鉄滓1点を含む）と刀子1点の合計6点である。分析作業については、藤根 久（パレオ・ラボ）が担当した。

第2節 分析結果

1. 試料と方法

試料は、予め出土状態を記録するたびマイクロスコープを用いて写真撮影した後（第67図）、岩石カッターを用いて任意の位置において厚さ1cm程度の切断面を作成し、エポキシ樹脂で包埋した。試料は、切断面を研磨して平面を作成し、最終にダイヤモンドパウダーを用いて研磨した。さらに、金属組織を同定するために、3%硝酸エチルアルコール溶液を用いてエッチングを行った。

各試料は、マイクロスコープを用いて組織観察を行った。また、化学組成を調べるために、各試料の典型的な部分についてポイント分析を行った。測定は、株堀場製作所製XGT-5000Type IIを用いた。測定は、X線導管径 $10\mu\text{m}$ 、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。定量計算は、標準試料を用いないFP法（ファンダメンタルバラメータ法）で半定量分析を行った。

第15表 試料とその詳細

試料No	遺物	遺物No	出土遺構	形 状(単位:cm)			磁 性
				長 軸	短 軸	厚 さ	
1	楕円形鉄滓	661	SB3	12.3	9.7	4.0	僅かに有り
2	鉄滓	660	SB3	9.0	7.1	3.9	僅かに有り
3	鉄滓	912	SB3	4.9	—	1.5	強い
4	鉄滓	723	SB3	3.8	2.5	2.2	僅かに有り
5	鉄滓	669	SB3	4.6	3.9	1.5	有り
6	刀子	893	包含層	1.8	1.2	0.3	有り

2. 結果

第16表に、各試料の外観の特徴、切断面の構造、組織の構成鉱物等についてまとめた。また、代表的な部分の化学組成を第17表に示す。なお、構成鉱物は、黒色スラグにおいてスピネル型 (MgAl_2O_4)

やファイアライト (Fayalite: 2FeO · SiO₂) あるいは磁鉄鉱 (FeO · Fe₂O₃) が検出された。また、金属部においてパーライト (pearlite; γ 鉄) とフェライト (ferrite; α 鉄) が検出された。

第16表 各試料中の組織や構成鉱物の特徴

試料No	遺物	遺物No	構造	金属組織 ()内は黒色スラグ)	構成鉱物				備考
					黒色スラグ部	金属相	白色部分		
1	碗型鉄滓	661	2相	(デンドライト組織)	スピネル型 ファイアライト	磁鉄鉱			
2	鉄滓	660	2相	(デンドライト組織)	スピネル型 ファイアライト		スピネル型 ファイアライト		
3	鉄滓	912	2相	片状黒鉛組織	スピネル型 ファイアライト	パーライト (γ 鉄) フェライト (α 鉄)			
4	鉄滓	723	2相		スピネル型 ファイアライト	磁鉄鉱		空洞有り	
5	鉄滓	669	1相	(デンドライト組織)	スピネル型 ファイアライト			鉄滓片を含む	
6	刀子	893	1相			パーライト (γ 鉄)		芯部は空洞化	

第17表 典型的な部分の化学組成

No	遺物	遺物	位置	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	As ₂ O ₃	SrO	ZrO ₂	合計	造滓成分	
1	661	碗型	a	0.44	11.06	29.38	0.40	0.09	1.63	1.59	0.28	0.00	0.07	55.01	0.00	0.00	0.02	0.03	100.00	42.47	
		鉄滓	b	1.55	2.48	29.99	0.00	0.13	0.07	0.30	0.00	0.03	0.13	65.29	0.00	0.01	0.01	0.01	100.00	34.32	
2	660	鉄滓	a	0.00	11.61	32.50	0.63	0.21	2.70	1.63	0.61	0.23	0.06	49.76	0.00	0.01	0.02	0.00	100.00	45.74	
			b	0.05	5.29	25.09	0.29	0.08	0.82	0.67	0.00	0.03	0.26	67.38	0.01	0.00	0.01	0.02	100.00	31.10	
3	912	鉄滓	a	0.00	0.50	0.00	0.01	0.03	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	99.34	0.03	0.00	0.01	0.01	100.00	0.50	
			b	3.03	1.34	0.02	0.04	0.02	0.03	0.00	0.00	0.02	0.00	95.46	0.01	0.00	0.01	0.00	100.00	4.39	
4	723	鉄滓	a	0.14	0.16	0.22	0.06	0.32	0.02	0.07	0.00	0.01	0.00	98.94	0.03	0.01	0.00	0.02	100.00	0.54	
			b	0.45	9.78	14.05	0.41	1.15	0.04	0.11	0.45	0.05	0.06	73.39	0.00	0.00	0.00	0.05	99.99	24.39	
5	669	鉄滓	a	8.27	6.32	21.18	0.37	0.11	1.22	4.06	0.64	0.02	0.08	57.27	0.00	0.01	0.04	0.41	100.00	39.83	
			b	0.00	3.97	14.95	0.00	0.04	0.11	0.55	1.49	0.01	0.15	78.58	0.02	0.00	0.00	0.12	99.99	19.47	
6	893	刀子	a	2.94	1.66	0.23	0.05	0.53	0.04	0.03	0.00	0.01	0.00	94.40	0.09	0.01	0.00	0.02	100.00	4.86	
			b	0.00	1.51	0.08	0.02	1.78	0.00	0.01	0.00	0.03	0.00	96.51	0.04	0.00	0.00	0.02	100.00	1.60	
最小値				0.00	0.16	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	49.76	0.00	0.00	0.00	0.01		0.50	
最大値				8.27	11.61	32.50	0.63	1.78	2.70	4.06	1.49	0.23	0.26	99.34	0.09	0.01	0.04	0.41		45.74	

第3節 考察

ここでは、碗型鉄滓や鉄滓あるいは刀子片について、構成する鉱物組成および化学組成について検討した。金属部分が見られた試料は、No1の碗型鉄滓の中層、No3のくの字型をした鉄滓、No6の刀子である。

No1の碗型鉄滓やNo3のくの字型をした鉄滓の金属部では、パーライトとフェライトの斑状構造を示す。No6の刀子の金属部分では、腐食して黒色に変化したパーライトから構成される。

その他試料では黒色スラグであり、スピネル型 (spinel:MgAl₂O₄) とファイアライト (fayalite: 2FeO · SiO₂) からなる。

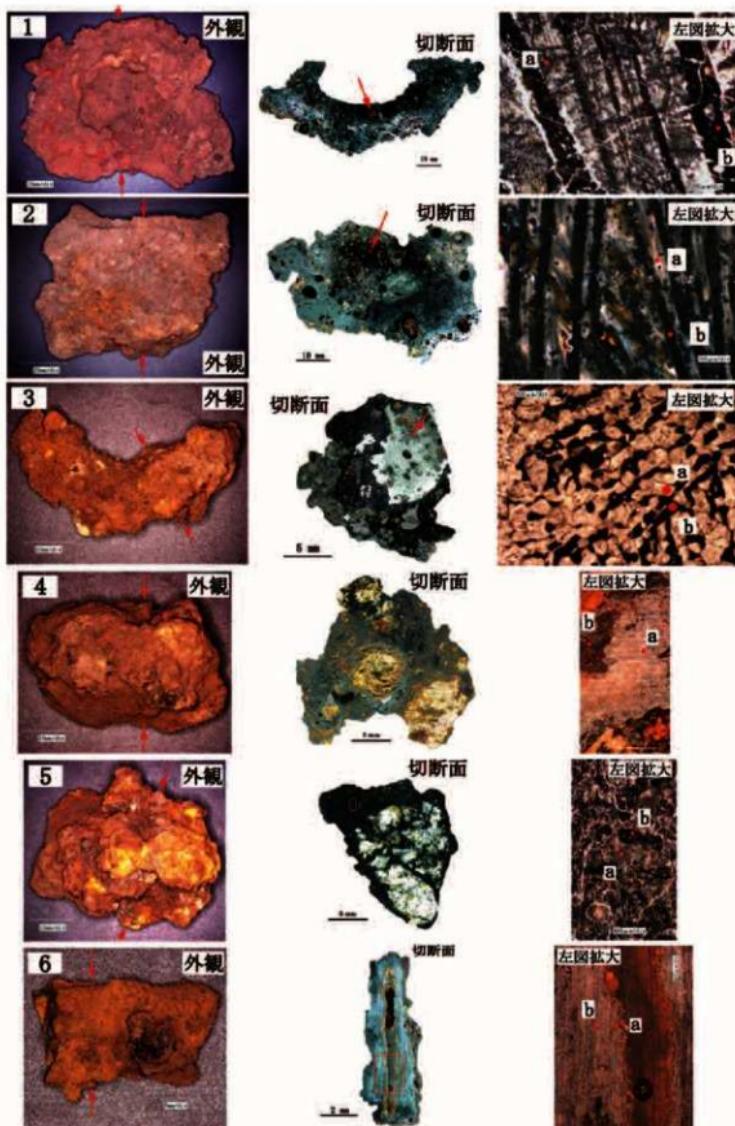
全体的に、チタンTiO₂が極端に少なく、ウルボスピネル (ulvöspinel: 2FeO · TiO₂) やイルメナイト (ilmenite: FeTiO₃) といったチタン鉱物は含まれていないことから、製錬鉱治滓である。

このことは、製品の刀子においても同様である。

なお、ケイ素SiO₂+アルミニウム Al₂O₃+マグネシウムMgO+カルシウムCaOの合計を造滓成分と

して示す。碗型鉄滓のデンドライト部分のaやbは42.47%および34.32%と高く、したがって鉄含有量が低い鉄滓であることが理解された。

次に、碗型鉄滓や鉄滓あるいは刀子片について、構成する鉱物組成および化学組成について検討した。その結果、鉄滓の多くは、チタンTiO₂が極端に少なくチタン鉱物が含まれていないことから、製錬鍛冶滓であることが判明した。



第67図 各鉄滓または刀子の外観形状、切断面、顕微鏡組織と分析位置（番号は分析No.を示す）

第8章　まとめ

第1節 西ヶ洞廃寺跡

(1)礎石建物跡

SI8~10は、人頭大の石を並べた上に巨石を置いており、根石の上に礎石を置いたものと判断でき、寺院に伴う建物礎石と考えられる。この建物礎石は2.7m間隔で並ぶが、具体的な建物の復元にはいたらない。また、遺物包含層で多量の須恵器や灰釉陶器が出土した状況から、寺院の堂宇に伴う礎石と考える。北側に山の斜面を控え、南側に平野が広がる遺跡の立地状況から、南面して建てられた建物が想定される。元来、礎石は北側に統一していたが、寺院の廃絶もしくは移転等の際に抜き取られたため、現在では施設の復元ができなくなったと考えられる。

(2)鍛冶関連遺構

2基の鍛冶関連遺構（SB1・2、SB3・4）は、2段の堅穴状の掘り込みによって構築された、不整形な平面プランをもつ点が共通することから、同じ性格を持つ可能性が高い。遺構から出土した鉄滓、鉄床石、砥石などから、金属製品の製作を行った小鍛冶に関わる遺構と考えられる。鍛冶関連遺構2基は、巨石による建物礎石（SI8~10）と隣接した位置で確認している。このことから、寺院跡に伴うと考えられる多量の須恵器、灰釉陶器と、鍛冶関連遺構出土の須恵器、灰釉陶器の間には明確な時期差は認められない。また、1号鍛冶関連遺構は、建物礎石の南側に位置し、南面する建物の正面に位置すると思われるため、鍛冶関連遺構が建物礎石（寺院の堂宇）と一緒に存在したとは考えにくい。

このことから、鍛冶関連遺構は、寺院建立時に必要とされた釤、工具等の金属製品の製作を行った遺構であり、寺院完成後は寺院に先立ち廃絶したと考えられる。

(3)立地、地名との関連

西ヶ洞廃寺跡は、遺跡北側に広がる黒内地区の平地部端の丘陵裾に立地している。集落に接した場所に存在するが、丘陵尾根に連られ、黒内の平野からは直接遺跡を望むことができない。平地に背を向けて南側に収束する谷奥に向って立地している。このような集落近くの里山に存在しながら、平野から少し隠れた位置に造られるのは、山林寺院にみられる立地で、平野に面して立地する白鳳期の寺院立地とは対照的である。このような山林寺院の立地は、寺域を清浄なる聖地として、俗地との視覚的な隔絶性をねらったものと考えられる（久保2001）。

また、遺跡から南側谷奥部にかけての地域は、「寺地」と呼ばれている。西ヶ洞廃寺跡から南に延びる谷奥部全体が元來の寺域だった可能性がある。

(4)西ヶ洞廃寺跡の寺名（線刻された須恵器から）

西ヶ洞廃寺跡では、調査以前に砂田清一郎氏によって採集された須恵器に、「十能寺」と線刻された須恵器碗が確認されている。この「十能寺」は寺名と考えられる。飛騨地方においては、他に平安時代の山林寺院が確認されていないため、同時期の比較資料はない。時期はさかのほるが、白鳳期の

古代寺院に目を転じると、高山市三仏寺廃寺では「大寺　山田寺」とヘラ描きされた平瓦が出土し、飛騨市杉崎廃寺では「見寺」と墨書きされた須恵器、飛騨市寿楽寺廃寺では「高家寺」と墨書きされた須恵器が出土している。ここでは、寺名が記された類例として示すにとどめる。

(5)西ヶ洞廃寺跡の創建時期と廃絶について（灰釉陶器から）

西ヶ洞廃寺跡で出土した灰釉陶器は、猿投編年の黒菴90号窯式(K90)～折戸53号窯式(O53)に位置づけられる。また、灰釉陶器は非常に丁寧な作りのものも見受けられ、須恵器にも有台盤や香炉など仏器的な様相が見受けられる。このことから、灰釉陶器や須恵器は寺院に伴う土器類であり、灰釉陶器の年代観から西ヶ洞廃寺跡の創建年代は9世紀末から10世紀前葉と考えられる。

また、瓦の出土は全くないため、建物は瓦葺きではなく、檜皮葺きなどであったと考えられる。そして、建物礎石周辺で、焼土や大量の鉄釘などが見つかっていない。西ヶ洞廃寺跡は火災ではなく移転等によって、廃絶したことが分かる。出土した灰釉陶器にさほど年代幅が認められないことから、寺院の存続期間はそれほど長くなかったと推測される。

第2節 中野山越遺跡

(1)遺構とその年代的位置づけ（須恵器から）

1号住居跡(SB1)では、須恵器は出土しているが灰釉陶器が出土していない。このことから住居跡の年代は、飛騨地方に本格的に灰釉陶器が導入される折戸53号窯式(O53)以前と位置づけられ、古川町（現飛騨市）調査の中野山越遺跡32号住居址出土とはほぼ同時期で平安時代に位置づけられる。今回の調査では、1号住居跡(SB1)だけが見つかっているが、確認したポイントは、以前の古川町調査において平安時代の住居が集中して見つかったエリアに隣接した場所である。

第3節 中野大洞平遺跡

(1)縄文時代の遺構（竪穴住居跡・焼窯集積遺構）

6号住居跡は、出土した縄文土器から縄文時代中期後半に位置づけられる。8本の柱穴と壊された炉の痕跡が確認されたことから、炉、柱穴を作り直して、建て替えを行ったことが分かった。

また、焼窯集積遺構は、遺構から遺物が出土しなかったため、高山市丹生川町・西田遺跡や下呂市・上ヶ平遺跡などの例から、調理に使われた焼窯集積遺構と考えられる。出土遺物から年代は判断できないが、他遺跡の類例から縄文時代早期に位置づけられる。

(2)弥生時代の遺構1（竪穴住居跡）

4号住居跡出土の弥生土器は、北陸地方の土器編年では月影式（弥生時代後期）に比定される住居跡出土の一括資料である。高杯、器台は東海系、壺類は北陸系が主体をなす。このような違いは土器の使用目的（高杯・器台—祭祀に使用、壺—煮炊に使用）によって、影響を受けた地域に違いがあるのかもしれない。

5号住居跡は出土した弥生土器から、弥生時代後期に位置づけられる。5号住居跡には、コの字型の石囲い炉が住居の中央に配される。高山市・野内遺跡A地点では、出土した土師器から5世紀代に位置づけられる竪穴住居から、コの字型の石囲い炉が見つかっている。野内遺跡では、コの字型の炉は住居の壁際につくられる。このことから、弥生時代後期までさかのぼる、5号住居跡のコの字型炉は、コの字型の炉としては古く位置づけられる。野内遺跡との比較から、古い段階では住居中央に作られたコの字型炉が、時代が下ると壁際につくられるようになることが判る。

(3)弥生時代の遺構2（方形周溝墓）

1号方形周溝墓は、出土した土師器から5世紀代に位置づけられる。1号方形周溝墓に隣接して大洞平5号古墳が築かれるが、両者は主軸をほぼ同方向にもつ。大洞平5号古墳築造時に1号方形周溝墓が残存していたと推定され、方形周溝墓と同一の主軸方向で古墳が築かれている。上町遺跡D地点方形周溝墓からは、古墳時代の土師器が出土しており、1号方形周溝墓と同時期と考えられる。

2号方形周溝墓は、出土した弥生土器から法仏式（弥生後期）に併行する。周溝内出土の器台、壺蓋は方形周溝墓における祭祀に伴う供獻土器と考えられる。また、(248)には沈線による縱方向の区画がみられるが、ツルネ遺跡でも縱方向に区画する土器片が出土している。

なお、飛驒で確認された方形周溝墓は、ツルネ遺跡（弥生時代後期、高山市）1基、上町遺跡D地点（古墳時代、飛驒市）1基、南垣内遺跡（古墳時代、高山市）3基である。

(4)飛驒独自の弥生土器型式（横羽状文壺）

横羽状文壺は、飛驒独自の弥生土器型式として「内垣内式」とよばれ、弥生中期後半（東海地方の高蔵式に並行）とされている。しかし、中野大洞平遺跡では小片ながら、2号方形周溝墓（法仏式並行）、4号住居跡（月影式並行）、3号住居跡（月影式並行）で出土している。弥生中期後半の遺物ならば、これらの住居跡出土の横羽状文壺は混入したものと理解される。しかし中野大洞平遺跡で中期後半以外の複数の遺構から出土している事実に注目すれば、横羽状文壺が後期まで続く可能性も否定できない。現状では、横羽状文壺自体の出土例が少なく、住居跡での共伴関係が把握できる事例も少ない。今後の資料の増加が期待される。ここでは問題提起をしておくにとどめる。

(5)縄文土器について

中野大洞平遺跡では、縄文時代早期から晩期までの土器2,593点が出土している。うち遺構出土763点、遺物包含層出土約1,830点である。遺構出土の縄文土器は、6号住居跡（縄文時代中期後葉）出土が中心である。また、遺構外では3Kグリッドからの出土が多い。3Kグリッドから東側は段丘端部の谷地形になり、弥生時代以降の土器は上層から出土した約40点にとどまる。谷部を埋めた第3層からは縄文土器のみが出土しており、この谷は縄文時代の内に埋没し、埋没に伴い多くの縄文土器が流れ込んだものと考えられる。

また、縄文土器は、早期から晩期までにわたって幅広くみられるが、中心となるのは6号住居跡から出土した縄文時代中期後葉である。その多くは北陸系と信州系であり、わずかに東海系や西日本系のものがみられた。この時期の飛驒地方の土器の様相の一端を示す資料である。この他6号住居跡か

らは、頭部を欠損するものの、比較的残存状況の良い全面に刺突を充填した板状の土偶が出土したことが特筆される。中期後葉の「堂之上タイプ」の土偶と考えられるが、このような全面に刺突を充填した土偶は飛騨地方でもあまり例が無い。

なお、早期の押型文土器や前期後葉の突帶を貼り付けた土器、後期後葉の土器、晩期の土器も出土しており、この中では後期後葉の土器が比較的まとまって出土している。

(6)石器について

石器の組成をみると、打製石斧の割合が高い。このことから、縄文集落に伴う根莖類の食料採集地である可能性が考えられる。

また石器全般に用いられた石材をみると下呂石の割合が高いといえる。しかし、遺構出土剥片をみると、縄文時代の住居跡では下呂石よりもチャートの剥片が多く出土する一方、弥生時代の住居跡では下呂石の剥片が多く出土している。このことから、弥生時代になると下呂石の利用の割合が高まったと言えそうである。また、ヒスイ製垂飾(319)のヒスイは、新潟県姫川産である可能性が高い。他地域との交流をうかがわせる資料である。

第4節 大洞平5号古墳

(1)築造年代について（須恵器から）

大洞平5号古墳の築造年代は、周溝内出土の須恵器から、6世紀後半から7世紀初頭と考えられる。主体部西側の周溝に大型の須恵器壺類が集中しており、墳丘上の祭祀が行われた可能性もある。

(2)大型方墳と飛騨の首長墓

大洞平5号古墳は、一辺約20mの大型方墳である。終末期の大型方墳は、美濃飛騨各地における政治領域の首長墓と考えられる。長瀬治義氏によると、荒城郡と大野郡を合わせて「荒城領域」（飛騨国に相当）を設定し、大洞平2号古墳（方墳）を「荒城領域」における首長墓とし、大洞平古墳群は1・2号古墳が同一古墳群のなかで近接することから、「1号墳被葬者は、2号墳被葬者の下位にあり、これを支えた古川西部地区の長に充て得る。」と大洞平1・2号墳を同一の系譜に連なる古墳と位置づけている。そして、前方後円墳や終末期の方墳、石室に巨石を用いた古墳が集中し、さらに白鳳期の古代寺院が集中する荒城郡の国府古川盆地を、大野郡の高山盆地より「荒城領域」の中心であったとした（長瀬2002）。大洞平5号古墳や、巨石を用いた高山市国府町海貝江古墳（方墳）など、最近の調査成果を加えると高山盆地に対する国府古川盆地の優位性はいっそう鮮明になる。

また、今回の調査により大洞平5号古墳が方墳であることが判明したため、大洞平古墳群は2・5号古墳の2基、大洞平1号古墳も方墳とすると3基の方墳が同一古墳群中に存在することとなる。これらの古墳は、親子などごく近い親族といった同一の系譜に連なる古墳ととらえるのが自然と考えるが、このように終末期の大型方墳が集中する状況は、美濃地域などと比較すると特異な方といえる。

第18表 西ヶ洞庵跡遺構觀察表

造構名	上 篤(m)	下 篤(m)	深さ (m)	堆 土	
	長軸	短軸	長軸	短軸	
P1	0.39	0.37	0.13	0.12	0.43 1.黒褐色土+10YR2/3, 深5mm蘿含。 2.黒褐色土+10YR2/2, 深5mm蘿含。
P2	0.46	0.36	0.3	0.24	0.39 1.黒褐色土+10YR2/3, 深3mm蘿含。
P3	0.44		0.2		0.34 1.黒褐色土+10YR2/2, 深3mm蘿含。
P4	0.36	0.28	0.24	0.17	0.25 1.堆褐色土+7.5YR2/3, 無土含。 2.黒褐色土+10YR2/2, 深5mm蘿含。
P5	0.36	0.3	0.24	0.2	0.25 1.堆褐色土+10YR2/3。 2.黒褐色土+10YR2/2。
P6	0.28	0.21	0.2	0.12	0.19 1.に5mm 黃褐色土+10YR4/3, 無土, 腐化物含。 2.黒褐色土+10YR2/2, に5mm 黃褐色土+10YR4/4, 腐化物含。
P7	0.36	0.34	0.23	0.21	0.14 1.に5mm 黃褐色土+10YR4/3, 無土, 腐化物含。 2.黒褐色土+10YR2/2, に5mm 黃褐色土+10YR4/3含。
SK1	1.05	1.03	0.88	0.88	0.32 本文参照。
SK2	0.86	0.56	0.44	0.38	0.15 本文参照。
SK3	0.6	0.52	0.44	0.36	0.12 本文参照。
SK4	0.97	0.91	0.7	0.59	0.43 本文参照。
SK6	1.17	0.9	0.84	0.6	0.4 本文参照。
SK7	0.84	0.78	0.56	0.56	0.3 本文参照。
SK8	0.81	0.26	0.18	0.17	0.58 本文参照。
SK9	0.62	0.38	0.36	0.22	0.35 本文参照。
SK10	0.92	0.88	0.64	0.48	0.6 本文参照。
殿治印2	0.41	0.3	0.25	0.16	0.15 本文参照。
殿治印3	0.32	0.22	0.25	0.14	0.15 本文参照。

第19表 中野山越遺跡遺構觀察表

造構名	上 篤(m)	下 篤(m)	深さ (m)	堆 土	
	長軸	短軸	長軸	短軸	
SB1P1	0.29	0.26	0.15	0.13	0.11 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB1P2	0.5	0.34	0.27	0.16	0.13 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8, 深3mm蘿含。
SB1P3	0.38	0.34	0.21	0.18	0.12 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB1P4	0.47	0.32	0.28	0.18	0.12 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.堆褐色土+10YR3/4。
SB1P5	0.62	0.25	0.4	0.14	0.08 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB1P6	0.37	0.3	0.2	0.16	0.1 1.黒褐色土+10YR2/2, 腐化物含。
SB1P7	0.21	0.16	0.06	0.05	0.08 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB1P8	0.43	0.36	0.12	0.1	0.45 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB1P9	0.33	0.32	0.22	0.14	0.09 1.黒褐色土+7.5YR3/2, 腐化物含。 2.黒褐色土+7.5YR3/2, 腐化物含。 3.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB1P10	0.71		0.54		0.16 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8, 腐化物含。
SB1P11	0.9		0.72		0.12 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/9, 腐化物含。
SB1P12					0.07 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8, 深5mm蘿含。
SB1P13	0.52	0.29	0.36	0.14	0.17 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.堆褐色土+10YR3/4。 3.堆褐色土+10YR3/3, 地山土+10YR5/8, 腐化物含。
SB1P14	0.57	0.52	0.44	0.31	0.23 1.堆褐色土+10YR3/4。 2.黒褐色土+10YR2/2, 深3mm蘿含。 3.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB1P15	0.66	0.4	0.49	0.24	0.15 1.黒褐色土+10YR2/2, 深3mm蘿含。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB1P16	0.54	0.4	0.47	0.38	0.18 1.黒褐色土+10YR2/2, 腐化物含。
SB1P17	0.33	0.29	0.24	0.16	0.1 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB1P18	0.44	0.33	0.24	0.18	0.15 1.黒褐色土+10YR2/2, 深3mm蘿含。
SB1P19	0.25	0.19	0.1	0.08	0.05 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB1SK1	0.96	0.89	0.84	0.76	0.07 1.黒褐色土+10YR2/2, 深2mm蘿, 地山土松含。
SB1SK2					0.01 1.黒褐色土+10YR2/2, 深3mm蘿, 地山土松含。
P1	0.4	0.24	0.3	0.14	0.15 1.黒褐色土+10YR2/1。 2.堆褐色土+10YR3/4。
P2	0.18	0.18	0.07	0.06	0.13 1.黒褐色土+10YR2/1。 2.堆褐色土+10YR3/4。
P3	0.3	0.3	0.16	0.13	0.11 1.黒褐色土+10YR2/2。
P4	0.2	0.2	0.1	0.08	0.14 1.黒褐色土+10YR2/1。 2.堆褐色土+10YR3/4。
P5	0.43	0.35	0.2	0.17	0.25 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
P6	0.36	0.36	0.19	0.16	0.15 1.黒褐色土+10YR2/2。
P7	0.41	0.3	0.2	0.18	0.19 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
P8	0.3	0.28	0.12	0.08	0.25 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
P9	0.51	0.45	0.32	0.16	0.32 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。

第20表 中野大洞平遺跡遺構觀察表-1

造構名	上 篤(m)	下 篤(m)	深さ (m)	堆 土	
	長軸	短軸	長軸	短軸	
SB3P1	A	0.44	0.33	0.2	0.15 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB3P2	A	0.28		0.16	0.08 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB3P3	A	0.58		0.46	0.08 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB3P4	A	0.26	0.24	0.14	0.13 0.05 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB3P5	A	0.2	0.18	0.13	0.12 0.14 1.黒褐色土+10YR2/2。
SB3P7	A	0.28	0.22	0.2	0.14 0.09 1.黒褐色土+10YR2/1。
SB4P1	A	0.43	0.4	0.25	0.23 0.15 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB4P2	A	0.42	0.39	0.22	0.17 0.2 1.黒褐色土+10YR2/2。 2.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。
SB4P3	A	0.52	0.35	0.21	0.14 0.08 1.黒褐色土+10YR2/2, 地山土+10YR5/8含。

第20表 中野大洞平遺跡造構観察表-2

造構名	上 端(m)		下 端(m)		深さ (m)	堆 土
	長軸	短軸	長軸	短軸		
SB4P4	A	0.24	0.22	0.13	0.11	0.3
SB4P5	A	0.67	0.52	0.46	0.33	0.21
SB4P6	A	0.33	0.27	0.17	0.16	0.22
SB4P7	A	0.22	0.21	0.12	0.12	0.22
SB4P8	A	0.8	0.54	0.54	0.16	0.21
SB4P9	A	0.31	0.3	0.2	0.18	0.05
SB4P10	A				0.06	1.黒褐色土(10YR2/1)。
SB4P11	A	0.57	0.48		0.34	0.07 1.黒褐色土(10YR2/2)。
SB4P12	A	0.34	0.34	0.26	0.25	0.17 1.黒褐色土(10YR2/2)。
SB4P13	A	0.67	0.52	0.46	0.33	0.15 1.黒褐色土(10YR2/3)。 2.黒褐色土(10YR2/3)。
SB4P14	A	0.18	0.14	0.13	0.08	0.03 1.黒褐色土(10YR2/2)。
SB4P15	A	0.25	0.22	0.13	0.1	0.1 1.黒褐色土(10YR2/2)。地山土(10YR5/8)含。
SB5P1	A	0.2	0.16	0.13	0.09	0.12 1.黒褐色土(10YR2/1)。
SB5P2	A	0.22	0.16	0.14	0.1	0.07 1.黒褐色土(10YR2/2)。
SB5P3	A	0.21	0.2	0.11	0.1	0.13 1.黒褐色土(10YR2/2)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。地山土(10YR5/6)含。
SB5P4	A	0.2	0.16	0.12	0.09	0.2 1.黒褐色土(10YR2/2)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。
SB5P5	A	0.24	0.15	0.08	0.6	0.13 1.黒褐色土(10YR2/2)。
SK1	A				0.62	0.48 1.黒褐色土(10YR2/2)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。地山土(10YR5/6)含。
SK2	A	1.62	1.03	1.42	0.85	0.52 1.黒褐色土(10YR2/3)。地山土(10YR5/6)含。 2.黒褐色土(10YR2/3)。地山土(10YR5/6)。炭化物含。
SK4	A	1.12	0.78	0.64	0.4	0.54 1.褐色土(10YR4/4)。 2.暗褐色土(10YR3/4)。地山土(10YR5/6)含。 3.黒色土(7.5YR2/1)。
SK5	A	1.15	1.04	0.9	0.82	0.72 4.褐色土(10YR4/6)。 5.暗褐色土(10YR3/4)。
SK6	A	1.34	1.26	0.78	0.68	0.68 1.褐色土(10YR2/1)。 2.暗褐色土(10YR2/2)。 3.暗褐色土(10YR3/3)。
SK7	A	1.35	0.84	1.19	0.6	0.18 4.褐色土(10YR2/1)。 5.暗褐色土(10YR4/6)含。 6.黑色土(10YR2/1)。 7.黒褐色土(10YR2/3)。
SK8	A	1.02	0.7	0.6	0.36	0.42 1.黒色土(10YR2/1)。 2.黒褐色土(10YR2/1)。
SK9	A	1.44	1.04			0.63 3.黒色土(10YR2/1)。 4.黒褐色土(10YR2/1)。 5.暗褐色土(10YR3/4)。
SK10	A	0.9	0.66	0.62	0.46	0.27 1.黒褐色土(10YR2/3)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。 3.黒色土(10YR2/1)。
SK11	A	1.24	1.24	1	0.86	0.22 1.黒色土(10YR2/1)。 2.黒褐色土(10YR2/1)。堆山土(10YR5/6)含。
SK12	A	1.95	1.11	1.64	0.91	0.13 1.黒色土(10YR2/1)。
SK13	A	0.91	0.58	0.54	0.4	0.25 1.黒褐色土(10YR2/3)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。 3.暗褐色土(10YR3/4)。 4.黒褐色土(10YR2/2)。 5.黒褐色土(10YR2/3)。地山土(10YR5/6)含。
P1	A	0.74	0.64	0.45	0.41	0.23 1.黒褐色土(10YR2/2)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。地山土(10YR5/6)含。
P3	A	0.62	0.6	0.41	0.38	0.16 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P4	A	0.56	0.52	0.34	0.29	0.12 1.黒褐色土(10YR2/3)。
P5	A	0.68	0.56	0.48	0.42	0.26 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P7	A	0.51	0.34	0.32	0.2	0.29 1.黒色土(10YR2/1)。
P8	A	0.72	0.68	0.54	0.46	0.45 1.黒色土(10YR2/3)。炭化物含。
P9	A	0.26	0.24	0.13	0.13	0.24 1.黒色土(10YR2/1)。
P10	A	0.24	0.22	0.1	0.09	0.18 1.黒色土(10YR2/1)。
P11	A	0.17	0.14	0.08	0.08	0.14 1.黒色土(10YR2/1)。
P12	A	0.46	0.29	0.36	0.22	0.08 1.黒色土(10YR2/1)。
P15	A	0.36	0.31	0.21	0.17	0.17 1.黒色土(10YR2/1)。
P16	A	0.52	0.48	0.29	0.28	0.38 1.黒色土(10YR2/1)。炭化物含。
P17	A	0.54	0.48	0.51	0.24	0.34 1.黒色土(10YR2/1)。 2.黒色土(10YR2/1)。地山土(10YR4/6)。炭化物含。
P18	A	0.56	0.54	0.29	0.28	0.27 1.黒色土(7.5YR2/1)。
P19	A	0.68	0.56	0.32	0.27	0.3 2.黒色土(10YR2/1)。 3.黒色土(10YR2/1)。地山土(10YR4/6)。炭化物含。
P20	A	0.44	0.37	0.29	0.22	0.16 2.黒色土(10YR2/1)。
P21	A	0.3	0.28	0.12	0.1	0.14 1.黒色土(10YR2/1)。
P22	A				0.1 1.黒褐色土(10YR2/2)。	
P23	A	0.63	0.48	0.42	0.26	0.18 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P24	A	0.64	0.44	0.37	0.28	0.3 1.黒色土(10YR2/1)。
P25	A	0.64	0.48	0.44	0.35	0.15 1.黒色土(10YR2/1)。
P26	A	0.28	0.72	0.53	0.46	0.18 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P27	A	0.28	0.72	0.68	0.61	0.09 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P28	A	0.45	0.44	0.31	0.28	0.21 1.黒褐色土(10YR2/2)。 2.黒褐色土(10YR2/2)。地山土(10YR4/6)。
P29	A	0.41	0.41	0.24	0.24	0.27 1.黒色土(10YR2/1)。炭化物含。
P30	A	0.6	0.56	0.51	0.43	0.09 1.黒色土(10YR2/1)。
P31	A	0.79	0.61	0.59	0.46	0.13 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P32	A				0.11 1.黒色土(10YR2/1)。	
P34	A	0.32	0.25	0.17	0.12	0.23 1.黒色土(10YR2/1)。 2.黒色土(10YR2/1)。地山土(10YR4/6)。
P35	A	0.36	0.32	0.16	0.12	0.15 1.黒色土(10YR2/1)。
P36	A	0.36	0.32	0.2	0.16	0.17 1.黒色土(10YR2/1)。
P37	A	0.57	0.29	0.48	0.16	0.14 1.黒色土(10YR2/1)。 2.黒色土(10YR2/1)。
P38	A	0.49	0.44	0.28	0.24	0.11 1.黒褐色土(10YR2/2)。
P40	A	0.68	0.61	0.44	0.28	0.22 1.黒色土(10YR2/1)。炭化物含。

第20表 中野大洞平遺跡遺構観察表-3

遺構名	区	上 築(m)		下 築(m)		深さ (m)	埋 土
		長軸	短軸	長軸	短軸		
P41	A					0.08	1.黒褐色土(10YR2/1)。
P42	A	0.28	0.26	0.19	0.17	0.08	1.黒褐色土(10YR2/1)。
P43	A	0.42	0.38	0.28	0.26	0.1	1.黒褐色土(10YR2/2)。
P44	A	0.21	0.19	0.13	0.12	0.11	1.黒褐色土(10YR2/1), 黑褐色土(10YR2/2), 黄褐色土。
P45	A	0.58	0.33	0.48	0.22	0.24	1.黒褐色土(10YR2/2)。
P46	A	0.43	0.32	0.25	0.16	0.31	1.黒褐色土(10YR2/2)。
P47	A	0.48	0.32	0.33	0.18	0.21	1.黒褐色土(10YR2/2)。
P48	A	0.32	0.23	0.21	0.14	0.13	1.黒褐色土(10YR2/3)。
P49	A	0.66	0.58	0.48	0.32	0.16	1.黒褐色土(10YR2/1), 2.黒褐色土(10YR3/2), 3.暗褐色土(10YR3/3)。
P50	A	0.36	0.28	0.28	0.2	0.14	1.黒褐色土(10YR2/2)。
P52	A	0.39	0.36	0.13	0.14	0.21	1.黒褐色土(10YR2/1)。
P53	A	0.62	0.44	0.56	0.32	0.25	1.黒褐色土(10YR2/2), 2.黒褐色土(10YR2/2), 地山土(10YR4/6)含。3.黒褐色土(10YR2/1)。
P54	A	0.16	0.16	0.07	0.06	0.15	1.黒褐色土(10YR2/1)。
SX3	A	2.05	1.07	1.72	0.50	0.19	1.黒褐色土(10YR2/1), 2.黒褐色土(10YR2/3), 3.黒褐色土(10YR2/3), 地山土(10YR4/6)含。
SX4	A	2.46	2.13	2.22	1.81	0.19	1.黒褐色土(10YR2/2), 黄褐色土(10YR4/3), 黄褐色土(10YR4/3), 黄褐色土(10YR5/4)。
101 SB B	4.80	2.45	4.39	0.19	0.20	本文参照。	
102 P B	0.30	0.20	0.26	0.18	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
103 P B	0.28	0.22	0.17	0.05	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
104 P B	0.23	0.21	0.05	0.15	0.10	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
105 P B	0.21	0.16	0.19	0.13	0.06	1.暗褐色土(10YR3/3), 明黄褐色土(10YR6/8)合。	
106 P B	0.26	0.25	0.14	0.14	0.20	1.暗褐色土(10YR3/3), 明黄褐色土(10YR6/8)合。	
107 P B	0.18	0.18	0.16	4.18	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
108 SB B	4.66	4.56	4.20	0.33	0.30	本文参照。	
109 P B	0.46	0.40	0.40	0.10	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
110 P B	0.23	0.16	0.12	0.16	0.05	1.黒褐色土(10YR4/4)。	
111 P B	0.20	0.17	0.18	0.24	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
112 P B	0.48	0.47	0.42	0.15	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
113 P B	0.23	0.17	0.18	0.22	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
114 P B	0.33	0.31	0.25	0.14	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
115 P B	0.24	0.20	0.17		0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
120 P B	0.48	0.37	0.38	0.27	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
121 P B	0.40	0.30	0.29	0.10	0.05	1.明黄褐色土(10YR6/6)。	
122 P B	0.36	0.16	0.23	0.17	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
123 P B	0.34	0.22	0.25	0.09	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
124 P B	0.10	0.10	0.09	0.16	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
125 P B	0.33	0.22	0.25	0.28	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
126 P B	0.45	0.31	0.37	0.17	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
127 P B	0.23	0.22	0.19	0.12	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
128 P B	0.25	0.15	0.17	0.10	0.17	1.黒褐色土(10YR3/1)。	
129 P B	0.36	0.32	0.16	0.30	0.07	1.黒褐色土(10YR3/1)。	
130 P B	0.51	0.32	0.47	0.10	0.07	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
131 P B	0.17	0.14	0.14	0.07	0.05	1.明黄褐色土(10YR6/6)。	
132 P B	0.29	0.18	0.21	0.06	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
133 P B	0.28	0.10	0.22	0.20	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
134 P B	0.38	0.23	0.33	0.19	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
135 P B	0.36	0.21	0.33	0.14	0.05	1.褐色土(10YR4/4)。	
136 P B	0.30	0.22	0.28	0.22	0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
137 P B	0.40	0.27	0.32		0.05	1.明黄褐色土(10YR7/6)。	
146 P B	0.36	0.24	0.29	0.09	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
147 P B	0.19	0.09	0.19	0.12	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
148 P B	0.20	0.16	0.17	0.15	0.08	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
149 P B	0.18	0.17	0.15	0.19	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
150 P B	0.34	0.26	0.25	0.15	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
151 P B	0.22	0.20	0.16	0.30	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
152 P B	0.41	0.32	0.37	0.23	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
153 P B	0.35	0.28	0.29	0.29	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
154 P B	0.30	0.23	0.43	0.14	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
155 P B	0.25	0.20	0.18	0.13	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
156 P B	0.22	0.18	0.19	0.18	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
157 P B	0.36	0.18	0.34	6.70	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
158 SB B	7.00	6.70	6.78	0.14	0.40	本文参照。	
159 P B	0.25	0.24	0.22	0.46	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
160 P B	0.55	0.48	0.47	0.17	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
161 P B	0.31	0.25	0.23	0.28	0.16	1.暗褐色土(10YR3/3), 明黄褐色土(10YR7/6)合。	
162 P B	0.50	0.45	0.48	0.30	0.12	1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR7/6)合。	
163 P B	0.50	0.40	0.38	0.10	0.19	1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR7/6)合。	
164 P B	0.46	0.17	0.40	0.09	0.20	1.黒褐色土(10YR2/2)。	
165 P B	0.50	0.21	0.30	0.11	0.05	1.黒褐色土(10YR2/2)。	

第20表 中野大洞平遺跡造構観察表-4

造構名	上 端(m)		下 端(m)		深さ (m)	堆 土
	区 長軸	短軸	長軸	短軸		
166 P B 0.29 0.14 0.21 0.16 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
167 P B 0.32 0.32 0.18 0.22 0.20 1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR6/8合)。2.暗褐色土(10YR3/3), 明黄褐色土(10YR6/8合)。						
168 P B 0.40 0.28 0.29 0.10 0.10 1.黒褐色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/8合)。2.暗褐色土(10YR3/3), 明黄褐色土(10YR6/9合)。						
170 P B 0.28 0.18 0.21 0.20 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
171 P B 0.35 0.27 0.29 0.15 0.10 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
172 P B 0.31 0.16 0.27 0.05 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
174 SD B 3.36 0.58 3.34 0.32 1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR7/6合)。2.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR7/6合)。3.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR7/6合)。4.黒褐色土(10YR2/2)。						
176 P B 0.16 0.15 0.10 0.13 0.11 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
177 P B 0.57 0.40 - 0.20 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
179 P B 0.45 0.35 0.31 0.24 0.12 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
180 P B 0.29 0.28 0.24 0.14 0.18 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
181 P B 0.51 0.36 0.20 0.14 0.14 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
182 P B 0.35 0.20 0.30 0.10 0.12 1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR6/8合)。						
183 P B 0.30 0.16 0.22 0.14 0.14 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
184 P B 0.34 0.33 0.16 0.08 0.20 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
185 P B 0.22 0.18 0.11 0.15 0.08 1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR6/8合)。						
186 P B 0.19 0.18 0.19 0.19 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
187 P B 0.35 0.22 0.31 0.26 0.06 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR6/8), 腐化物。						
188 P B 0.42 0.36 0.34 0.06 0.14 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
189 P B 0.18 0.15 0.07 0.23 0.16 1.黒褐色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/8合)。						
190 P B 0.47 0.25 0.41 0.64 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
191 P B 1.19 0.55 0.13 0.04 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
192 P B 0.30 0.22 0.05 0.46 0.12 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
193 P B 0.73 0.55 0.62 0.46 0.18 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
194 P B 0.94 0.55 0.80 0.16 0.20 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
195 P B 0.39 0.24 0.33 0.08 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
196 P B 0.34 0.18 0.33 0.17 0.21 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
197 P B 0.36 0.35 0.18 0.07 0.16 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
198 P B 0.38 0.16 0.20 0.39 0.23 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
199 P B 0.55 0.44 0.54 0.16 0.05 1.暗褐色土(10YR3/3)。						
200 P B 0.52 0.20 0.46 0.26 0.05 1.明黄褐色土(10YR7/6)。						
201 P B 0.52 0.31 0.44 0.30 0.05 1.明黄褐色土(10YR7/6)。						
202 P B 0.35 0.31 0.32 0.09 0.05 1.明黄褐色土(10YR7/6)。						
203 P B 0.27 0.15 0.20 0.20 0.05 1.明黄褐色土(10YR7/6)。						
204 P B 0.25 0.25 0.26 0.10 0.05 1.明黄褐色土(10YR7/6)。						
205 P B 0.15 0.13 0.13 0.09 0.05 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
206 P B 0.16 0.11 0.14 0.12 0.06 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
207 P B 0.15 0.14 0.14 0.09 0.06 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
208 P B 0.21 0.14 0.12 0.10 0.15 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
209 P B 0.46 0.20 0.14 0.07 0.50 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
210 P B 0.12 0.12 0.10 0.07 0.10 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
211 P B 0.15 0.10 0.10 0.08 0.10 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
212 P B 0.15 0.10 0.18 0.05 0.08 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
213 P B 0.13 0.10 0.08 0.13 0.07 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
214 P B 0.23 0.17 0.15 0.14 0.08 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
215 P B 0.30 0.20 0.22 0.14 0.09 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
216 P B 0.20 0.17 0.14 0.14 0.06 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
217 P B 0.23 0.15 0.21 0.50 0.06 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
218 SK B 1.20 0.80 0.70 0.09 0.40 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
219 P B 0.35 0.18 0.16 0.35 0.15 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
220 P B 0.42 0.35 0.49 0.07 0.10 1.黒褐色土(10YR2/2)。						
221 P B 0.30 0.30 0.18 0.09 0.18 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
222 P B 0.36 0.33 0.08 0.16 0.23 1.明黄褐色土(10YR7/6), 黒褐色土(10YR2/2合)。						
223 P B 0.25 0.23 0.19 0.20 0.50 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
224 P B 0.35 0.22 0.30 0.24 0.12 1.明黄褐色土(10YR7/6), 黒褐色土(10YR2/2合)。						
225 P B 0.32 0.30 0.27 0.12 0.16 1.明黄褐色土(10YR7/6), 黒褐色土(10YR2/2合)。						
226 P B 0.25 0.25 0.14 0.34 0.33 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
227 P B 0.43 0.40 0.34 0.08 0.30 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。2.暗褐色土(10YR3/4)。						
228 P B 0.21 0.12 0.15 0.13 0.29 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
229 P B 0.18 0.16 0.14 0.19 0.14 1.明黄褐色土(10YR7/6), 黒褐色土(10YR2/2合)。						
230 P B 0.20 0.15 0.13 0.10 0.68 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
231 P B 0.30 0.24 0.12 0.22 0.15 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
232 P B 0.27 0.20 0.31 0.10 0.15 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
233 P B 0.24 0.18 0.15 0.18 0.13 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
234 P B 1.00 0.85 0.67 0.08 0.25 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
235 P B 0.32 0.30 0.15 0.23 0.18 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						
236 P B 0.25 0.12 0.31 0.12 0.10 1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6合)。						

第20表 中野大洞平遺跡造構観察表-5

造構名	上 端(m)		下 端(m)		深さ (m)	堆 土
	長軸	短軸	長軸	短軸		
237 P B 0.20 0.12 0.16 0.17 0.09 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
238 P B 0.20 0.18 0.19 0.09 0.06 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
239 P B 0.16 0.16 0.10 0.04 0.20 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
240 P B 0.18 0.15 0.08 0.08 0.10 1.明黄褐色±10YR7/6,黒褐色土±10YR2/2含。						
241 P B 0.18 0.18 0.08 0.17 0.55 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
242 P B 0.22 0.22 0.18 0.16 0.13 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
243 P B 0.21 0.21 0.17 0.15 0.17 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
244 P B 0.21 0.20 0.19 0.12 0.30 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
245 P B 0.16 0.16 0.13 0.10 0.09 1.黒褐色±10YR3/6,明黄褐色土±10YR7/6含。						
246 P B 0.15 0.15 0.10 0.10 0.53 1.黒褐色±10YR3/6,明黄褐色土±10YR7/6含。						
247 P B 0.16 0.15 0.10 0.10 0.60 1.黒褐色±10YR3/6,明黄褐色土±10YR7/6含。						
248 P B 0.20 0.18 0.10 0.13 0.57 1.黒褐色±10YR3/6,明黄褐色土±10YR7/6含。						
249 P B 0.35 0.20 0.26 0.06 0.13 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
250 P B 0.18 0.16 0.15 0.19 0.20 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
251 P B 0.32 0.25 0.30 0.09 0.70 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
252 P B 0.20 0.12 0.14 - 0.08 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
254 P B 0.16 0.15 0.14 0.14 0.06 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
255 P B 0.22 0.22 0.16 0.14 0.10 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
256 P B 0.24 0.20 0.20 0.09 0.12 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
257 P B 0.12 0.10 0.10 - 0.15 1.黒褐色±10YR3/6,明黄褐色土±10YR7/6含。						
260 P B 0.30 0.26 0.24 - 0.05 1.暗褐色±10YR3/3。						
262 P B 0.26 0.18 0.61 0.16 0.05 1.暗褐色±10YR3/3。						
263 P B 0.60 0.35 0.22 0.45 0.05 1.暗褐色±10YR3/3。						
264 P B 0.66 0.55 0.50 0.18 0.11 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
265 P B 0.25 0.22 0.20 0.35 0.12 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
266 P B 0.45 0.44 0.35 0.35 0.14 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
267 P B 0.47 0.43 0.40 0.78 0.14 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
268 P B 1.30 0.83 1.31 0.18 0.18 1.暗褐色±10YR3/4,炭化物,埴土含。						
269 P B 0.64 0.36 0.22 0.35 0.45 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
270 P B 0.46 0.46 0.36 - 0.16 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
271 P B 0.50 0.46 - - 0.16 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
272 P B 0.30 0.24 - 0.20 0.19 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
273 P B 0.27 0.25 0.24 0.21 0.21 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
274 P B 0.24 0.21 0.20 0.16 0.09 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
275 P B 0.20 0.20 0.18 0.19 0.08 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
276 P B 0.47 0.20 0.43 0.49 0.10 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
277 P B 0.52 0.49 0.45 0.17 0.13 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
278 P B 0.29 0.23 0.24 - 0.24 1.暗褐色±10YR3/3,明黄褐色土±10YR7/6,炭化物含。						
281 P B 0.32 0.29 0.28 0.08 0.08 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
282 P B 0.37 0.30 0.11 0.16 0.23 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
283 P B 0.27 0.25 0.16 - 0.20 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
285 P B 0.37 0.27 - - 0.14 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
287 P B 0.40 0.36 0.08 0.19 0.19 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
289 P B 0.35 0.30 0.28 - 0.05 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
292 P B 0.35 0.33 0.29 0.15 0.05 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
293 P B 0.34 0.32 0.22 0.15 0.10 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
294 P B 0.20 0.17 0.16 0.10 0.05 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
295 P B 0.32 0.37 0.10 0.17 0.21 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
296 P B 0.25 0.22 0.18 0.10 0.08 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
297 P B 0.73 0.36 0.10 - 0.05 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
299 P B 0.30 0.28 0.27 - 0.05 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
308 P C 0.43 0.39 0.10 0.24 0.24 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
309 SD E 2.50 0.31 0.26 0.15 - 1.黒褐色±10YR2/2,明黄褐色土±10YR7/6含。						
310 P D 0.30 0.26 0.18 0.15 0.08 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
311 P D 0.46 0.41 0.16 0.15 0.18 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
312 P D 0.35 0.28 0.20 0.14 0.10 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
313 P D 0.29 0.23 0.17 0.06 0.06 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
314 P D 0.28 0.22 0.06 0.07 0.06 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
315 P D 0.27 0.25 0.10 - 0.06 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
319 P D 0.49 0.47 0.40 0.13 0.08 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
320 P D 0.32 0.30 0.14 0.14 0.08 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
321 P D 0.42 0.24 0.23 0.24 0.05 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
322 P D 0.65 0.40 0.44 0.40 0.18 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
323 P D 0.54 0.49 0.42 0.08 0.05 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
324 P D 0.45 0.41 0.10 0.15 0.14 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
325 P D 0.49 0.41 0.22 0.24 0.12 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
326 P D 0.60 0.58 0.26 - 0.10 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						
332 P D 0.49 0.40 0.21 0.24 0.10 1.黒色±10YR2/1,明黄褐色土±10YR7/6含。						

第20表 中野大洞平遺跡遺構観察表-6

遺構名	上 端(m)		下 端(m)		深さ (m)	堆 土
	長軸	短軸	長軸	短軸		
333 P D	0.74	0.35	0.53	0.20	0.10	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
334 P D	0.69	0.64	0.27	0.18	0.10	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
335 P D	0.33	0.32	0.21	-	0.10	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
337 P D	0.31	0.25	0.12	0.38	0.06	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
338 P E	0.61	0.59	0.42	0.24	0.24	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。 2.黒褐色土(10YR3/2), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
339 P E	0.39	0.28	0.34	0.46	0.10	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
340 P E	0.93	0.90	0.47	0.36	0.14	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
341 P E	0.46	0.36	0.46	0.04	0.12	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
342 P E	0.40	0.40	0.04	-	0.14	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
344 P E	0.28	0.24	0.22	0.49	0.10	1.黒褐色土(10YR3/2), 明黄褐色土(10YR7/6)含。 2.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
345 P E	0.65	0.57	0.54	-	0.16	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
347 P E	0.58	0.55	0.29	0.40	0.14	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
348 P E	0.60	0.55	0.52	-	0.38	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
350 P E	0.42	0.28	0.31	0.34	0.08	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
351 P E	0.60	0.57	0.36	0.15	0.16	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
352 P E	0.40	0.36	0.16	-	0.08	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
354 P E	0.57	0.54	0.23	0.18	0.32	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。 2.黒褐色土(10YR3/3), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
355 P E	0.39	0.34	0.20	0.49	0.12	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
356 P E	0.64	0.63	0.54	0.09	0.12	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
357 P E	0.37	0.31	0.12	0.22	-	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
358 P E	0.70	0.60	0.29	0.08	-	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
359 SD E	2.78	0.30	1.44	0.12	-	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
360 P E	0.26	0.20	0.15	0.12	0.09	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR6/6)含。
361 SD E	3.95	0.25	1.93	0.25	-	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
362 P E	0.70	0.65	0.29	0.37	-	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
363 P E	1.38	0.78	0.55	-	-	1.に加え黄褐色土(10YR4/3), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
365 P E	0.42	0.37	0.26	0.06	0.17	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
366 P E	0.85	0.38	0.13	0.64	0.48	1.黒色土(10YR2/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
367 P E	-	0.80	-	0.18	0.07	1.黒色土(10YR1.7/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
368 P E	0.83	0.47	0.67	0.50	0.40	1.黒褐色土(10YR3/1), 黑色土(10YR1.7/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
369 P E	0.72	0.54	0.66	0.89	0.17	1.黒色土(10YR1.7/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
370 SR E	1.20	0.88	1.00	0.81	0.49	1.黒褐色土(10YR3/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。 2.黒色土(10YR1.7/1), 明黄褐色土(10YR7/6)含。
371 SR E	2.20	2.11	1.00	0.59	0.36	1.黒色土(10YR1.7/1)。
375 P C	1.32	0.74	0.38	-	0.14	1.黒褐色土(10YR2/2), 明黄褐色土(10YR7/6)含。

第21表 西ヶ洞庵寺跡遺物觀察表(土器) -1

番号	取上番号	層位	種別	器種	法量(cm)		口径	残存	胎土	砂粒	焼成	色調(外面)	観察事項
					口径 (長さ)	器高 (高さ) (幅)							
1 812	S81	灰陶器	碗	15.9	4.6		7.3	11.0/12	標準	標準	標準	灰黄色:25Y7/2	体部内外面回転ナデ。底部内面平滑化、外面回転ヘラ削。
2 410	S81	灰陶器	碗	15.8	5.5		8	3.5/12	標準	標準	標準	灰黄色:25Y7/3	体部内外面回転ナデ。底部内面平滑化、外面回転ナデ。
3 417	S81	土器器	鉢	15.7	5.5				標準	標準	標準	褐色:SY6/6	体部外面回転斑。
5 768	S84	須恵器	甕	40				1.0/12	標準	標準	標準	灰赤色:25Y4/2	体部内外面回転ナデ。
6 871	S85	須恵器	有台盤	13.8	3.1		8.6	8.0/12	標準	標準	標準	灰赤色:10Y5/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、外面回転系切回転ヘラ削。
7 689	S85	須恵器	無台盤	12.8	3.5	6.6		1.5/12	標準	標準	標準	灰黃色:20Y3R5/2	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、平滑化、外面回転系切。
8 571	S83	須恵器	無台盤	15.2	4.2	6.8	4.1/12	標準	標準	標準	標準	褐色:SY6/1	体部内外面回転ナデ。
9 488	S83	須恵器	無台盤			9.0			標準	標準	標準	灰黄色:25Y7/2	体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。
10 526	S83	須恵器	底盤	13			6.6	5.0/12	標準	標準	標準	灰白色:35Y3/2	体部内外面回転ナデ、灰輪痕。
11 707	S84	土器器	甕	22.2				2.3/12	標準	標準	標準	灰褐色:20Y3R7/1	体部内外面板ナデ。
18 420	P5	土器器	甕	19.4				1.2/12	標準	標準	標準	灰褐色:20Y3R7/4	体部内外面板ナデ。
19 772	P6	灰陶器	水瓶						標準	標準	標準	灰白色:35Y6/2	体部内外面回転ナデ、外面灰斑。
20 800	P6	灰陶器	短颈瓶			6.8			標準	標準	標準	褐色:SY6/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
21 432	SK9	須恵器	短颈瓶						標準	標準	標準	灰褐色:25Y4/2	体部内外面回転ナデ。
22 886	S17	須恵器	無台盤			6.4			標準	標準	標準	灰黄色:25Y5/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
23 716	S57	須恵器	無台盤	13.8	4.2	6.8	4.0/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:25Y5/2	体部内外面回転ナデ。底部内面墨書き、外面回転系切。
24 604	5DE	須恵器	無台盤	14.1	4.2	6.4		1.5/12	標準	標準	標準	灰色:SY6/1	体部内外面回転ナデ。
25 230	6C II	須恵器	無台盤	12.8	3.2	5.5	1.0/12	標準	標準	標準	褐色:SY5/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。	
26 238	6C II	須恵器	無台盤	13	3.6	6.2	1.0/12	標準	標準	標準	灰褐色:25Y5/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。	
27 152	BD II	須恵器	無台盤	13.7	3.8	6.0	5.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y1/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。	
28 570	6C II	須恵器	無台盤	13.3	3.8	5.7	2.0/12	標準	標準	標準	茶オレーブ:SY5/2	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。	
29 916	III	須恵器	無台盤	(12.6)	3.6	5.6	2.8/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:SY4/1	体部内外面回転ナデ、内面口唇部漆付着。底部内面平滑化、外面回転系切。
30 323	4DE	須恵器	無台盤	11.7	4.1	6.0	0.5/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:25Y4/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
31 160	5C II	須恵器	無台盤	13.3	4.1	6.0	1.5/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:30Y5/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
32 286	4D II	須恵器	無台盤	14.6	5.1	7.4	5.0/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:SY1/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
33 544	6C II	須恵器	無台盤	12.3	4.3	5.3	2.0/12	標準	標準	標準	標準	褐色:SY5/1	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
34 83	4E III	須恵器	無台盤			5.6			標準	標準	標準	灰褐色:25Y3R5/3	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、外面回転系切。
35 ルンチ	須恵器	無台盤	14.6	4.8	6.2	1.0/12	標準	標準	標準	標準	褐色:SY6/1	体部内外面回転ナデ。底部内面未付着、外面回転系切。	
36 752	4D II	須恵器	無台盤			6.6			標準	標準	標準	灰褐色:25Y4R7/4	体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切。
37 594	5D II	須恵器	無台盤	13.6					標準	標準	標準	褐色:25Y2/5	体部内外面回転ナデ。底部内面未付着。
38 203	3C II	須恵器	碗	13.2	2.9	5.9	1.0/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:25Y5/1	体部内外面回転ナデ。底部内面未付着、外面回転系切。
39 673	5D III	須恵器	無台盤	13.2	4.2	6.0	12.0/12	標準	標準	標準	標準	褐色:SY1/6	体部内外面回転ナデ。内面口唇部から中央漆付着。底部内面平滑化、底部外面回転ヘラ削。
40 162	4D II	須恵器	有台盤	17	5.5		8.9	1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y5/2	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、平滑化、外面回転系切。
41 92	4D II	須恵器	有台盤	17.2	5.8		8.8	2.0/12	標準	標準	標準	褐色:SY4/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、底部外面回転系切。
42 ルンチ	須恵器	有台盤	12.1	4.1		7.4	1.0/12	標準	標準	標準	標準	灰褐色:SY4/3	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、外面回転系切。
43 620	6C III	須恵器	有台盤	11.8	4.2	6.9	1.0/12	標準	標準	標準	標準	褐色:10Y4R/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、手把痕跡。
44 281	4D II	須恵器	有台盤			7.6			標準	標準	標準	灰褐色:25Y3R7/3	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、平滑化、外面回転系切。
45 843	3D II	須恵器	有台盤			11			標準	標準	標準	褐色:25Y1/5	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、底部外面回転系切、平滑化、外面回転系切。
46 677	6C III	須恵器	有台盤	13.4	3.1		8.1	3.1/12	標準	標準	標準	褐色:25Y4/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、外面回転系切ヘラ削。
47 372	4DE	須恵器	有台盤			13.2			標準	標準	標準	灰褐色:25Y3R5/3	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕。
48 346	3C II	須恵器	短颈瓶						標準	標準	標準	褐色:25Y4/1	体部内外面回転ナデ。
49 740	4D III	須恵器	短颈瓶	15				1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y5/1	体部内外面回転ナデ。
50 226	6C II	須恵器	甕			10			標準	標準	標準	褐褐色:25Y5/2	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、糊剤。
51 35	3D II	須恵器	香炉						標準	標準	標準	褐色:25Y5/2	大型の甕、体部に糊付接ヘラ削り痕跡。脚輪がつく可能性。
52 178	3D II	須恵器	甕	38				1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y5/3	体部内外面回転ナデ。
53 501	5D II	灰陶器	碗	14.2	3		7	3.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y1/6	体部内外面上半回転ナデ、外面下半ヘラ削。底部内面平滑化、外面回転ヘラ削。
54 382	3D II	灰陶器	碗	14.2	3.2	7.6	7.6	2.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y2/6	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕。
55 502	5D II	灰陶器	碗	12.8	3.8		6.4	3.5/12	標準	標準	標準	褐色:SY6/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕。
56 ルンチ	灰陶器	碗	12.9	4.3		7.3	1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y6/2	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕。	
57 190	3D II	灰陶器	碗	13.8	4	7	7	3.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y7/2	体部内外面回転ナデ、灰輪痕。
58 205	3D II	灰陶器	碗	17.5	5.4		7.1	1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y6/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、外面回転ヘラ削。
59 591	3D II	灰陶器	碗	13.7	4.2		6.3	1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y7/2	体部内外面回転ナデ。
60 544	4E III	灰陶器	碗	15	4.1		8.2	5.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y1/6	体部内外面回転ナデ。底部内面平滑化、外面回転ヘラ削。
61 277	4E III	灰陶器	碗	14	4.2		7.8	7.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y5/6	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、外面回転ヘラ削。
62 ルンチ	灰陶器	碗	13.1	4.5		7.2	1.8/12	標準	標準	標準	褐色:25Y7/1	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕。	
63 325	4D II	灰陶器	碗	17.7	5.5		8.9	3.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y7/2	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕。
64 545	5C II	灰陶器	碗	14.8	4.5		7.6	1.0/12	標準	標準	標準	褐色:25Y4R/2	体部内外面回転ナデ。底部内面重燒痕、平滑化、外面回転ヘラ削。
65 55	4E III	灰陶器	碗	13.6				4.5/12	標準	標準	標準	褐色:25Y6/1	体部内外面回転ナデ。

第21表 西ヶ洞庵寺跡遺物観察表(土器)-2

番号	取上番号	造構	種類	器種	法量(cm)			口徑 (mm)	高さ (mm)	底径 (幅)(mm)	台 径 (X/12)	底土	砂粒	焼成	色調(外面)	観察事項	
					横 径 (mm)	高 さ (mm)	底 径 (幅) (mm)									底 部 内 外 面 回 転 ナ ド	底 部 内 面 平 滑 化
66	674	5DⅢ	灰釉陶器	碗	17	5.9	9.2	11.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	底部内外面回転ナド。底部内面平滑化。高台接地部棒状灰斑。			
67	333	3DⅢ	灰釉陶器	碗	16.2	4.4	8.1	10.0	12	粗	多	標準	灰黄色2.5Y7/2	底部内外面回転ナド。底部外面对転ヘラ削。			
68	857	3EⅢ	灰釉陶器	碗			7.1			標準	標準	標準	灰黄色2.5Y6/2	底部内外面回転ナド。底部外面对転ヘラ削。			
69		B	灰釉陶器	碗	19.4			3.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。輪花。			
70	897	3FⅢ	灰釉陶器	碗			7.7			標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。			
71	174	4DⅢ	灰釉陶器	碗	14.6	4.3	8	5.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y2/6	底部内外面回転ナド。内面塗付灰。底部外面对転系切回転ヘラ削。			
72	749	4DⅢ	灰釉陶器	碗	12.2	4.2	6.6	15.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。外面对転系切回転ヘラ削。			
73	616	4BⅢ	灰釉陶器	碗	12.5	3.8	6.6	12.8	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y6/1	底部外面对転系切回転ヘラ削。			
74	360	3CⅢ	灰釉陶器	碗	12.6	4.5	7.4	17.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y6/2	底部外面对転ナド。底部外面对転系切回転ヘラ削。			
75		ルンチ	灰釉陶器	碗	13.6	3.8	6.8	4.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面平滑化。外面对転系切回転ヘラ削。			
76	555	5DⅡ	灰釉陶器	碗	13.7	4.3	7.3	10.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。平滑化。外面对転系切回転ヘラ削。			
77	648	5DⅢ	灰釉陶器	碗	14.2	4.5	7	10.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。外面对転系切回転ヘラ削。			
78	101	5DⅢ	灰釉陶器	碗	15.8	4.2	7.6	3.0	12	標準	標準	標準	灰白色2.5Y2/7	底部内外面回転ナド。	底部外面对転系切回転。		
79	214	6DⅢ	灰釉陶器	碗	13.8	4.3	7.2	3.5	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。外面对転系切回転。			
80	435	5DⅢ	灰釉陶器	碗	14.2	4.3	7.1	3.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。	底部内面平滑化。外面对転系切回転。		
81	217	6DⅢ	灰釉陶器	碗	16.8	5	8.6	4.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。平滑化。外面对転系切回転ヘラ削。			
82	504	5DⅢ	灰釉陶器	皿	14.1	2.5	7.2	2.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y6/2	底部内外面回転ナド。灰釉濃掛。底部内面重焼痕。外面对転ヘラ削。			
83	592	5DⅢ	灰釉陶器	皿	13	2.9	6	1.0	12	標準	標準	標準	浅黄色2.5Y3/7	底部内外面回転ナド。高台接地部棒状灰斑。			
84	565	5CⅢ	灰釉陶器	皿	14	3.2	7.2	1.1	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y6/1	底部内外面回転ナド。	底部内面重焼痕。平滑化。		
85	64	6CⅢ	灰釉陶器	皿	12.4	2.8	6	1.0	12	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y2/6	底部内外面回転ナド。			
86		ルンチ	灰釉陶器	皿	13.8	2.2	6.7	1.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。底部内面重焼痕。平滑化。外面对転ヘラ削。高台。部外下面下垂堆積。			
87	873	3FⅢ	灰釉陶器	皿	14.2	2.5	8.1	3.0	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部外面对転ナド。底部外面对転系切回転ヘラ削。			
88	593	5DⅢ	灰釉陶器	深盤			0.5	12	標準	標準	標準	灰白色10Y7/2	底部外面对転ナド。				
89	833	4DⅢ	灰釉陶器	耳皿	9.5	2	4.9	10.0	12	標準	標準	標準	灰白色2.5Y7/1	底部外面对転ナド。内面全体剥落。底部外面对転系切回転。			
90	294	4DⅢ	灰釉陶器	水瓶						標準	少	標準	灰白色5Y7/2	底部内外面回転ナド。外面对転系切回転。			
91	320	4DⅢ	灰釉陶器	短脚盤	10.4			6.1	12	標準	標準	標準	灰色5Y6/1	底部内外面回転ナド。			
92	246	6CⅢ	灰釉陶器	碗	15			1.0	12	標準	標準	標準	绿色波状色	底部内外面回転ナド。绿色。			
93	760	4CⅢ	土器	甌	15.2			0.5	12	標準	標準	標準	青色波状色	底部内外面回転ナド。			
94	128	5CⅢ	土器	甌	13			2.2	12	標準	標準	標準	青色波状色	底部内外面回転ナド。			
95	274	5CⅢ	土器	甌	11			1.2	12	標準	標準	標準	青色波状色	底部内外面回転ナド。			
96	611	5DⅢ	土器	甌	28			1.8	12	標準	標準	標準	浅黄色50Y8R4	底部内外面回転ナド。			
97	607	5DⅢ	土器	甌	9.2			2.5	12	標準	標準	標準	浅黄色2.5Y7/3	底部内外面回転ナド。			
98	329	4DⅢ	土器	割土器						標準	標準	標準	青色波状色	底部外缘指压痕。			
99		3FⅢ	生土器	甌						標準	標準	標準	褐色7.5YRA/3	体部外面上平行、波状沈褪。			
105		粗志器	無台盤			(7.5)		4.0	12	標準	標準	標準	赤褐色30Y4/3	底部内面「十寺令」繰解。外面对転系切回転。			
106		粗志器	有台盤	(14.8)	5.6	(9.1)				標準	標準	標準	赤褐色10Y4/3	底部内面重焼痕。底部内面重焼痕、外面对転「或」繰解。砂田式。			
107		灰釉陶器	长颈瓶				4.3	12.0	12	標準	標準	標準	明黄色20Y8R6	体部下半回転ヘラ削。〔某〕繰解。砂田式。			

第22表 西ヶ洞庵寺跡遺物観察表(石器・石製品)

番号	造構	器種名	石材	法量			長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	形態	備考	
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)						備考	
41002	SB2	块状石	滑石	220	147	10.2				5600			
12102	SB3	砾石	砂岩	310	183	132				9650			
10338	5EⅢ	打制石斧	砂岩	(71)	46	15	(78.8)	1					
104	778	6CⅢ	打制石斧	砾石	128	53	16	169.3	1				
869	3EⅢ	打制石斧	砾石	(90)	45	13	683	1					
1001	4E	打制石斧	砾石	(420)	60	14	(52.1)	b					
459	3CⅢ	磨石	砂岩	(200)	75	64	(190)						

第23表 西ヶ洞庵寺跡遺物観察表(金属製品)

番号	器種名	取上番号	造構	器種	法量			長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	形態	備考	
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)						備考	
101	铁斧	759	4CⅢ	刀	53.0	73.0	32.0				119.2			
14	铁斧	911	SB3	刀	29.0	45.0	3.0				18.9			
15	铁斧	914	SB3	刀	32.0	40.0	14.0				124.4			
13	刮刀	684	SB3	刀	22.0	8.0	7.0				1.7			
100	剪刀	617	4BⅢ	刀	23.0	7.3	8.4				36.7			
17	铁斧	661	SB3	刀	106.0	136.0	36.0				422.0			
16	铁斧	SB3	51.0	64.0	25.0		69.0							
102	刀子	885	3EⅢ	刀	115.0	10.0	3.0				1.6			

第24表 中野山越遺跡遺物観察表(土器・繩文土器含)

番号	取上番号	遺構部位	種別	器種	法量(cm)			口径 (長さ) (高さ) (幅)	底径 (幅)	台径 (X/12)	胎土	砂粒	焼成	色調(外面)	観察事項		
					横	高さ	底径								標準	標準	標準
110	8	SB1	須恵器	有台碗	16.2	6.5	9.2	35/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.5YR4/2	底部内外面回転ナダ。底部外面回転ヘラ削。	
111	9	SB1	須恵器	無台碗	12.4	4.2	5.2	80/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.5YR5/1	底部内外面回転ナダ。底部外面回転ヘラ削。	
112	15	SB1	須恵器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.5YR5/2	底部内外面回転ナダ。内側同心円凸出。外側平行タケキ痕。	
113	6	SB1	須恵器	甕			18	50/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.0YR8/2	底部内外面回転ナダ。外側平行タケキ痕。	
114	20	SB1	須恵器	無台碗	12.4	4.2	5.6	100/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.5YR4/1	底部内外面回転ナダ。底部外面回転ヘラ削。	
115	32	SBP9	須恵器	双耳瓶					標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰色5Y4/1	底部内外面回転ナダ。	
116	7	SB1	須恵器	無台皿	13.8	3.5	5.6	35/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.0YR4/1	底部内外面回転ナダ。底部外面回転ヘラ削。	
117	1	SB1	須恵器	無台皿	11.3	3.9	5.2	13/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰色5Y4/1	底部内外面回転ナダ。底部外面回転ヘラ削。	
118	SB1	須恵器	無台皿	11.4	3.4	4.8	10/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.0YR4/1	底部内外面回転ナダ。底部外面回転ヘラ削。		
119	SB1	須恵器	甕	12.4			20/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.5YR7/6	底部内外面回転ナダ。綠釉。		
120	SB1	土器	甕	15.8			16/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色5.5YR7/6	底部外面瓶向ハケ目。		
121	31	SBP9	土器	甕		6.0			標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.5YR7/2	底部内部指ナメ。外側板ナメ。	
122	2	SB1	須恵器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5Y6/3	木神式平。柔弧文。スヌ付(外側口部付茎)。	
123	SB1	繩文土器	深鉢					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR5/1	口縁部、カリバ(一器形)。渦巻、垂弧沈線文。		

第25表 中野山越遺跡遺物観察表(石器・石製品)

番号	取上番号	遺構部位	器種名	石材	法量			質量(g)	形態	折損	備考		
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)				標準	標準	標準
124	1003	SB2	石器	下凹石	18	14	4.5	0.7	1b				

第26表 中野大洞平遺跡遺物観察表(大洞平5号古墳、縄文以外の土器)-1

番号	取上番号	遺構部位	区	種別	器種	法量(cm)			口径 (長さ) (高さ) (幅)	底径 (幅)	台径 (X/12)	胎土	砂粒	焼成	色調(外面)	観察事項		
						横	高さ	底径								標準	標準	標準
162	2397-7108	B	先生土器	鉢					標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色SYR6/6	口縁部外面スヌ付。底部外面瓶向斜接波状文。		
163	430-108/1	B	先生土器	鉢					標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色SYR6/6	底部外面瓶向斜接波状文。		
164	420-108/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色SYR6/6	底部内部瓶向斜接波状文。		
165	158-1158/1	B	先生土器	高杯					標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色SYR6/6	腰部外底瓶向ヘラ削後脚中央部に累東方向ナメ。内底ヘラ削。		
166	158-158/1	B	先生土器	高杯	21				9/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR6/6	底部外面瓶向ヘラ削。部底はキャップ状に脚部につく。	
167	170-158/1	B	先生土器	高杯		10.3			標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR6/6	部底キャップ状に脚部につく。脇外面上部瓶向斜接ナメ。		
168	159-158/1	B	先生土器	高杯	21.8				2.5/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR7/6	底部外面瓶向斜接ナメ。	
169	160-158/1	B	先生土器	高杯					標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR6/6	底部外面瓶向ナメ。方向穿孔。		
170	265-158/1	B	先生土器	高杯					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR6/1	腰部外面瓶向ナメ。方向穿孔。		
171	162-158/1	B	先生土器	高杯					標準	標準	標準	標準	標準	標準	暗褐色2.0YR3/3	底部外面瓶向後脚方向板ナメ。		
172	144-158/1	B	先生土器	高杯	16				3.9/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	明褐色2.0YR6/6	口部外底板。底部外面瓶向斜接板ナメ。	
173	417-158/1	B	先生土器	器台					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5Y1/1	腰部外面瓶向ヘラ削。		
174	225-158/1	B	先生土器	不器		3.5			標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5Y1/1	底部外面瓶向ヘラ削。		
175	172-158/1	B	先生土器	甕		3.3			標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR6/6	腰部外面瓶向ナメ。スヌ付。		
176	264-158/1	B	先生土器	甕	20				15/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR6/6	腰部外面瓶向ナメ。スヌ付。	
177	269-158/1	B	先生土器	甕	13				16/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	灰褐色2.0YR3/2	底部内外面板ナメ。有段口縁要。内面段接。	
178	227-158/1	B	先生土器	甕	16				12/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5Y1/5	底部内外面板ナメ。有段口縁要。内面不明段接。	
179	157-158/1	B	先生土器	甕	18				11/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	黑褐色2.5Y3/1	底部内外面板ナメ。外側スヌ付。有段口縁要。内面不明段接。	
180	531-1158/1	B	先生土器	甕	20.4				6.8/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR3/2	底部内外面瓶向。外側瓶。斜方向ハケ目。有段口縁要。内面段接。	
181	468-158/1	B	先生土器	甕					6.6	標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR7/6	底部内外面瓶向ハケ目。有段口縁要。内面段接。	
182	229-158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR1/4	底部内外面瓶向ハケ目。内面板ナメ。		
183	681-158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR7/6	底部外面斜方向ハケ目。くびれ下部横ナメ。内面板ナメ。		
184	204-1158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5Y1/1	底部内外面斜方向ハケ目。外側アブリ下部に横ナメ。		
185	473-158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR5/3	底部内面横方向。外側瓶。斜方向ハケ目。くびれ下部横ナメ。頭部から胴部スヌ付着。		
186	285-158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR7/6	底部外面斜方向ハケ目。外側アブリ。		
187	125-1158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	黒褐色2.0YR4/2	底部内外面板ナメ。外側板ナメ。後脚横板沈線文。		
188	241-158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	暗褐色2.0YR4/1	底部外面瓶向ハケ目。接縫方向ハケ目。内面板ナメ。		
189	234-158/1	B	先生土器	鉢	13				1/12	標準	標準	標準	標準	標準	標準	明褐色2.0YR6/6	底部外面瓶向斜接板。内面板ナメ。有段口縁要。	
190	151-158/1	B	先生土器	鉢					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR2/2	横方向数条沈線と波状文。		
191	143-158/1	B	先生土器	小舟深					標準	標準	標準	標準	標準	標準	橙褐色2.5YR6/8	袖形孔。		
192	254-1158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	黒褐色2.0YR2/2	底部外面瓶向斜接工字模様文。波状文。		
193	212-158/1	B	先生土器	甕					標準	標準	標準	標準	標準	標準	にぬき色2.5YR5/2	袖形孔引。波状文。		
206	544-101/1	B	先生土器	器台					標準	標準	標準	標準	標準	標準	浅青褐色2.0YR3/2	底部内外面横方向ハケ目。		

第26表 中野大洞平遺跡遺物観察表(大洞平5号古墳含、綱文以外の土器) -2

番号	取上番号	遺構 明位	区種 別	器種	法量(cm)			口径 (長さ)	器高 (高さ)	底径 (幅)	台径	胎土	砂粒	焼成	色調(外面)	観察事項	
					横	深	残存 (丈/寸)										
207	426	SB3 A	弥生土器	無肩壺									標準	標準	標準	にごり黒色:30TR5/1	口縁部外側から内面焼成前2ヶ所穿孔、外縁斜格子文 後ナガテ文帶。
208		SB3 A	弥生土器	無肩壺									標準	標準	標準	にごり黒色:30TR5/4	外縁斜格子文。
209		SB3 A	弥生土器	無肩壺									標準	標準	標準	にごり黒色:30TR5/4	外縁斜格子文。
212		SB5 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	黒褐色:10YR3/2	口縁部内外面横方向板ナギ、外面左下がり沈線文、 口縁部厚、外面左下左ヨリ沈線文、内外面横方向板ナギ。
213		SB5 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	黒褐色:10YR3/2	口縁部厚、外面左下左ヨリ沈線文、内外面横方向板ナギ。
214		SB5 A	弥生土器	壺	6.4			1/12					標準	標準	標準	にごり黒色:30TR5/4	体部内面横方向ハケ目、ミニチュア土器。
215		SB5 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	橙色:7.5YR7/6	外縁波状斜線文、平行沈線文、單位不明。
216		SB5 A	土器類	壺	15.2			1/2/12					標準	標準	標準	灰白色:5Y7/1	休部内面横方向ハケ目。
217		SB5 A	弥生土器	壺	18			1/12/12					標準	標準	標準	黒褐色:10YR3/1	口縁部外側肥厚、左下がり沈線文、内外面横方向板ナギ。
218	436	SB5 A	弥生土器	高杯	19			1/7/12					標準	標準	標準	橙色:7.5YR5/6	休部外側横方向板ナギ。
219		SB5 A	弥生土器	高杯	18			0/6/12					標準	標準	標準	明褐色:5YR5/6	休部外側横方向板ナギ、黒斑。
220	348	SB5 A	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	明褐色:7.5YR5/6	休部外側横斜方向ハケ目。
221		SB5 A	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	にごり黒色:30TR5/2	脚部外側横方向ヘラ磨。
223	412	SB4 A	土器類	盆	16.5	4.3		5.5/12					標準	標準	標準	灰褐色:5Y1/2	休部外側回転ナギ。
224	419	SB4 A	土器類	盆	16	4	13	6/12					標準	標準	標準	灰褐色:5Y2/7	休部内外側回転ナギ、底部外側回転ナギ。生地。
225		SB4 A	土器類	盆	14.4	3.6	10.6	5.5/12					標準	標準	標準	灰褐色:5Y1/5	休部内外側回転ナギ、底部外側回転ナギ、底部外側回転ナギ。
226	443	SB4 A	土器類	盆					10.8				標準	標準	標準	にごり青色:2.5Y3/6	休部外側回転ナギ。底部外側回転ナギ、底部外側回転ナギ。
227	425	LSB4 A	土器類	盆					9				標準	標準	標準	灰褐色:2.5Y2/6	休部内面横方向ナギ、底部外側回転ナギ切削削除ナギ。生地。
228	422	SB4 A	土器類	盆					8.6				標準	標準	標準	オリヅレ色:5Y2/6	休部外側回転ナギ、底部内面横方向板ナギ、外縁斜方向ヘラ削。
229		SB4 A	土器類	盆									標準	標準	標準	灰褐色:2.5Y2/6	休部内面横粗筋、外縁平行ヘラ削。
230	412	SB4 A	土器類	盆	12.4	15.5	6.8	4/12					標準	標準	標準	灰褐色色:10YR2/5	休部外側横方向ハケ目、内面横方向板ナギ。
231	317	SB4 A	土器類	盆	17.8	31.2		11.5/12					標準	標準	標準	にごり黄褐色:5Y3/6	休部外側横方向ハケ目、内面横方向ハケ目。
233	7	SD2 A	土器類	壺									標準	標準	標準	にごり青色:2.5Y1/7	休部外側横方向ハケ目、全貌の土師器の混入。
234	27	SD3 A	土器類	壺	11			2/12					標準	標準	標準	黒褐色色:2.5Y3/5	休部内面横方向ハケ目、捺任目、外縁斜方向ハケ目。
235	26	SD3 A	土器類	壺	15			0/2/12					標準	標準	標準	赤チリ色:3Y6/2	休部内面横方向板ナギ、外縁斜方向ハケ目。
236	372	SD6 A	弥生土器	台	17.2	13.8	11.6	0/6/12					標準	標準	標準	明褐色色:7.5YR5/6	脚部外側横方向ハケ目。鉄器。
237	354	SD6 A	弥生土器	台									標準	標準	標準	水銀色:2.5YR6/4	脚部外側横方向板ナギ。
238	430	SD6 A	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	橙色:7.5YR6/6	休部外側横方向ハケ目。
239		SD6 A	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	にごり銀色:2.5YR6/6	休部内面横方向板ナギ、外縁平行ヘラ削。
240	401	SD6 A	弥生土器	盆	7.9	3.9		9/12					標準	標準	標準	水銀色:2.5YR6/4	休部外側面下に朱付。
241	346	SD6 A	弥生土器	盆	21			2.3/12					標準	標準	標準	黄褐色色:10YR5/6	休部外側面下にハコ模、頭部縱方向ハケ目、内面貼付。
242	407	SD6 A	弥生土器	壺	19			1.2/12					標準	標準	標準	黒褐色色:10YR2/3	休部外側面スズ付。内面段無。
243	373	SD6 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3Y4/4	休部内外面横方向板ナギ。
244	364	SD6 A	弥生土器	壺			4						粗	多	甘	二重淡褐色:2.5Y2/4	休部外側面横方向板ナギ。
245		SZ3 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	黃褐色色:2.5Y4/1	口部刷毛、横状状沈線文の可能性。
246	377	SD6 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	灰褐色色:10YR1/2	口縁部横羽状沈線文。
247	402	LSD6 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3Y2/0	休部外側横方向ハケ目後横羽状沈線文。
248	347	SD6 A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	明黄色色:10YR5/6	休部外側面ナギ後横羽状沈線文、腹方向向直。
250	411	SD9 A	弥生土器	杯	10			1.1/12					標準	標準	標準	浅青褐色色:10YR8/4	休部外側横方向ハケ目。
251	356	SD9 A	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	橙色:7.5YR6/6	休部外側面方向ハケ目。唇部脚にキヤッキ付につぶ。
252	399	SD9 A	弥生土器	台									標準	標準	標準	にごり銀色:3Y6/4	休部内面横方向、外縁方角下押、杯部下端ヘラ削、T字痕、内面横方角ナギ。
325	662	3J J	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3TR6/4	休部外側面吸紋、内面横方向板ナギ。
326	1036	3J J	弥生土器	壺			8						標準	標準	標準	にごり銀色:3TR6/4	口部刷毛状沈線文。
327		A	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3TR3/1	口部刷毛状沈線文。
328	1039	3K K	弥生土器	壺									標準	標準	標準	褐色色:7.5YR4/4	口縁部貝刺突文。
329	1071	3K K	弥生土器	壺	19			1/12					標準	標準	標準	黒褐色色:7.5YR3/1	口縁部刻、口縁部横彫様方向開波状文。
330	196	3K K	弥生土器	壺									標準	標準	標準	黒褐色色:10YR2/2	口縁部肥厚、休部外側横方向板ナギ後彫状工具横縫文、波状文。
331		B	弥生土器	壺									標準	標準	標準	黒褐色色:10YR2/2	休部外側面横方向板ナギ後彫状工具横縫文、波状文。
332	669-2	3K K	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3TR5/4	外縁横羽状沈線文。
333	669-26	3K K	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3TR5/4	外縁横羽状沈線文、内面横方向ハケ目。
334	669-11	3K K	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3TR6/4	外縁横羽状沈線文。
335	669-26	3K K	弥生土器	壺									標準	標準	標準	にごり銀色:3TR4/4	外縁横方向ハケ目後横羽状文。
336	99	3L L	弥生土器	壺									標準	標準	標準	明黄色色:2.5Y7/6	口部刷毛、口縁部2条横方向沈線文。
337		3K K	弥生土器	壺			5						標準	標準	標準	にごり銀色:3TR4/4	休部内面横方向板ナギ、底部外側面網狀陶器。
338	41	A	弥生土器	壺	13			1.1/12					標準	標準	標準	にごり銀色:3TR5/4	休部内外面横方向板ナギ。
339	220	2B	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	灰褐色色:5Y7/2	脚部内外面横方向板ナギ、外縁スズ付。
340	4H	A	弥生土器	高杯									標準	標準	標準	灰褐色色:10YR4/2	脚部外側横方向板ナギ。
341	342-341-2	A	弥生土器	高杯	25			1.9/12					標準	標準	標準	黒褐色色:10YR7/6	休部外側面横方向板ナギ、外縁スズ付。
343	29	2K K	弥生土器	土割凹槽	4.9	0.7	4.7						標準	標準	標準	にごり銀色:3TR6/4	横位2本沈線・数本蛇形・沈線痕跡、土割凹槽に再加上。
344		A	土器類	壺									標準	標準	標準	灰色色:5Y1/5	休部内外面回転ナギ、生燒。
345	67	4F A	土器類	高杯									標準	標準	標準	灰白色色:5Y7/2	休部内外面回転ナギ、生燒。

第26表 中野大洞平遺跡遺物観察表（大洞平5号古墳含、縄文以外の土器）-3

番号	取扱番号	構造区分	区	種別	器種	法 規 (収容量)	口蹄疫 罹患率 (長さ)	口蹄疫 罹患率 (高さ)	口蹄疫 罹患率 (幅)	口蹄疫 罹患率 (台頭)	口蹄疫 罹患率 (残存)	始上	沙粒	桃成	色 (調外)	観察事項				
																標準	標準	標準		
346	3H	A	豚患病	杯												灰	ガーネル	SY2/5	体部内外面回転ナダ。	
347		A	馬袖衝突	有台碗												黄灰色	2.5Y1/6		体部内外面回転ナダ。底部内面に自然輪。	
348		A	馬袖衝突	有台碗												黄灰色	2.5Y1/6		体部内外面回転ナダ。内面自然輪。底部内外面回転ナダ。	
350	718-1	C	豚患病	鉢	22.4	4.9	9.6									褐色	褐色	褐色	褐色	口蹄疫回転ナダ。
351	721-30	7E	C	豚患病	鉢										褐色	褐色	褐色	褐色	口蹄疫回転ナダ。内面回転ナダ。	
352	807-2	7E	C	豚患病	杯	12.0	3.9	5.2							褐色	褐色	褐色	褐色	天井部内外面回転ナダ。体部外側方横斜輪柱工具による強制輪。内面回転ナダ。	
353	713-17	7E	C	豚患病	提瓶										褐色	褐色	褐色	褐色	口蹄疫回転ナダ。底部内外面回転ナダ。	
354	762-6	7D	C	豚患病	鉢										褐色	褐色	褐色	褐色	口蹄疫回転ナダ。	
355	802-2	7C	C	豚患病	皿	13.8	2.3								褐色	褐色	褐色	褐色	口蹄疫回転ナダ。底部内外面回転ナダ。下面下口。底部内外面回転ナダ。	
360	954-1	7H	D	豚患病	提瓶										標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。	
361	961-8	7H	D	豚患病	鍋み盡	14.4									0.1/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。体部外側方横斜輪柱工具による強制輪。内面回転ナダ。
362	977-2	7J	D	豚患病	杯	12.6	4.0								1.6/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内外面回転ナダ。
363	886-1	8G	D	豚患病	鉢	12.2									12/12	標準	標準	標準	標準	体部外側方横斜輪柱工具による強制輪。
364	886-1	7G	D	豚患病	鉢										標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。	
365	665-1	表T	E	豚患病	杯	10.6	4.1	5.5							5.5/12	標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。底部内外面ヘラ削削ナダ。
366	796-5	9P	E	豚患病	杯	7.4	4.1	3.8							0.5/12	標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。
367	799-1	9Q	E	豚患病	鉢	17.4	6.6	5.0							1.5/12	標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。底部内外面ナオサエ。
370	666-1	表T	E	豚患病	鉢										標準	標準	標準	標準	頭部外側方横斜輪柱工具による強制輪。	
371	822-1	9P	E	豚患病	平鍋										標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。	
376	319	SZ1	A	豚患病	通り蓋	9.4									1/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。下方下口。底部内外面ヘラ削削ナダ。
377	144	SZ1	A	豚患病	鍋み盡	8.6									2.5/12	標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。
378	85	SZ1	A	豚患病	鍋み盡	8.6									3.4/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
379	182	SZ1	A	豚患病	蓋	11.6	3.7								5/12	標準	標準	標準	標準	口蹄疫回転ナダ。天井部外側方横斜輪柱工具による強制輪。
380	326	SZ1	A	豚患病	杯	12.4	3.8								22.5/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。自然輪付着。天井部外側方横斜輪柱工具による強制輪。
381	146	SZ1	A	豚患病	蓋	11.6									4/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。天井部外側方横斜輪柱工具による強制輪。
382	147	SZ1	A	豚患病	杯	9.8									15/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
383	77	SZ1	A	豚患病	杯	10.2									1/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
384	141	SZ1	A	豚患病	杯	11.2	3.5								3/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
385	187	SZ1	A	豚患病	杯	11.8	3.2	7.2							6.5/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内外面回転ヘラ削削。
386	238	SZ1	A	豚患病	杯	13.0									3.1/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ヘラ削。
387	134	SZ1	A	豚患病	杯	12.6	3.0								3.6/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内外面ナ。
388	261	SZ1	A	豚患病	杯	10.5									5.5/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内外面回転ヘラ削。
389	195	SZ1	A	豚患病	杯	10.8									1/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内外面回転ナダ。
390	SZ1	A	豚患病	杯	11.2										3/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
391	135	SZ1	A	豚患病	杯	12.0									4/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
392	179	SZ1	A	豚患病	杯	12.0	4.7	7.8							2.6/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
393	125	SZ1	A	豚患病	平鍋										標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。自然輪付着。	
394	186	SZ1	A	豚患病	蓋	8.6									3/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
395	224	SZ1	A	豚患病	高杯										標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。	
396	78	SZ1	A	豚患病	高杯										標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。3方向透視。2段透視の可能性あり。	
397	297	SZ1	A	豚患病	高杯										標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。	
398	204	SZ1	A	豚患病	高杯										15.0	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
399	145	SZ1	A	豚患病	蓋	13.5									3/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。下部回転ヘラ削削カキ目22本。
400	173	SZ1	A	豚患病	提瓶	9.4									標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。自然輪。両面カキ目。	
401	SD5	A	豚患病	提瓶	9.2	11.5									2/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。両面カキ目後中央部指任せ。
402	84	SZ1	A	豚患病	提瓶										標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。両面カキ目。	
403	119	SZ1	A	豚患病	要	19.0									0.6/12	標準	標準	標準	標準	明黄色色SY10R6。天井部内外面横方向カク。
404	SZ1	A	豚患病	高杯											標準	標準	標準	標準	黄色色SY2.5/7。壁面に調整不良。	
405	291	SZ1	A	土師器	要	10.2									5.5/12	粗	良	良	良	瓦面色SY10R6。壁面に調整不良。
406	305	SD5	A	豚患病	蓋	14.4									4.5/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
407	265	SD5	A	豚患病	油み盡	15.0	2.4								1/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。
411	278	SD5	A	豚患病	油み盡	16.0	3.6								7/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。外側自然輪。
412	301	SD5	A	豚患病	無台盤	15.0	2.9	12.0							5/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内面中央部回転ナダ。
413	268	SD5	A	豚患病	杯	14.8	2.9	12.6							1.5/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内外面回転ヘラ削。
414	333	SZ1	A	豚患病	無台盤	10.2	4.9	7.5							6/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。中央横斜輪柱工具による強制輪。
415	194	SZ1	A	豚患病	ハソウ										標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。中央横斜輪柱工具による強制輪。	
416	259	SZ1	A	豚患病	貯蜜庫	7.2	5.2								3/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。後2枚比線。底部内外面回転ヘラ削。
417	184	SD5	A	豚患病	要	16.2									10/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。底部内面回転ナダ。外側自然輪。
418	114	SD5	A	豚患病	要	27.0									5.2/12	標準	標準	標準	標準	天井部内外面回転ナダ。内面自然心当瓶。下間に板柱。

第27表 中野大洞平遺跡遺物観察表(縄文土器)-1

番号	出土上位区	遺構位置	分類	器種	胎土	砂粒混入	火成	色調(外面)	観察事項
125	47-I	B 108号	1-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	胴部、押型文(椅子目文)(ガシティ)。
126	46-B	B 108号	1-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、押型文(舟内文)(ボウノヒテイ)。
127	617	B 108号	1-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部横幅に2条の折伏隆帶上に貝殻散在して刺突。
128	538	B 108号	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部、横位沈綱文(交互刺突、綱文の後、沈綱文)。
129	423	B 108号	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部、キャリバー器形。満巣式隆帶と横位隆帶に沿って押引き沈綱。
130	374	B 108号	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部、キャリバー器形、燃系を地文にし口縁部満巣き隆帶、柄付に沈綱文交互刺突。
131	616	B 108号	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	胴部、キャリバー器形、西古文式地文に半載竹管工具による横位の波状文と弧状文。
132	177	B 108号	3-3	浅鉢	標準	標準	標準	橙色7.5YR7/6	口縁部から底面部へ貼付隆帶、沈綱文捺付凹凸、区内無文。
133	396	B 108号	3-1	深鉢	粗	標準	標準	灰黄色3.0Y7/2	口縁部内面凹凸なし、頭部にガラス状突起下位斜面粗。
134	398	B 108号	3-1	深鉢	標準	多	標準	灰黄色3.0Y7/3	口縁部、横位沈綱文(波状文)、垂下隆帶帶区間に擬似沈綱。
135	386-2	B 108号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色3.0YR4/2	胴部、擬似3条の隆帶下位羽根状波状線文。
136	361	B 108号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色3.0YR5/4	胴部、擬似沈綱文(波状文)に平行する隆帶、内管状工具による刺突、区内右翼状沈綱文。
137	584	B 108号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色3.0Y7/2	頭部～胴部、横位沈綱文、満巣式隆帶から垂下隆帶に両端沈綱。胴部半載竹管による矢羽根粗状沈綱文。
138	485	B 108号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	橙色5YR6/6	胴部、有刺隆帶、櫛型文。
139	356	B 108号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色3.0YR5/2	胴部、満巣式沈綱文。
140	353-1	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	オーラー黒紫色5Y3/1	波状沈綱部、波頭部より有刺隆帶が左右に走る、中心に弧状沈綱文。
141	583	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	オーラー黒紫色5Y3/1	波状沈綱部に沈綱文、有刺隆帶。
142	185	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	波状沈綱部、横位半載竹管による波状、横位沈綱文有刺。
143	427	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、地文は傳統文(RL)半載竹管による横位沈綱。
144	175	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	頭部、地文は傳統工具による傳文、同じ工具による有刺隆帶と半隆起文。
145	181	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、横位有刺隆帶波頭部より垂下。沈綱文凹凸。
146	132-1	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	浅黄色2.5Y7/4	口縁部、横位沈綱文有刺隆帶、下沈綱部に有刺。
147	527	B 108号	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、横位沈綱文有刺隆帶。
148	425-2	B 108号	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	頭部、半載竹管による沈綱文、有刺隆帶。
149	336	B 108号	3-3	深鉢	標準	多	標準	深青色2.5Y7/0	頭部、隆帶下位走り、その間に沈綱文、地文は傳文。
150	432	B 108号	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	胴部、粗粒、条縞地文、綱紋有刺隆帶。
151	395-1	B 108号	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、横位有刺隆帶波頭部より垂下。沈綱文凹凸。
152	538	B 108号	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、傳文。
153	431	B 108号	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、傳文(RL)傳文。
154	183	B 108号	6-5	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、底部、口縁部横幅部に横位沈綱、傳文(RL)。
155	449	B 108号	6-5	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	頭部、底部、傳文(RL)底部嗣代崩痕。
156	425	B 108号	6-1	深鉢	標準	多	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、粗粒、条縞地文、綱紋有刺隆帶。
157	138	B 108号	6-6	土器	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	全周に横位工具による2本1線上による横位沈綱間接刺突穴を施している。表裏と共に正中縫。
158	136	B 108号	6-6	土製品	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	刺突穴上より列立柱文及びそれに平行する伝神文が見られる。
159	408	A SD6	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、口唇、口縁部横幅部に横位沈綱、傳文。
160	575	B 108号	2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	横幅の細い隆帶(弥生住居に混入)。
161	546	B 108号	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、キャリバー器形。横位交互刺突穴下燃系地文(弥生住居に混入)。
162	362	A 158号	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、櫛型文。
163	211	A 158号	5	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	頭部、上部比羅文、屈曲部に突起。
164	222	A 158号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	口縁部、腰带区間に横位沈綱。
165	418	A 158号	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、2条の垂下隆帶、斜行沈綱。(奈良時代の住居に混入)
166	634	B III	1-1	深鉢	粗	多	標準	灰黄色2.5Y5/2	口縁部から胴部、横位沈綱、傳文(RL)。
167	655-1	B III	1-1	深鉢	粗	多	標準	灰黄色2.5Y5/3	胴部、押型文(カタナギテイ)。
168	31	B III	1-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	胴部、押型文(木葉枝)。(ガシティ)
169	17-17	B 2	深鉢	標準	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、口唇に刻み、横位沈綱文。
170	A	2	深鉢	標準	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部、横位に浮標文を押付。
171	A	2	深鉢	標準	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、横位浮標文(RL)。
172	A	2	深鉢	標準	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、浮標文。
173	669-5	B III	2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部、横位2条の浮標、浮標上押付、胴部横幅部に有刺。
174	61	A	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、3条の横帶上に系縄文。
175	A	3-3	深鉢	標準	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、横位3条の横帶上に系縄文。
176	267	A	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、横位3条の横帶上に系縄文。
177	268	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部、横位3条の横帶上に系縄文。
178	269	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部、横位3条の横帶上に系縄文。
179	270	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	口縁部、口唇部に隆帶を貼り付け横位沈綱、屈曲部には有刺隆帶。
180	265	A	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、横位3条の横帶上に系縄文。
181	266	A	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	胴部、隆帶数本の筋に斜行沈綱文。
182	267	A	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	胴部、隆帶数本の筋に斜行沈綱文。
183	268	A	3-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	胴部、半載竹管による矢羽根状沈綱。
184	269	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部横幅部に横位3条の横帶上に系縄文。
185	270	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/2	口縁部、口唇部に横位3条の横帶上に系縄文。
186	271	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/4	口縁部横幅部に横位3条の横帶上に系縄文。
187	272	B	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部横幅部に横位3条の横帶上に系縄文。
188	273	A	3-2	深鉢	標準	標準	標準	灰黄色2.5Y7/3	口縁部横幅部に横位3条の横帶上に系縄文。

第27表 中野大洞平跡遺物観察表(縄文土器) -2-

番号	取上区 番号	遺構位 置	分類	器種	胎土	砂粒 混入	焼成 度	色調(外面)	観察事項		
									横位	縦位	側面
274	658-7 B	■	3-2	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	浅狀口縁部、波浪部より横位に平戻竹管による沈縫文、側部縫文。		
275	99 B	■	3-2	浅鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部横位沈縫間に側面状刺突。		
276	271 A	B	3-2	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	底部、輪文部兼帝上側縫合下共によく刺突穴列、その脇横位沈縫。		
277	1036 B	■	4	浅鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部、輪文状縫縫間は無し。朱付有。		
278	10-1 A		4	深鉢	標準	標準	標準	灰褐色黄2.5Y5/2	浅狀口縁部、波浪部より症狀空隙に刺突、画面に陰戻横走、肩部縫文(RL)内面に凹点。		
279	683-1 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	側部、輪文RL施文73条の沈縫間に別の細かい・圓文を施す。		
280	1063 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	暗灰色2.5Y5/1	口縁部、横位2条の沈縫地には輪文RL、側面部別々。		
281	1038 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	灰色5Y5/2	口縁部、輪文RL内面に横位沈縫3条。		
282	1065 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	浅狀口縁部、横位2条の沈縫。		
283	683-3 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	浅狀口縁部、波浪部に三叉文、輪文RLを施文し、横位3条の沈縫、側部無文。		
284	3-1 B	△	4	深鉢	標準	標準	標準	浅褐色2.5Y5/2	浅狀口縁部、口縁にむかへて横位沈縫と陰帶、側部無文。		
285	658-1 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部、輪文RL施文、面部は別の輪文RLで施す。横位の調整痕が見られる。		
286	658-2 B	■	4	浅鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部、横位2条の沈縫。		
287	683-4 B	■	4	浅鉢	標準	標準	標準	浅黄色2.5Y5/2	口縁部、横位3条の輪文・凹縫、底付刻・沈縫と刺突。		
288	1059 B	■	4	浅鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部、刺突列間に横位2条の沈縫、側部無文。		
289	605 B	■	4	浅鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部、刺突列間に横位2条の沈縫。		
290	1040 B	■	4	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	口縁部・くろんばん玉茎型紋、横位7条の沈縫。単面部円形の刺突列、底部無文。		
291	A		6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	側部、輪の熱り出し・底痕。		
292	A		6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰褐色2.5Y5/2	口縁部、輪文RL。		
293	A		6-1	深鉢	標準	標準	標準	黃褐色2.5Y5/1	側部、羽状裂文。		
294	3 B	△	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰褐色2.5Y5/2	側部、輪文RL施文。		
295	679 B	■	6-5	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色30YR7/4	底部輪文RL、底部摩滅の為不明。		
296	602 B	■	6-5	深鉢	標準	標準	標準	暗灰色30YR7/4	底部輪文RL、底部摩滅の為不明。		
297	656-5 B	■	6-5	深鉢	標準	標準	標準	にぬ・黄褐色2.5Y5/2	底部、輪文RL施文。		
298	671-1 C		3-2	深鉢	標準	標準	標準	褐色5Y5/7	側部半戻竹管による平行沈縫、横位間に刺突列と爪壓文。下部横位沈縫。		

第28表 中野大洞平跡遺物観察表(石器・石製品) -1-

番号	取上区 番号	遺構位 置	器種名	石材	法 量				形態	折損	備 考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)			
199	546 B	108号	石鑼	チャート	21.0	19.0	4.0	0.80	1C	g	
200	343 B	108号	スクリーパー	チャート	44.0	35.0	12.0	19.2	C		
201	130 B	108号	磨製石斧	蛇紋岩	51.0	11.0	6.5	(7.1)	小形磨製石斧		
202	71 B	158号	石鑼	下呂石	24.0	14.0	6.0	(2.0)	2F		
203	316 B	158号	石鑼	チャート	28.0	12.0	4.0	1.5	2F		
204	251 B	158号	石鑼	チャート	16.0	12.0	4.0	0.5	1F		
205	247 B	158号	磨製石斧	磨製石錐状	75.7	24.6	4.4	(115.6)	3	B	
206	158 B	158号	打製石斧	磨製石錐	139.0	74.0	39.0	(417.1)	3	C	装着軸
207	281 B	158号	打製石斧	磨製石錐	95.0	60.0	23.0	(144.3)	1	B	装着軸
208	291 B	158号	打製石斧	磨石	148.0	96.0	32.0	(602.7)	1	B	
209	471 B	158号	磨石類	安山岩	114.0	91.0	42.0	562.7	門石		
210	413 B	101号	石製品	磨石	69.0	69.0	94.0	(38.0)	(256.0)	G	
211	325 B	101号	打製石斧	チャート	120.0	42.0	19.0	112.7	1		装着軸
212	657 B	1 B	石鑼	下呂石	18.0	16.0	4.1	0.6	1C		
213	108 B	1 B	石鑼	下呂石	17.0	13.0	2.6	0.5	1C		
214	306 B	1 B	石鑼	下呂石	15.0	11.0	3.2	(0.5)	1B	B	
215	693 B	1 B	石鑼	下呂石	18.0	12.0	2.8	(0.5)	1B	B	
216	689 B	1 B	石鑼	下呂石	28.0	17.0	5.7	1.7	1B		
217	303 B	1 A	石鑼	下呂石	18.0	12.0	3.1	(0.6)	1B	D	
218	304 B	1 A	石鑼	チャート	20.0	16.0	3.6	1.0	1D		
219	362 A	1 A	石鑼	下呂石	24.0	16.0	4.1	(1.1)	1F	B	
220	46 A	1 A	石鑼	下呂石	41.0	18.0	8.7	(5.1)	2F	C	
221	2004 A	1 A	石鑼	チャート	28.0	14.0	5.2	(1.9)	4B	f	
222	305 B	1 A	石鑼	下呂石	30.0	14.0	3.9	1.1	4B		
223	29 B	1 A	石鑼	下呂石	25.0	14.0	5.8	(1.3)	1F	B	
224	668 B	1 B	石鑼	黒曜石	17.5	1.0	2.2	0.3	1F		
225	2112 B	1 B	コア	下呂石	44.0	46.0	35.0	62.0			
226	26		打製石斧	磨製石錐	96.0	46.0	14.0	93.6	1	A	装着軸
227	657 B		打製石斧	磨製石錐	114.0	49.0	18.0	(116.2)	1	C	
228	335 A		打製石斧	磨製石錐	99.0	48.0	16.0	(113.3)	1	A	装着軸
229	121 B		打製石斧	磨石	93.0	566.0	15.0	91.7	2		装着軸
230	9 B		磨製石斧	チャート	113.0	56.0	30.0	(306.2)	3	A	敲打痕、崩壊
231	198 A		磨製石斧	チャート	131.0	53.0	32.0	343.5	3		
232	9 B		磨製石斧	磨石	86.0	56.0	30.0	(271.4)	3	B	敲打痕、崩壊
233	120 B		石製品	ヒスイ	16.0	20.0	6.5	(3.6)			垂掛
234	211 A	SBI	石製品	バロナイト	37.0	6.7	5.5	2.7			

第28表 中野大洞平遺跡遺物観察表(石器・石製品)-2

番号 番号	取上 区	遺構 層位	器種名	石材	法 量				形態	折損	備 考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)			
321	2015 A	A	磨製石斧	蛇紋岩	26.0	20.0	6.0	7.1			
322	268 A	A	磨石類	安山岩	115.0	87.0	46.0	598.7			磨り面, 開あり
323	686 B	B	石製品	砂岩	34.0	38.0	(10.0)	(18.7)			
324	670 B	B	磨石類	凝灰岩	164.0	119.0	63.0	1740.0			
349	671 C	C	磨石類	安山岩	162.0	54.0	75.0	966.8			円石
363	843 D	D	石礫	下呂石	33.0	13.0	7.2	(2.5)	2F	D	
372	1000	365号	打製石斧	安山岩	95.0	47.0	135.0	667.7	2	A	装着痕
373	2009 A	S05	ビニスレスース	下呂石	8.3	26.2	19.8	5.4			
2002	A	SZ1	石礫	F呂石	23.0	(12.2)	4.2	(1.1)	1C	f	
157	A		石礫	下呂石	31.0	(19.0)	5.5	3.0		H	
75	B		石礫	下呂石	(18.0)	12.0	2.3	0.5		1C	
9	A		石錐	チート	(18.0)	4.0	(3.2)	(0.4)			
2007	B		石匙	下呂石	(36.7)	(21.5)	(7.2)	(2.8)			
570	B	365号	スレーブバー	チート	30.0	22.0	6.0	3.7			
687	B		スレーブバー	下呂石	23.0	28.0	3.4	2.1			
661	B		スレーブバー	下呂石	30.0	10.0	6.3	1.7			
611	B		スレーブバー	チート	34.0	22.0	8.2	6.0			
2008	B		スレーブバー	下呂石	38.0	32.0	3.7	5.0			えぐりあり
2010	A	S05	コア	チート	27.7	37.1	23.1	23.6			
429	A	S06	コア	チート	50.9	79.5	43.9	271.8			
2011	A		コア	下呂石	37.8	64.5	40.0	126.0			
11	A		コア	チート	37.8	54.4	24.3	53.9			
191	B		コア	下呂石	45.0	36.0	22.0	26.7			
108	B		コア	チート	58.0	55.0	3.0	113.8			
32	A		コア	チート	42.0	57.0	26.4	79.3			
547	B	108号	打製石斧	凝灰岩	49.0	(42.0)	(19.0)	(48.2)	1	B	
590	B	108号	打製石斧	凝灰岩	82.0	(52.0)	6.5	(27.9)	1	A	
302	B	108号	打製石斧	凝灰岩	78.0	(48.0)	9.0	(47.0)	3	C	
323	B	108号	打製石斧	凝灰岩	92.0	(49.0)	9.6	(35.6)	1	B	
400	A	S06	打製石斧	凝灰岩	(77.7)	67.9	22.5	(149.5)	1	D	
2013	B	SX4	打製石斧	砂岩	(77.0)	79.0	29.0	(189.0)	1	B	
110	A		打製石斧	安山岩	95.0	43.0	14.0	(68.0)	1	C	
655	B		打製石斧	安山岩	90.0	(80.0)	(25.0)	(195.5)	2	B	
2014	B		打製石斧	凝灰岩	86.1	52.8	11.8	67.2	3	B	
29	B		打製石斧	凝灰岩	81.0	(50.0)	14.0	(69.4)	2	D	装着痕
938	D		打製石斧	凝灰岩	29.0	(60.0)	9.0	(22.0)			B
1022	D		打製石斧	安山岩	97.0	57.0	17.4	(151.3)	3	D	装着痕
978	D		打製石斧	凝灰岩	78.0	(52.0)	(19.0)	(87.0)	1	A	
1004	D		打製石斧	花こう崗岩	92.0	(60.0)	27.0	(149.5)	1	A	
978	D		打製石斧	安山岩	78.0	53.0	19.0	(87.0)	1	A	装着痕
892	D		打製石斧	デササゲ	85.0	(64.0)	35.8	(222.7)	1	A	
816	E		打製石斧	花こう崗岩	(137.0)	(65.0)	(28.0)	(344.9)	1	D	装着痕
870	E		打製石斧	凝灰岩	(77.0)	52.0	(20.2)	(104.9)	1	B	装着痕
917	E		打製石斧	凝灰岩	(55.0)	53.0	9.0	(51.4)	1	B	
429	B	108号	打製石斧	蛇紋岩	30.0	(24.0)	9.0	(5.2)			破片のみ
130	B		打製石斧	蛇紋岩	(22.0)	(27.0)	(12.5)	(9.4)			D 基部のみ
416	A	SB4	磨石類	安山岩	95.0	26.0	61.0	535.7			
2016	A	SB4	磨石類	安山岩	64.5	(62.7)	38.8	(158.8)			
2017	A	SB4	磨石類	凝灰岩	133.9	42.1	50.6	421.9			
328	B		磨石類	砂岩	81.0	51.0	39.0	112.9			

第29表 中野大洞平遺跡遺物観察表(金属製品)

番号 番号	器種名	取上 区	遺構 層位	法 量				備 考
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	
357	釘	811-1 C	7E'	33.0	8.4	2.8	0.8	
358	釘	811-2 C	7E'	26.0	5.9	3.5	0.6	
359	鍋?	802 C	8E'	62.0	65.0	1.8	31.1	
366	クサビ	1014 C	8J'	51.0	15.0	4.9	11.3	
373	竈永通宝	785 E		18.0	13.0	0.8	0.4	
374	不明	995 E		43.0	36.0	8.4	8.5	
406	耳環	111 A	SZ1	28.0	32.0	7.5	27.4	
407	刀子	149 A	SZ1	89.0	17.0	3.0	9.9	
419	刀子	161 A	S06	37.0	8.0	3.0	1.8	
420	馬具(兵庫鎖)	A	4H	60.0	25.0	7.0	44.8	

参考文献

- 赤木清1937a「高山市上岡本西ノ山の弥生式遺跡」「ひだびと」5-5 飛驒考古土俗学会
- 赤木清1937b「飛驒大野郡上枝村新宮の彌生式遺跡」「ひだびと」5-6 飛驒考古土俗学会
- 赤塚次郎編2002「弥生・古墳時代 土器II」「考古資料大観」第2巻 小学館
- 石川日出志1995「飛驒の弥生中期横羽状文甕」「飛驒と考古学」飛驒考古学会
- 伊藤正人2000「耳皿ノート」「中近世土器の基礎研究」XV 日本中世土器研究会
- 伊藤正人・川合剛2000「東海地方の中・後期土偶」「土偶研究の地平」勉誠出版
- 岩花秀明1997「国府町の古墳時代」「飛驒の古墳時代」飛驒国府シンポジウム実行委員会
- 内堀信雄2001「土師器煮炊具の様相—地域と使用痕—」「美濃・飛驒の古墳とその社会」同成社
- 加藤輝次1935a「單純彌生式遺跡「内垣内」と「山王洞」(二)」「ひだびと」3-1 飛驒考古土俗学会
- 加藤輝次1935b「單純彌生式遺跡「内垣内」と「山王洞」(三)」「ひだびと」3-1 飛驒考古土俗学会
- 加納俊介・石黒立人編2002「弥生土器の様式と編年—東海編—」木耳社
- 財團法人岐阜県教育文化財團文化財保護センター2005『上岩野遺跡』
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1997『与島古墳群』
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2000『いんべ遺跡』
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2000『冬頭城跡・冬頭山崎1号古墳・冬頭山崎2号古墳・冬頭山崎1号横穴』
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2003『深橋前遺跡』
- 久保智康2001「古代山林寺院の空間構成」「古代」110 早稲田大学考古学会
- 下呂町教育委員会1985『下島遺跡発掘調査報告書』
- 下呂町教育委員会2004『鳳慈尾山大威德寺跡（平成15年度範囲確認調査概要報告書）』
- 国府町教育委員会1998『桜本遺跡』
- 国府町教育委員会2004『海具江古墳調査報告書』
- 国府町教育委員会2005『かうと洞1号古墳、2号古墳調査報告書』
- 小林達雄編1988『縄文土器大観』小学館
- 杉原莊介1937「飛驒高山市付近の彌生式土器の様相に就いて」「ひだびと」5-4 飛驒考古土俗学会
- 鈴木元2002「美濃の弥生墓制」「美濃の考古学」5 美濃の考古学刊行会
- 鈴木道之助1991『図録・石器入門事典〈縄文〉』柏書房
- 高山市教育委員会1978『ツルネ遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会1981『薬師野遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会1983『糠塚遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会1993『前平山陵遺跡・赤保木遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会2001『打越遺跡』『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 田中彰2001「飛驒地域の古墳」「美濃・飛驒の古墳とその社会」同成社
- 「土偶とその情報」研究会1997「西日本をとりまく土偶」（土偶シンポジウム6 奈良大会）
- 長瀬治義2002「方墳の領域～律令前夜の美濃と飛驒」「美濃の考古学」5 美濃の考古学刊行会

- 成瀬正勝2001「横穴式石室の導入」『美濃・飛騨の古墳とその社会』 同成社
- 成瀬満1964「小坂町出土の顔面把手と水神平式土器」『飛騨春秋』92 飛騨郷土学会
- 成瀬満1965「長瀬石器時代遺跡発掘記録」『飛騨春秋』98 飛騨郷土学会
- 八賀晋1995「飛騨の古式古墳について」『飛騨と考古学』 飛騨考古学会
- 八賀晋2001「飛騨国伽藍について」『美濃・飛騨の古墳とその社会』 同成社
- 八賀晋2004「信包八幡神社古墳測量調査報告」 飛騨市教育委員会
- 古川町教育委員会1991「上町遺跡D地点発掘調査報告書」
- 古川町教育委員会1993「中野山越遺跡発掘調査報告書」
- 吉朝則富1987「飛騨地方における石冠の分布とその機能について」『飛騨史学』8 飛騨史学会
- 吉田富夫1936「ひじ山の弥生式土器を観て」『ひだびと』4-10 飛騨考古土俗学会

写 真 図 版



西ヶ洞廃寺跡全景 南から



1号鐵冶関連遺構(SB1・2) 南から

図版 2・西ヶ洞廃寺跡



鐵冶炉・金床石(4)(1号鐵冶関連遺構) 南西から



灰釉陶器・碗(1)(1号鐵冶関連遺構) 南から



須恵器・甕(5)(2号鐵冶関連遺構) 南から



鐵滓(17)(2号鐵冶関連遺構) 南から



2号鐵冶関連遺構(SB3・4) 南西から



8・9号礫石(S18・9) 南から



8・9号礫石(S18・9)断ち割り 南から



9・11号礫石(S19・11)断ち割り 南東から



9号礫石(S19)断ち割り 南から



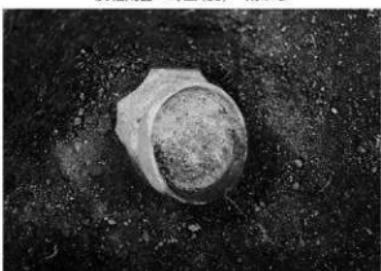
須恵器・甕(39) 北から



灰釉陶器・耳皿(89) 南から



灰釉陶器・蓋(50) 東から



灰釉陶器・甕(86) 南から

図版 4・中野山越遺跡



中野山越遺跡全景 東から



1号住居跡 南から



カマド(1号住居跡) 南から



須恵器・碗(111・114) 西から



須恵器・碗(116) 南から



中野大洞平遺跡(A区)・大洞平5号古墳全景 南西から



中野大洞平遺跡(A区)・大洞平5号古墳全景 南東から

図版 6・中野大洞平遺跡





中野大洞平遺跡(B区)遠景 南東から

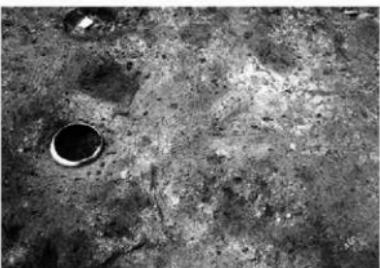


中野大洞平遺跡(B区)全景 東から

図版 8・中野大洞平遺跡



4号居住跡(158) 北から



地床炉・埋設された甕(183)(4号居住跡) 北から



6号居住跡(手前・108)・5号居住跡(奥・101) 南から



床下に埋められた炉(6号居住跡) 北から



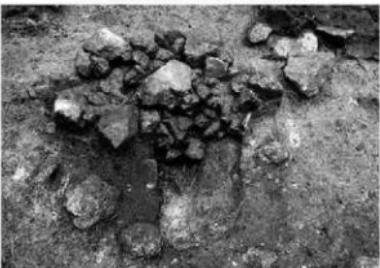
6号居住跡(101) 西から



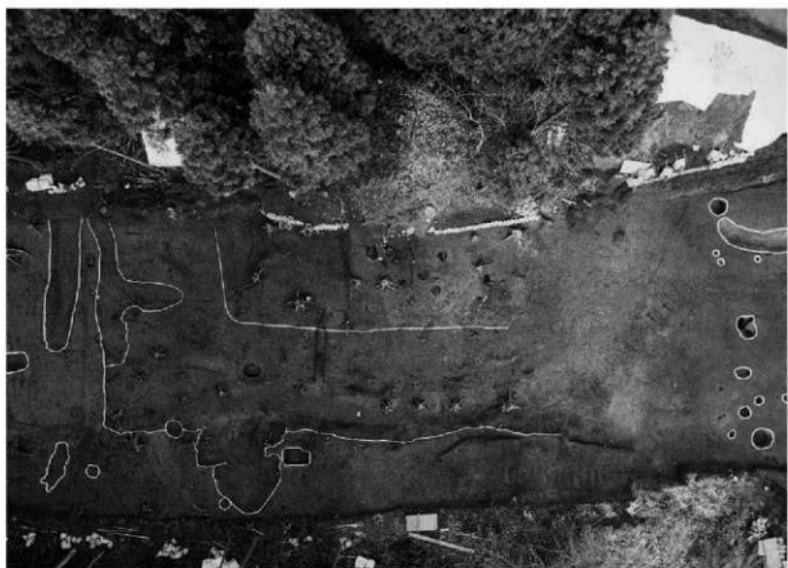
ゴの字型炉(6号居住跡) 南西から



階段状遺構(376) 北東から



焼砾集積遺構(375) 東から



大洞平5号古墳全景



須恵器甕(417) 出土状況 南から



墳丘及び土橋状の盛り上り 南から

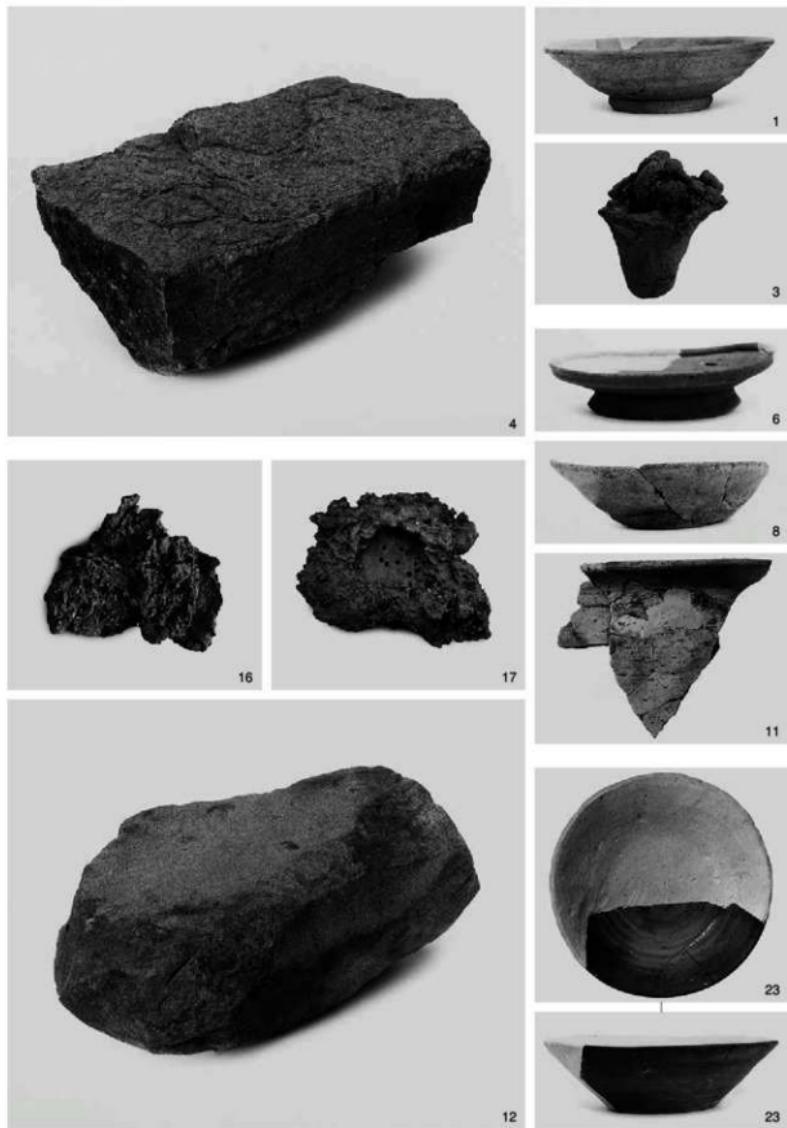


耳環(406) 南から

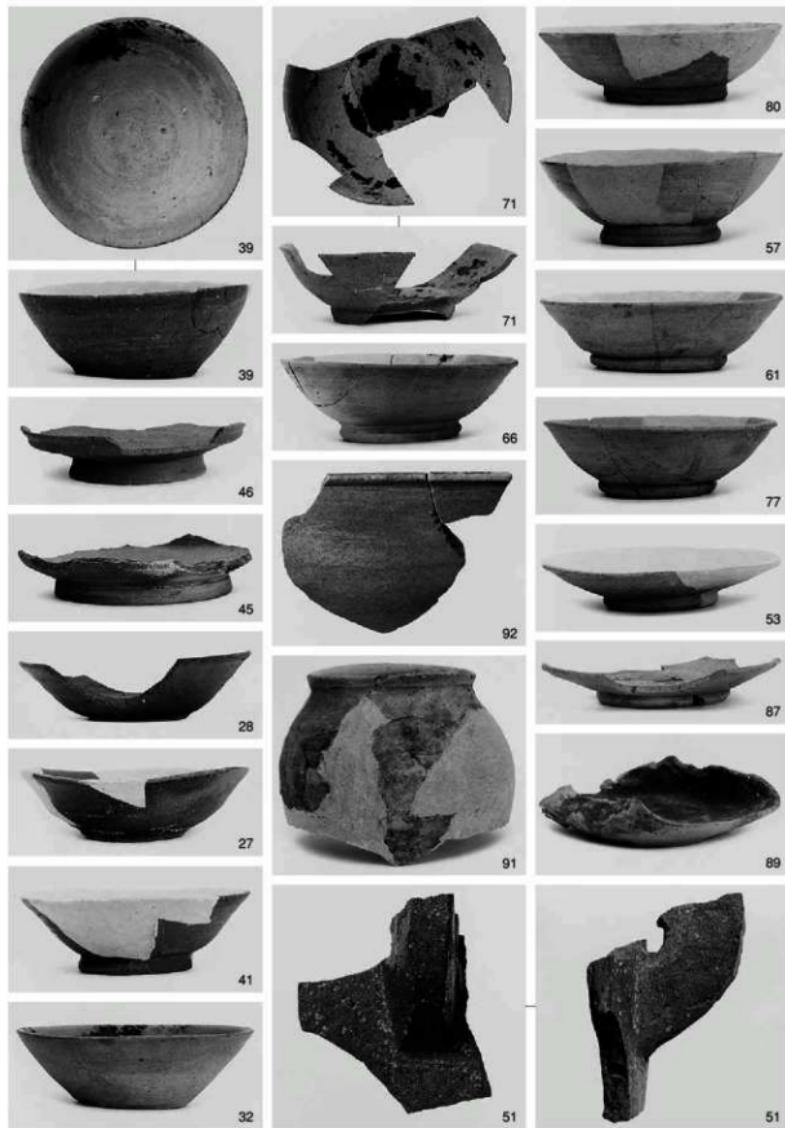


主体部入口部分 南から

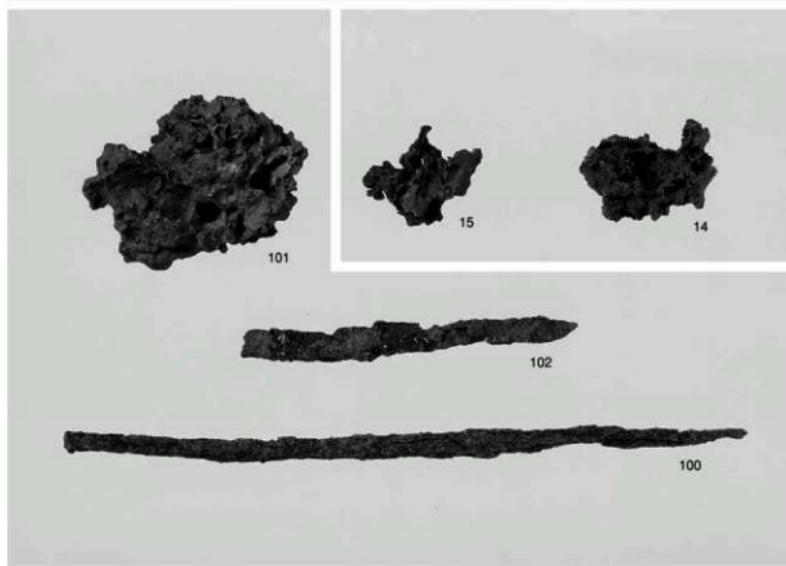
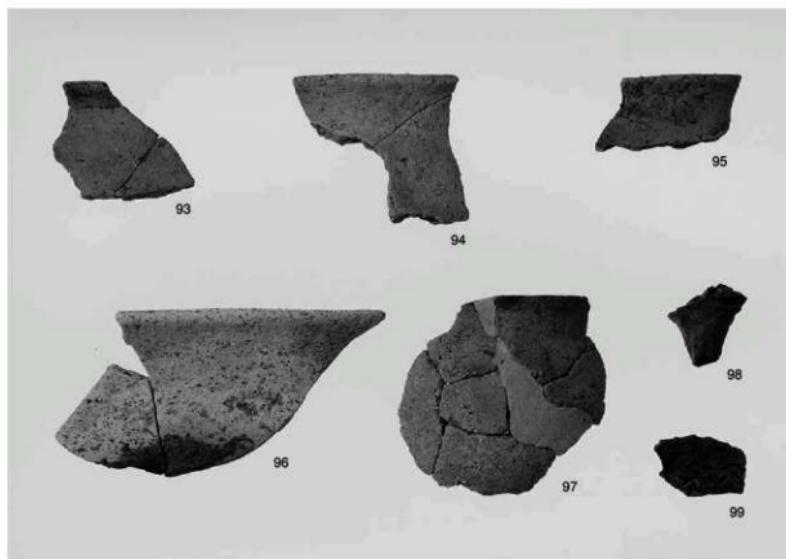
図版 10



西ヶ洞廃寺跡 出土遺物 (1)



西ヶ洞庵寺跡 出土遺物 (2)



西ヶ洞廃寺跡 出土遺物 (3)



106



105



106



105



107



108

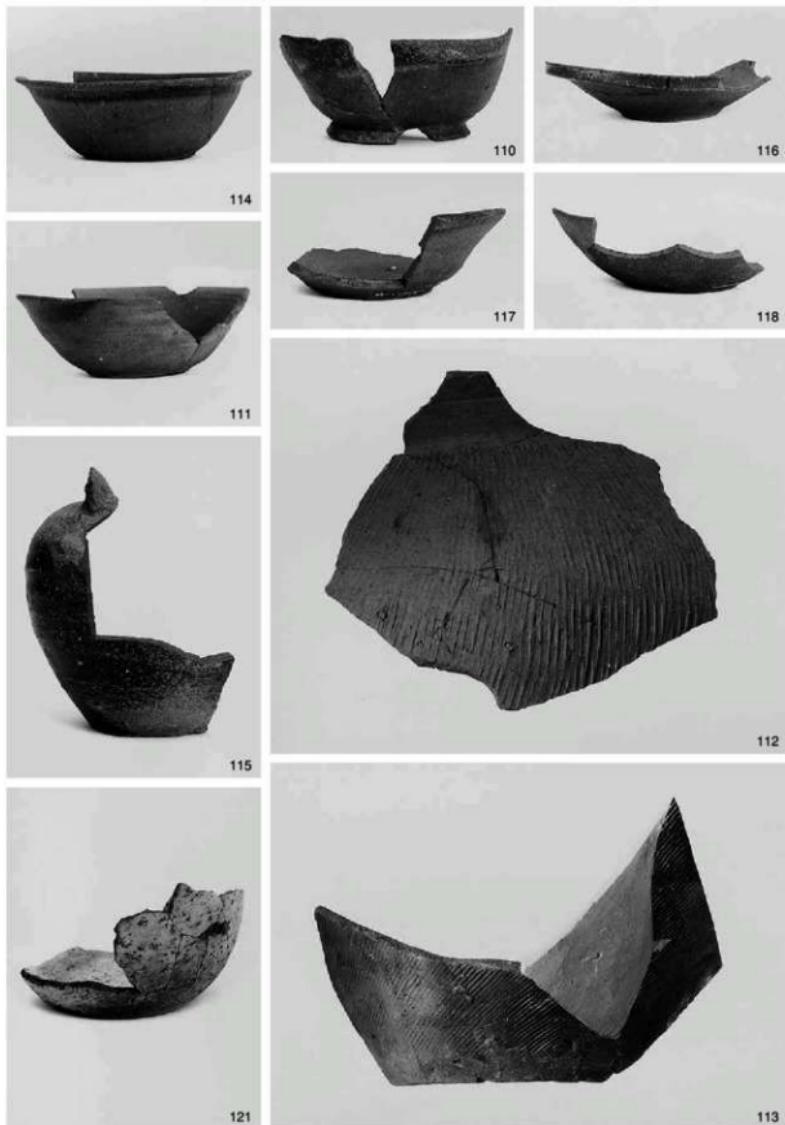


107

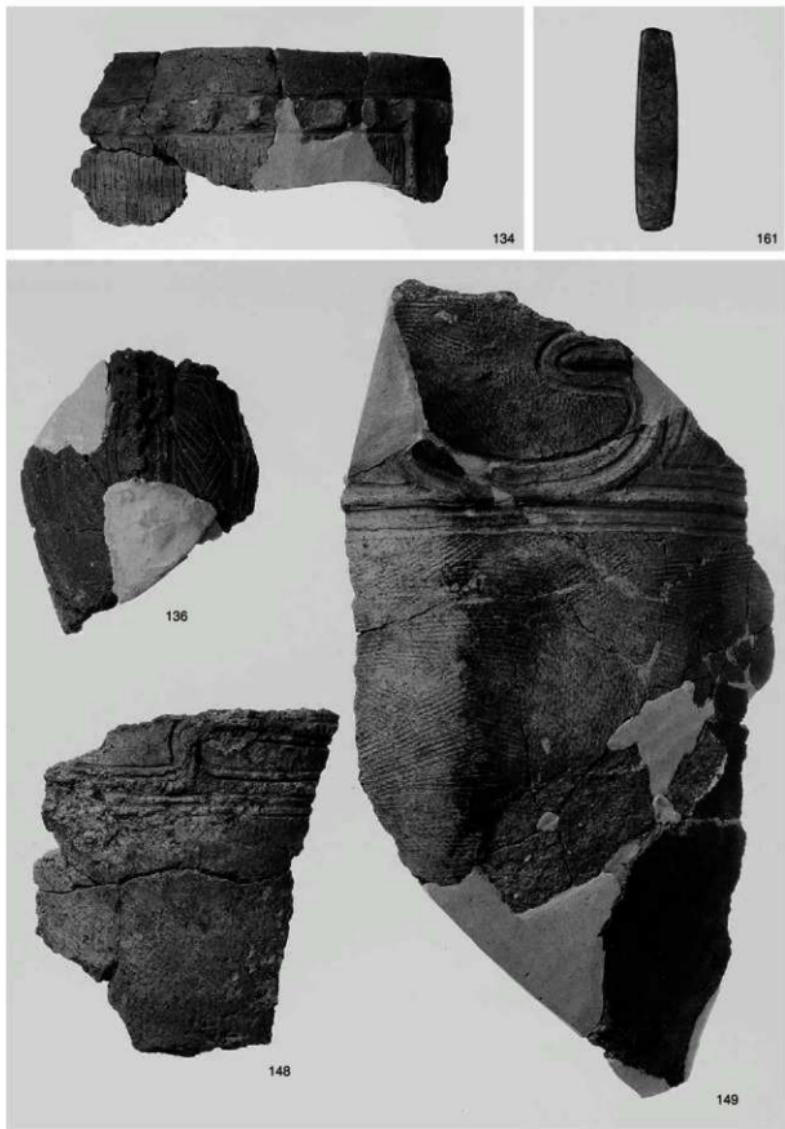


109

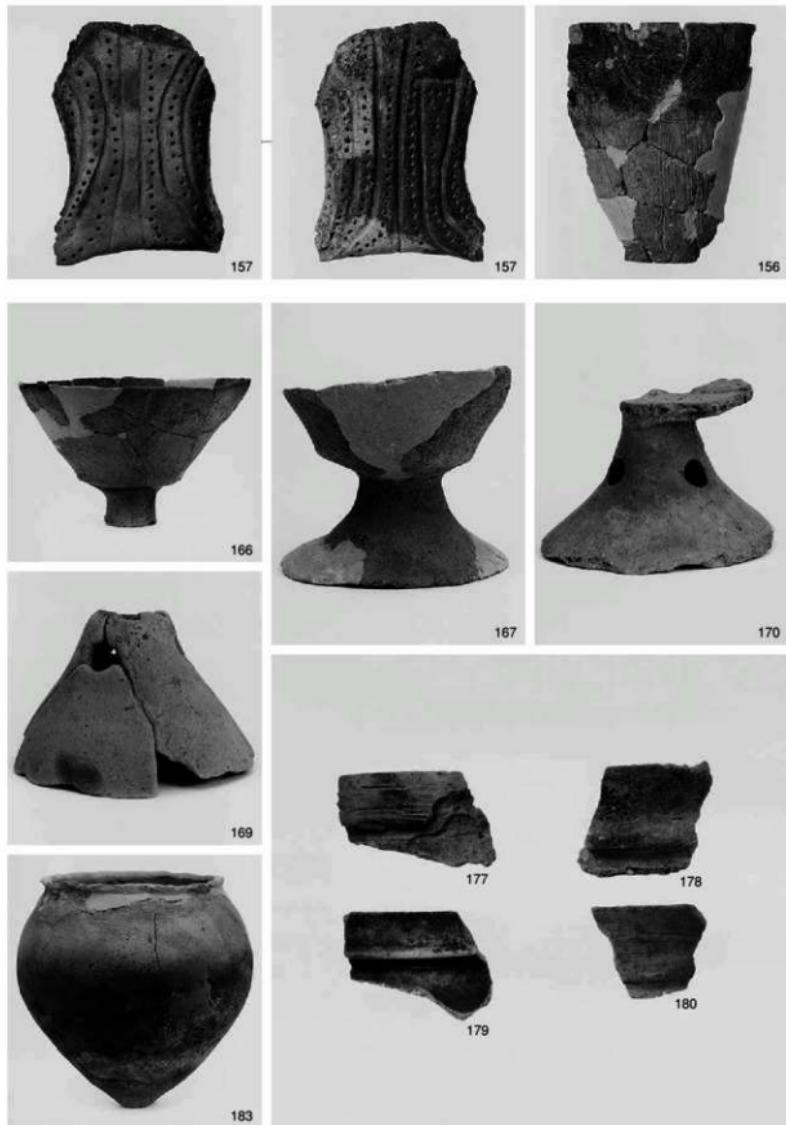
図版 14



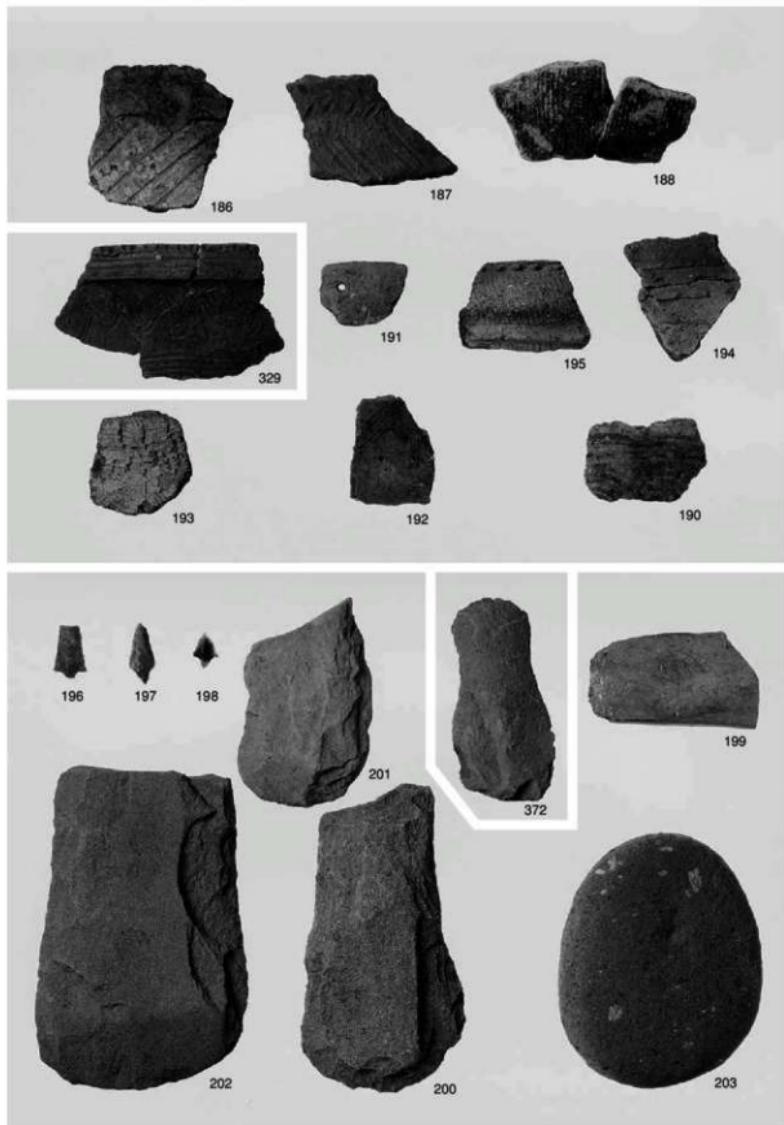
中野山越遺跡 出土遺物



中野大洞平遺跡 出土遺物 (1)



中野大洞平遺跡 出土遺物 (2)



中野大洞平遺跡 出土遺物 (3)



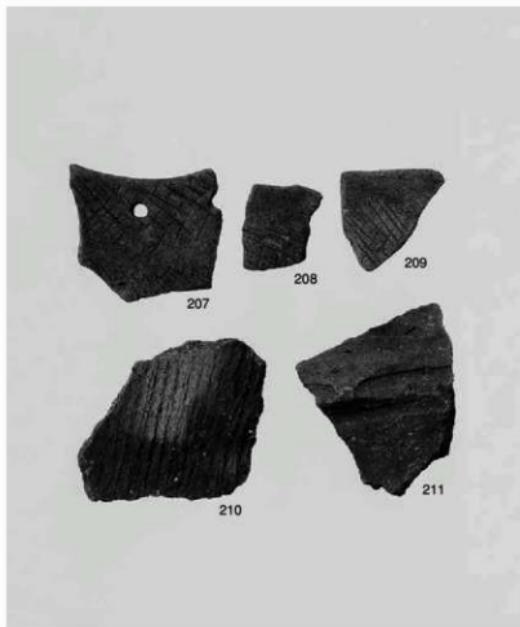
204



204



206



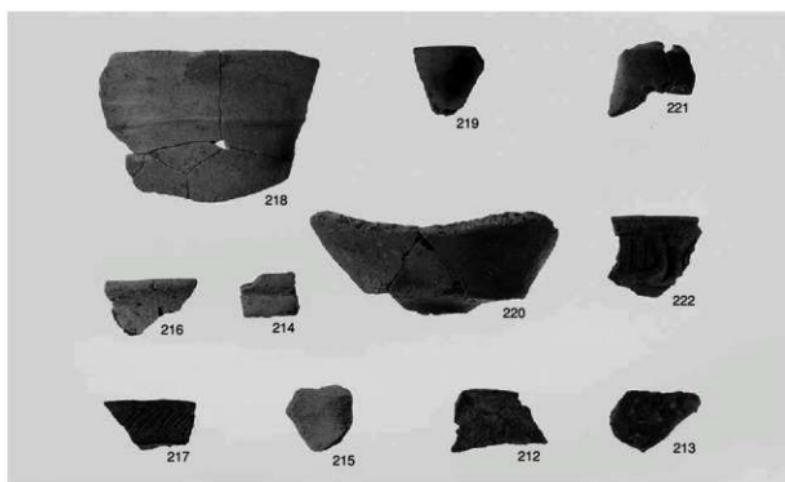
207

208

209

210

211



219

221

218

220

222

216

214

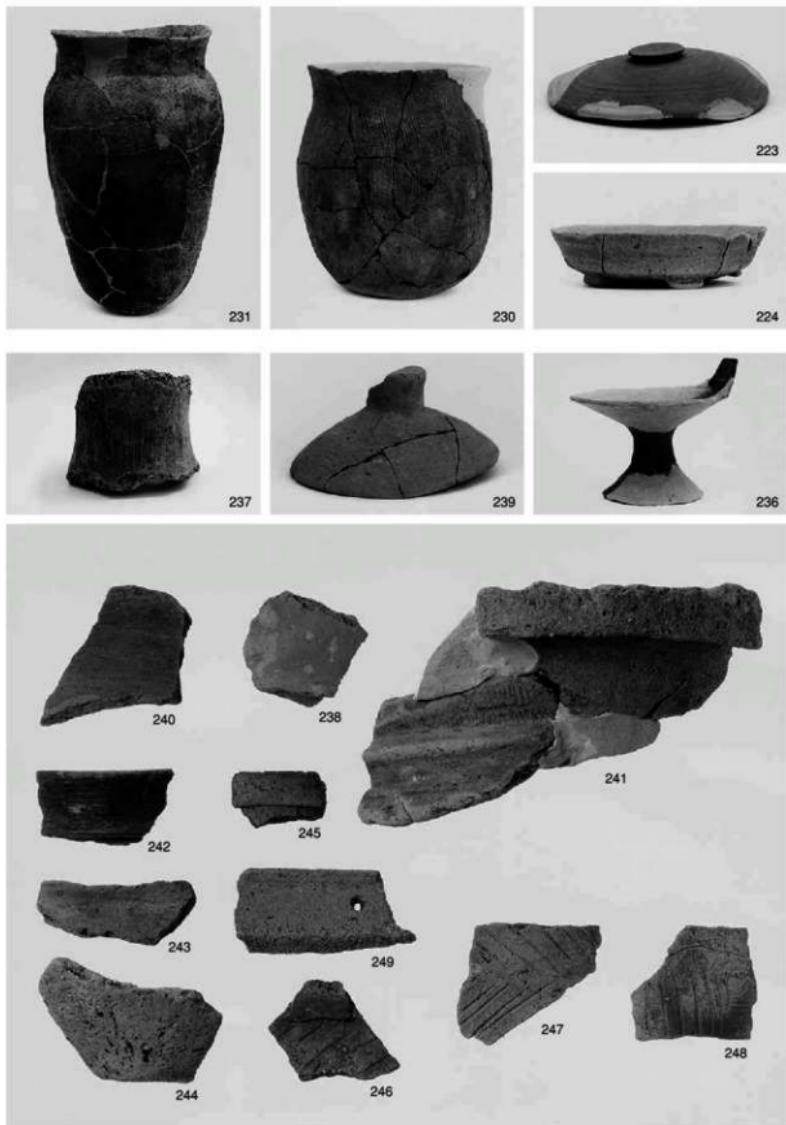
217

215

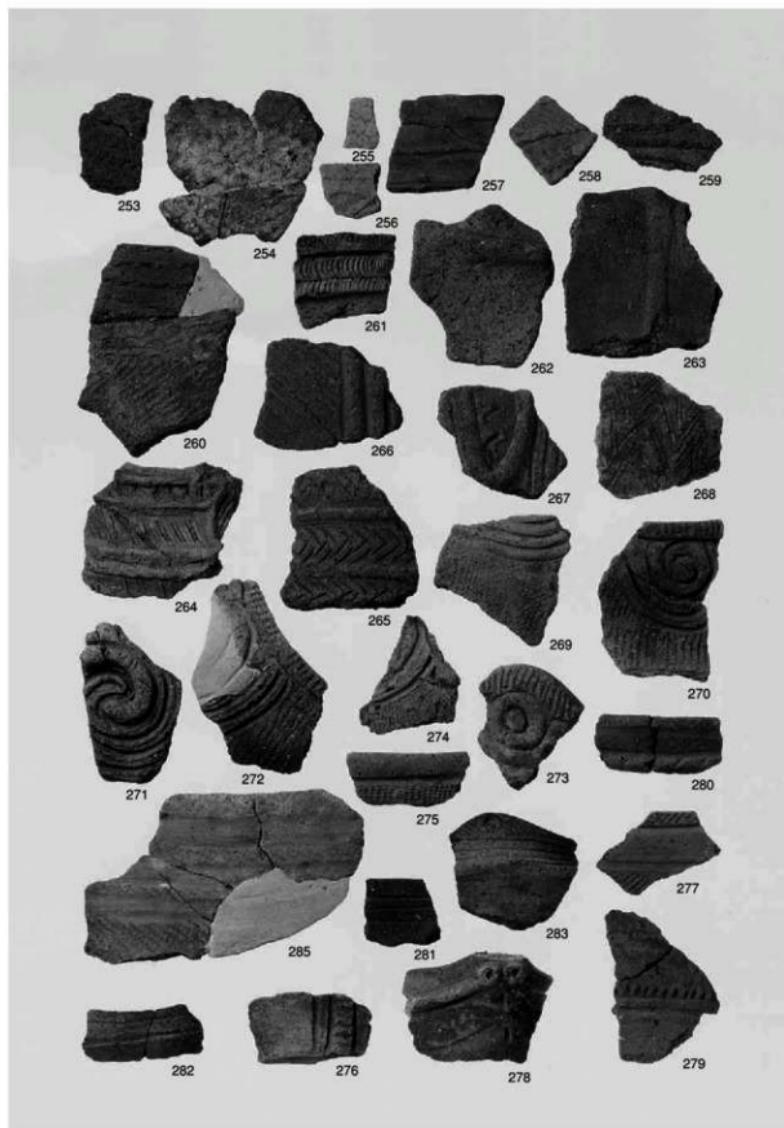
212

213

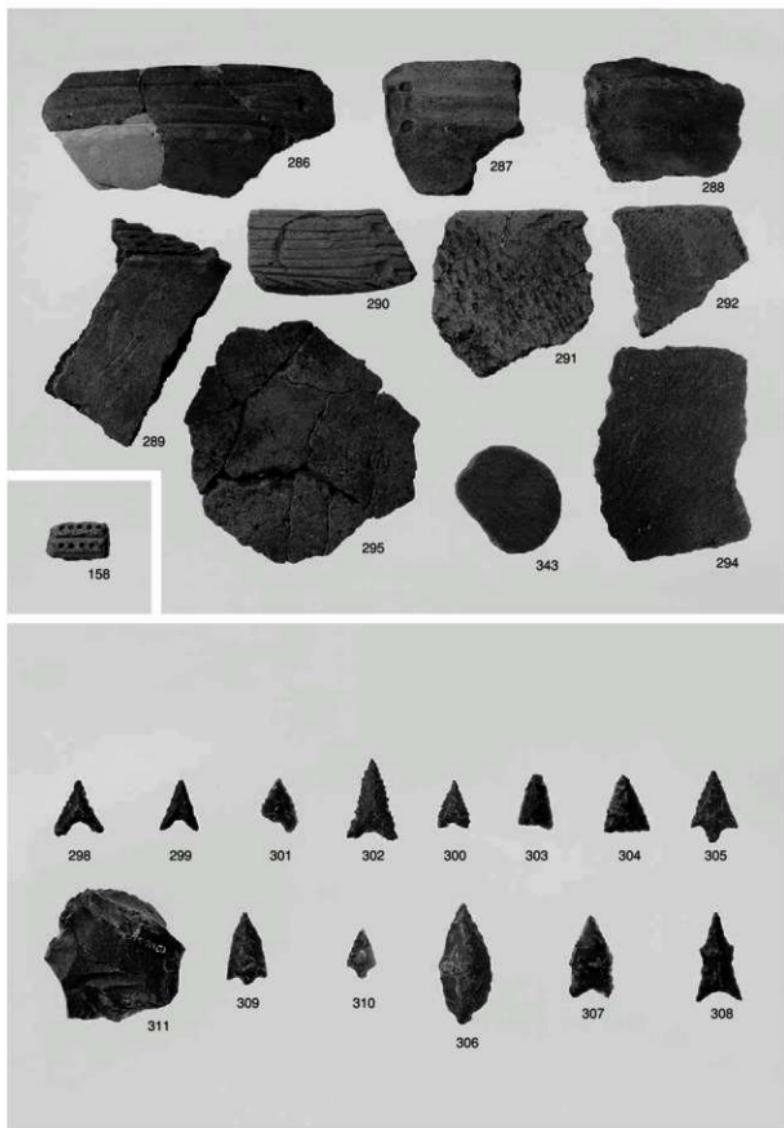
中野大洞平遺跡 出土遺物 (4)



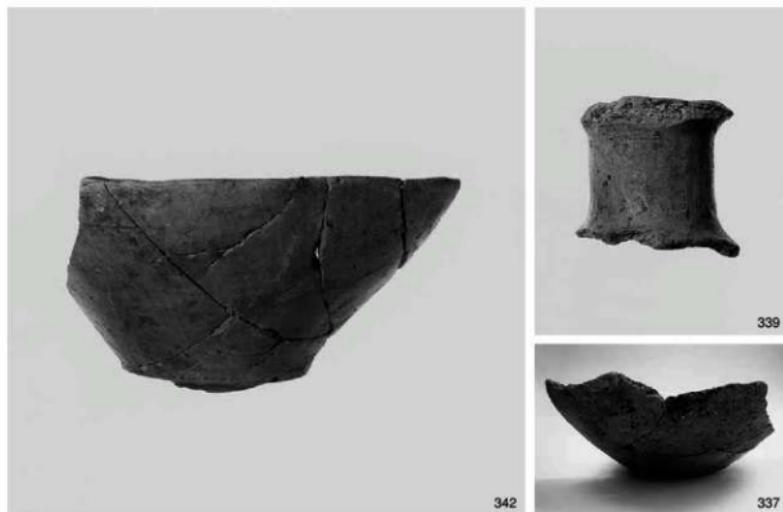
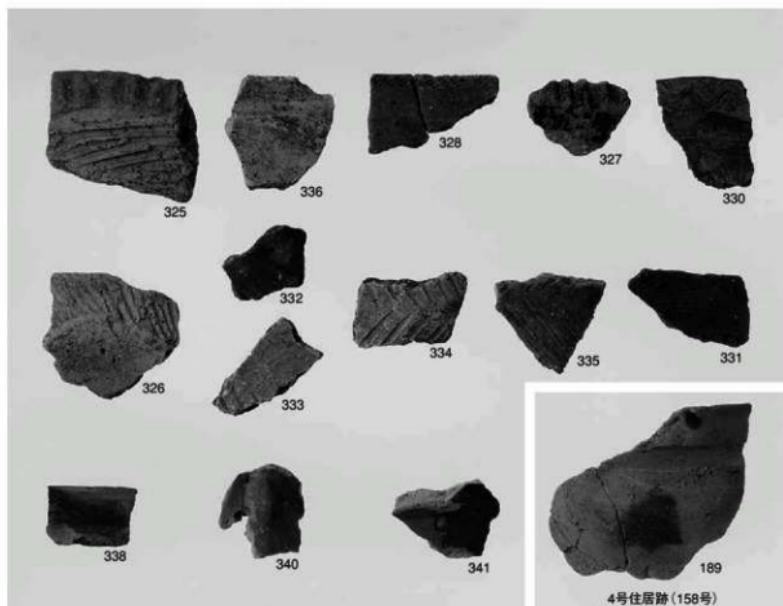
中野大洞平遺跡 出土遺物 (5)



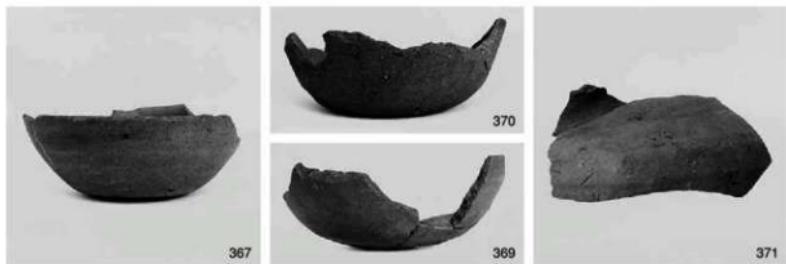
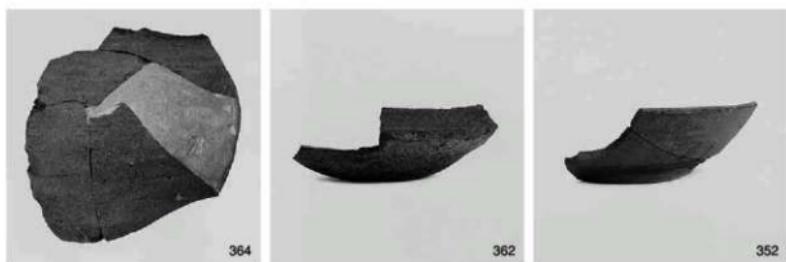
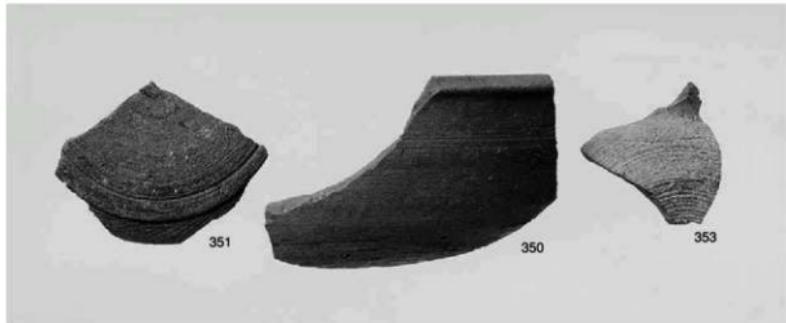
中野大洞平遺跡 出土遺物 (6)



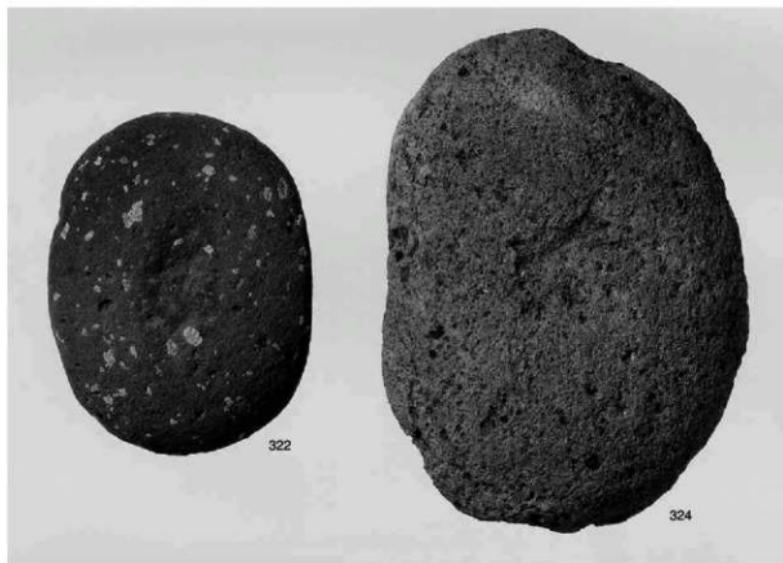
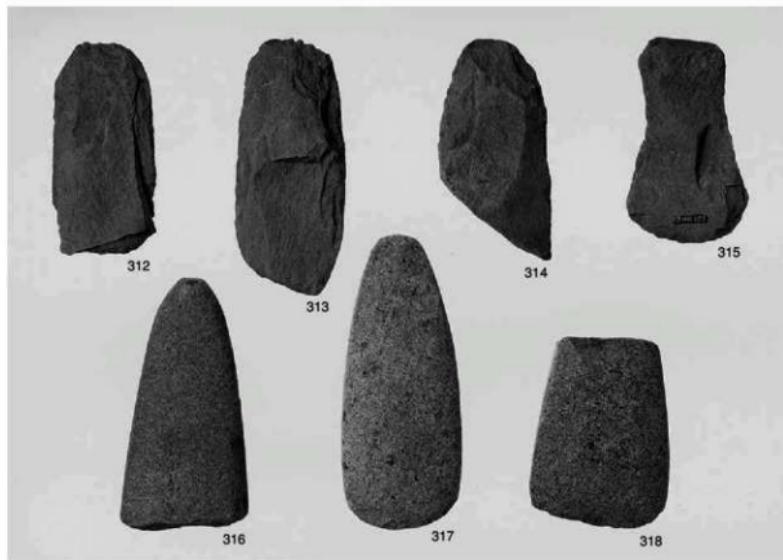
中野大洞平遺跡 出土遺物 (7)



中野大洞平遺跡 出土遺物 (8)



中野大洞平遺跡 出土遺物 (9)



中野大洞平遺跡 出土遺物 (10)



大洞平5号古墳 出土遺物

報 告 書 抄 錄

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 第98集

西ヶ洞廐寺跡・中野山越遺跡

中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳

2006年3月1日

編集・発行 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 高山印刷株式会社